

平成18年度(第50回)
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

命を大切にすることを育む 小学校道徳教育に関する研究
生命尊重にかかわる価値を高める
道徳的実践プログラムの作成をとおして

研究協力校
花巻市立八幡小学校

平成19年1月10日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
佐藤 至

< 目 次 >

研究の目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 研究内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本的な考え方	2
2 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する推進試案	3
(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道德実践プログラムの 作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案	3
(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道德的実践プログラム作成	4
3 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する推進試案に基づく指導実践と その分析・考察	5
(1) 分析・考察の内容与方法	5
(2) 指導実践記録	5
【資料1】道德的実践プログラムにかかわる諸計画立案までの概要	6
【資料2】道德的実践活動における教職員、保護者との協力体制に関する概要	7
【資料3】避難訓練に関する指導実践の概要	8
【資料4】振り返り活動に関する指導実践の概要	10
【資料5】学期のめあてに向けての取組に関する指導実践の概要	12
【資料6】縦割活動に関する指導実践の概要	14
【資料7】キャップハンディ体験に関する指導実践の概要	16
【資料8】福祉施設の方々との交流活動に関する指導実践の概要	18
【資料9】2学期の指導の方向性をとらえるまでの概要	20
(3) 指導実践の分析と考察	21
4 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する研究のまとめ	26
(1) 成果	26
(2) 課題	26
研究のまとめ	26
1 研究の成果	27
2 今後の課題	27
[おわりに]	
【引用文献】	
【引用Webページ】	
【参考文献】	
【参考Webページ】	

研究の目的

今日の少子化・核家族化、急速な情報化社会の進展に伴い、子どもたちと人や社会・自然とのかわりが希薄になり、子どもたちが生命の有限さやかけがえのなさを理解したり、実感したりする機会が少なくなっている。その一方で、子どもたちは、テレビ番組やビデオ、テレビゲーム等を通じて、虚構の世界で作り上げられた生と死に頻繁に接している。その結果、子どもの生命に対する感性や意識は貧弱なものになってきている。折しも、児童生徒によるかけがえのない命を奪う重大事件が発生している。

このような状況の中、平成10年中央教育課程審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために」において、子どもたちの「生きる力」の育成の大切さが述べられ、その重要な要素の一つである「豊かな人間性」の中で、「生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観」が掲げられた。さらに、平成16年には文部科学省から、命を大切に教育の充実を一つの柱とする「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」が提示され、教育活動全体を通じて、命を大切に心を育む教育の一層の充実が求められているところである。

命を大切に心を育むためには、道徳教育において命の大切さにかかわる内容を重点とし、道徳の時間を弾力的に扱ったり、他の教育活動を関連させたりしながら、自他の生命のかけがえのなさ、誕生の喜び、死の重さ、生きることの尊さなど、命を大切にすることへの自覚を深める学習指導の展開を工夫していく必要がある。

そこで本研究は、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおして、命を大切に心を育むための指導の在り方を明らかにし、小学校道徳教育の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

小学校において、命を大切に心を育む道徳教育の推進に資するため、生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムの在り方を検討し、実践的な指導計画を作成し提示することとする。

研究の年次計画

この研究は、平成17年度から平成18年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成17年度）

命を大切に心を育む小学校道徳教育についての基本的な考え方の検討及び基本構想の立案、推進試案の作成、推進試案に基づいた指導実践計画の立案を行う。

第2年次（平成18年度）

命を大切に心を育む小学校道徳教育の推進試案に基づいた指導実践とその分析・考察、研究のまとめを行う。

本年度の研究内容と方法

1 目標

小学校道徳教育において、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムに基づいて指導実践を行い、その分析と考察をとおして、命を大切に心を育む小学校道徳教育の妥当性について検討し、明らかにする。

2 研究内容与方法

(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成（文献法）

第1年次に作成した推進試案に基づき、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムを作成する。

(2) 指導実践と分析・考察(指導実践、観察法、質問紙法)

道徳的実践プログラムに基づいて指導実践を行い、その結果について指導実践並びに児童、教職員、保護者へのアンケート調査を基に分析・考察する。

(3) 命を大切にすることを育む小学校道徳指導に関する研究のまとめ

指導実践の成果と課題をまとめ、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道徳教育の妥当性について明らかにする。

3 研究協力校

花巻市立八幡小学校

研究結果の分析と考察

1 命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本的な考え方

「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」(文部科学省、2004)で示された三点の具体策について、道徳教育の観点から以下のように考える。

一点目の「かけがえのない命を大切にすることを育む」ためには、児童に自他の生命の大切さを実感させるとともに、「他人を傷つけない」、「自分を傷つけない」といった基本的な倫理観^{*1}を踏まえて生命を尊重する態度がとれるようにすることが大切である。そのためには、児童が自らの規範意識に基づいて「やっていいこと」と「やってはいけないこと」などの善悪を判断し、行動できるようになることが求められている。

二点目の「伝え合う力を高め、望ましい人間関係をつくる力を身に付ける」ためには、重大事件からも明らかのように、自分の感情をコントロールできないなどの自己抑制力が培われていない実態があることから、自制心^{*2}や自立心^{*3}、ストレスへの対応力^{*4}といった自己指導力^{*5}を身に付けさせていくことが必要である。さらに、児童相互の間でおきたトラブルの解決を暴力に訴える

*1 林泰成(2005)は、『指導と評価(10月号)倫理観を育てる授業』(日本図書文化協会、p.8)で倫理観について次のように定義している。「人間は、生まれつきの生理的な欲求などをもとに生きようとするが、さまざまな場所でさまざまな刺激を受けて、後天的に生きるための価値観を形成していく。そうした価値観の中で道徳にかかわるようなものを倫理観と呼ぶ」

*2 小宮山博仁(2002)は、自制心を「年齢相応の方法で自分の行動を調節しコントロールする能力(すぐれない能力)」と定義している。

「《コラム》生きる力とEQ その2 (http://kids.gakken.co.jp/campus/parents/news/n38_p6.html)」

*3 菅野勝治郎(2005)は、自立心がある状態を「自分は自分、人は人、とはっきりけじめを付けて生活できる力を持っていること」ととらえている。

「自立心を育てる (<http://www.edt.tamagawa.ac.jp/faculty/kanno/%82O502.html>)」

*4 嶋田洋徳(2005)は、児童のストレス対処能力を向上させるためには、児童を取り巻くストレスの基となる刺激や出来事(ストレッサー)を除去するのではなく、ストレッサーに対する効果的な対処方法(コーピング)を習得させることが重要であると述べている。

『「命を大切にすることを育む」をどう進めるか(教育開発研究所、p.40)』

*5 「児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)」では、「子どもの社会性を育成し、自制心や自立心、ストレスへの対応力を含む、自己指導力やモラルを高めるため、多様で効果的なプログラムなどを広く収集し、その情報を学校や教育委員会等に提供し、その活用を促進する。」とし、衝動的な行動抑制のために自己指導力が必要であると述べている。

ことがないようにするため、自分の気持ちや考えを適切に相手に伝え、生活上の問題を言葉で解決する力を育成することが重要である。自分の伝えたいことをはっきりと伝えたり、他人の話をしっかりと聞いたりする中で、他者への思いやりの心や互いを尊重し合う態度が生まれ、望ましい人間関係が築かれていくと考える。

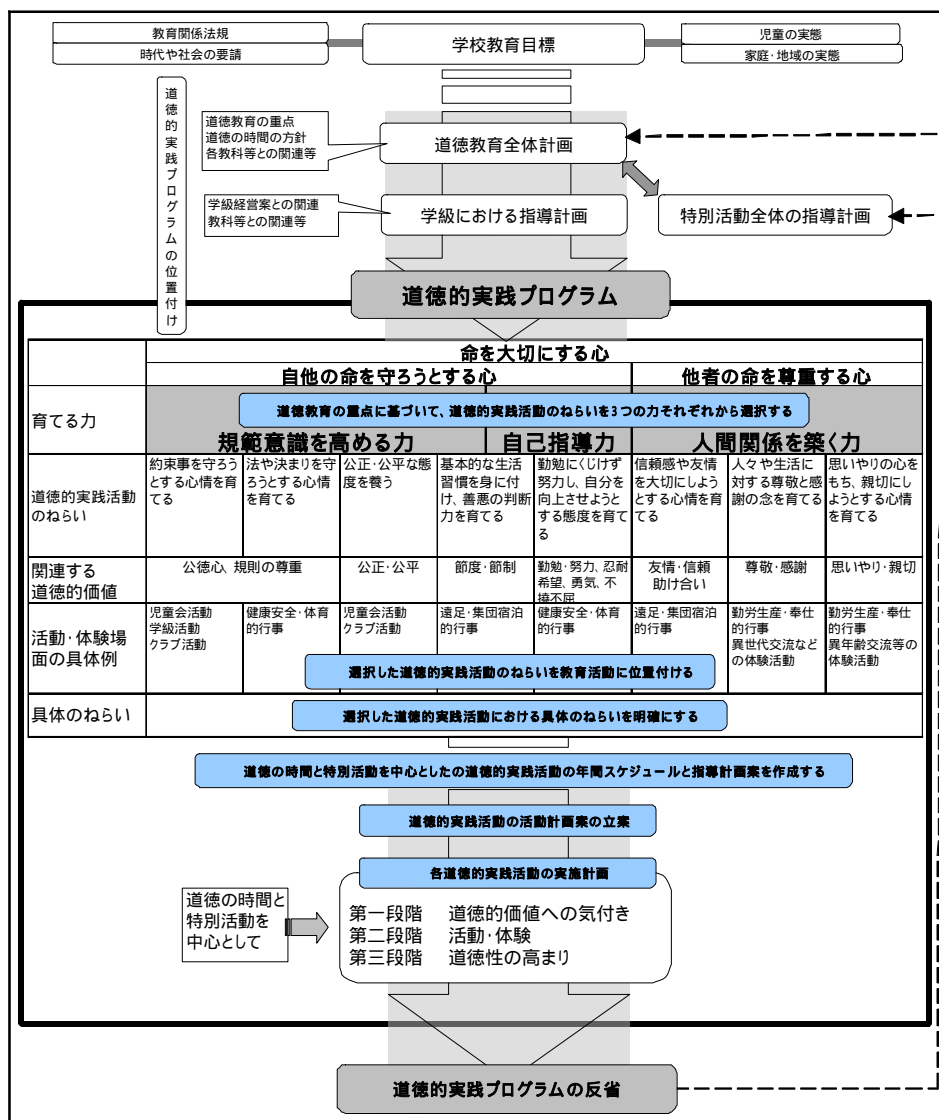
三点目の「生きる素晴らしさを体験活動を通じて実感できるようにする」ためには、子どもたちの実態として、虚構の世界で作り上げられた生と死に頻繁に接し、現実とヴァーチャルな世界との区別を付けられないといった現状があることから、体験活動を今まで以上に充実させることによって、心の絆づくりと望ましい人間関係の育成を目指す必要がある。

これらのことから、命を大切にすることを育むために、本研究において育てる力を「規範意識を高める力」「自己指導力」「人間関係を築く力」とし、その三つの力に内在する道徳的価値を生命尊重にかかわる価値とする。（詳しくは本研究第1報を参照）

2 命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する推進試案

(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をととした命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進試案

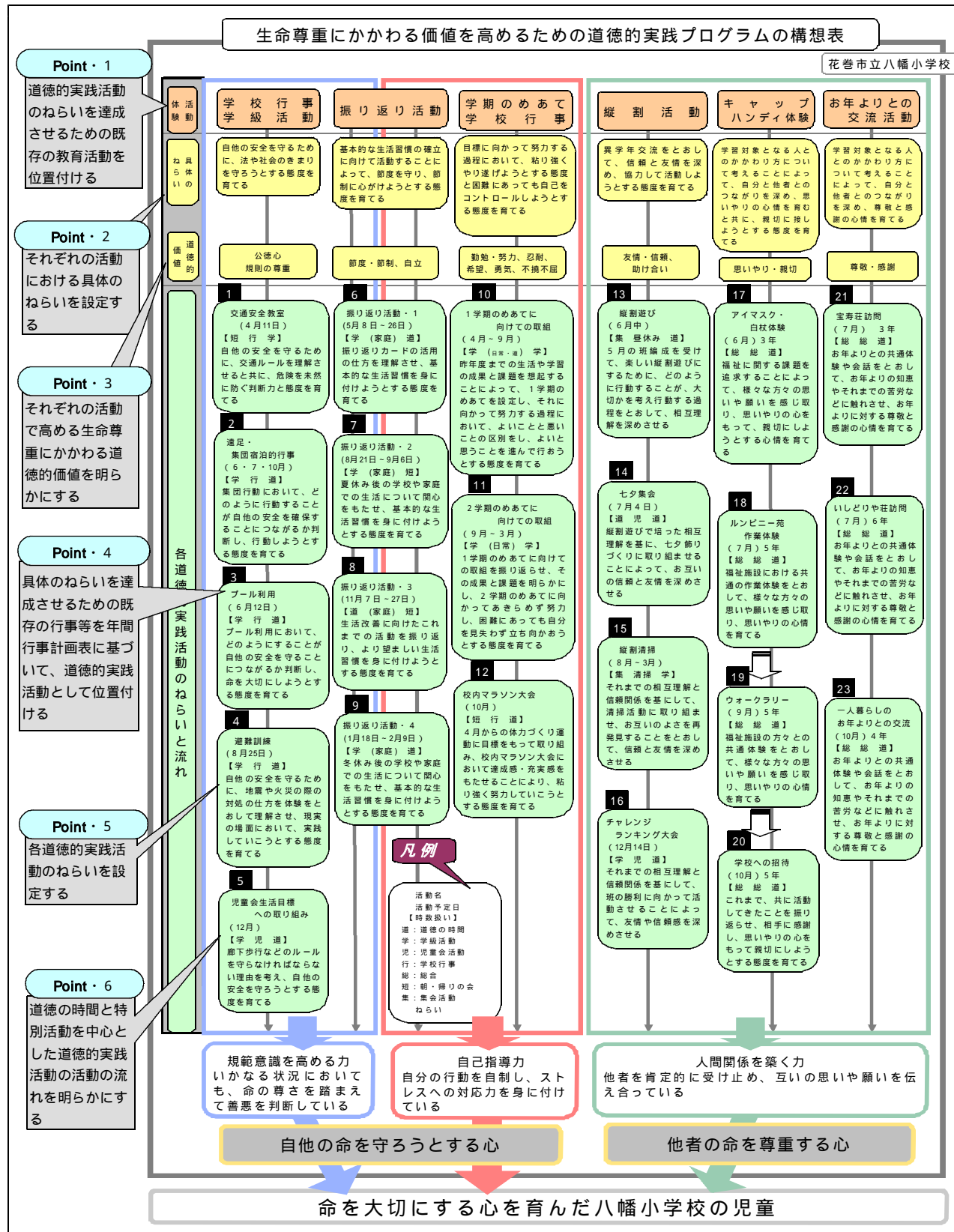
本研究第1報で示した基本構想と推進試案作成のための視点に配慮し、命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進試案を【図1】に示した。



【図1】命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進試案

(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成

「生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの構想表」を研究協力校の道徳教育全体計画と道徳教育の学級における指導計画に基づいて作成した。下の【図2】は生命尊重にかかわる価値を高めることによって「命を大切にしている心を育む」ための道徳的実践プログラムの作成の手順を推進試案【図1】を基に示したものである。



【図2】生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳実践プログラムの構想表作成の視点

3 命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する推進試案に基づく指導実践とその分析・考察

(1) 分析・考察の内容と方法

命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する推進試案に基づいて作成した「生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラム」により指導実践を行う。その後で、「生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道徳教育」の妥当性を研究協力校の児童・教師・保護者を対象にしたアンケート調査と記述内容から分析・考察する。その計画は【表1】のとおりである。

【表1】分析・考察の内容と方法

調査内容	対象	調査方法	処理・解釈の方法
生命尊重にかかわる価値に関する児童の道徳性の変容	教職員 保護者	評定尺度及び自由記述の質問紙法による意識調査を1学期末に実施(二学期制)	指導の効果が認められたか否かについての反応の割合と記述内容により児童の道徳性の変容について分析・考察する

(2) 指導実践記録

これまでの研究推進と10月までに実施した道徳的実践活動の中から、研究協力校における指導実践の概要を以下の【表2】、【資料1】～【資料9】のとおり示す。

【表2】これまでの研究推進と指導実践の概要

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二月	道徳教育に関するアンケート調査 対保護者・教職員・地区関係者(第1回目)					
三月	諸計画の整備【資料1】					【資料5】
四月	道徳教育に関するアンケート調査 対児童(第1回目)					10 1学期のめあて学活
	保護者向けリーフレット配布【資料2】					月反省
五月		【資料6】				月反省
六月		14 七夕集会 道徳		【資料7】		10 1学期のめあて道徳 月反省
七月		14 七夕集会 行事 14 七夕集会 道徳	17 アイマスク・白杖体験 総合 17 アイマスク・白杖体験 総合 17 アイマスク・白杖体験 道徳	【資料3】		月反省
八月	【資料4】			4 避難訓練 学活 4 避難訓練 行事	【資料8】	月反省
	7 振り返り活動・2 学活 中間まとめ 7 振り返り活動・2 短学活			4 避難訓練 道徳	19 ウォークラリー 総合 19 ウォークラリー 総合 19 ウォークラリー 道徳	10 1学期のめあて学活
十月	道徳教育に関するアンケート調査(第2回目)					
十一月	アンケート調査の分析・2学期の指導の重点を検討【資料9】					

【資料1】道徳的実践プログラムにかかわる諸計画立案までの概要

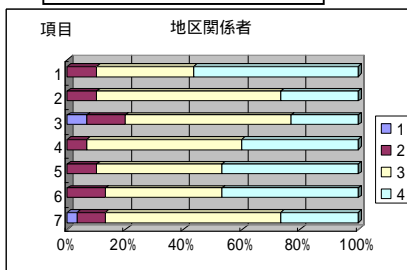
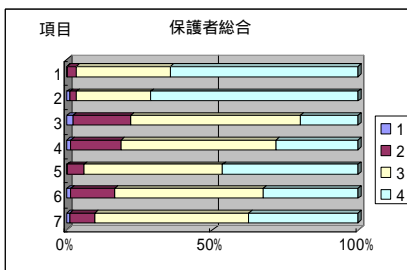
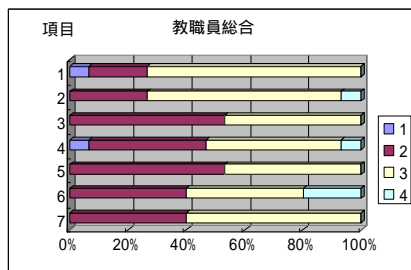
研究の基本構想・推進試案の作成 (~ H17年1月)

道徳教育に関するアンケート調査の実施 (教職員・保護者・地区関係者対象) (H17年2月)

番号	質問	1	2	3	4
1	学校や家庭におけるルールを守ろうとしていますか。				
2	法や社会のきまりを守ろうとしていますか。				
3	健康や安全に気を付け、身の回りを整え、わがまをしないで生活していますか。				
4	自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げようとしていますか。				
5	友達と互いに信頼し、友情を深め、助け合っていますか。				
6	生活を支えている人々やお年寄りに、尊敬と感謝の気持ちをもって接していますか。				
7	だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしていますか。				

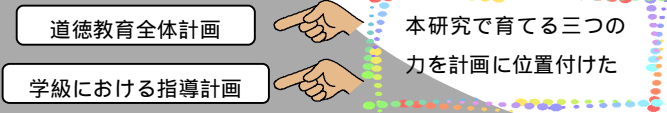
研究協力校高学年保護者を対象としたアンケート項目 (他の対象者に対しても同様の内容でお願いした)

1 : いいえ
2 : どちらかといえばいいえ
3 : どちらかといえばはい
4 : はい



保護者及び地区関係者は、研究協力校の児童の生命尊重にかかわる価値に関する実態を肯定的に受けとめている方の割合が高い。教職員の結果を見ると、**節度・節制、勤勉・努力、友情・信頼、助け合いに関する価値について必ずしも高まっているととらえていないことがわかった。**

諸計画の整備 (H17年3月)



各活動等で高める道徳的価値と道徳的実践活動との関連

道徳的実践プログラムの作成

生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの構想表	生命尊重にかかわる価値を高めるための活動を教育活動に位置づけ、 ねらいや活動の概略 を示した
道徳的実践プログラム年間スケジュール	三つの段階で進める道徳的実践活動の活動日程を示した
道徳的実践プログラムの指導計画面案	道徳的実践活動と道徳の時間及び特別活動の 年間指導計画とそれぞれの活動の関連 を示した
道徳的実践活動の活動計画面案	生命尊重にかかわる価値ごとに道徳的実践活動の 三つの段階のねらいや評価の視点 を示した
道徳的実践活動の実施計画面案	道徳的実践活動ごとにその 具体的な進め方や指導上の留意点等 について示した

添付資料として

活動シート	道徳的実践活動の内容と学年の発達段階を考慮して、活動ごとに作成した
学級活動シート	学級活動を計画している道徳的実践活動について、その時間内で使用するシートを作成した
指導略案様式	学級活動と道徳の時間におけるねらいや指導、留意点などを記入する用紙を作成した
資料分析用紙	道徳の時間が位置付けられている道徳的実践活動について、資料の分析に使える用紙を作成した
道徳的実践活動反省用紙	道徳的実践活動ごとに事後に成果と次年度改善のポイントを整理できる用紙を作成した

リーフレット（保護者向け道徳教育全体計画）の作成と配布

命を大切にすることを育む道徳教育について

本年度の道徳教育の方針
命を大切にすることを育むために
生命尊重にかかわる価値を高め
ようとするを示す

道徳的実践プログラムの概要
どのような価値をどのような活動
で高めていることとしているかを
説明

道徳的実践活動の進め方
道徳的実践活動は三つの大きな段
階を踏んで進めていくことを説明

アンケート調査の結果
保護者の方々にご協力いただいた
アンケートの結果を報告

本年度の道徳教育の方針
命を大切にすることを育むために
生命尊重にかかわる価値を高め
ようとするを示す

道徳的実践プログラムの概要
どのような価値をどのような活動
で高めていることとしているかを
説明

道徳的実践活動の進め方
道徳的実践活動は三つの大きな段
階を踏んで進めていくことを説明

アンケート調査の結果
保護者の方々にご協力いただいた
アンケートの結果を報告

命を大切にすることを育む道徳教育について

本年度の道徳教育の方針
命を大切にすることを育むために
生命尊重にかかわる価値を高め
ようとするを示す

道徳的実践プログラムの概要
どのような価値をどのような活動
で高めていることとしているかを
説明

道徳的実践活動の進め方
道徳的実践活動は三つの大きな段
階を踏んで進めていくことを説明

アンケート調査の結果
保護者の方々にご協力いただいた
アンケートの結果を報告

保護者向け道徳通信「なかま」の発行

なかま 2号

よき友達関係を築くために・・・

縦割活動のねらいと内容

道徳的実践活動13～16について示した「なかま」第2号の例 [H18年6月]

縦割活動の位置づけ
昨年度まで行われてきた縦割遊びや七夕集会などの活動を友情・信頼、助け
合いといった価値を高めるための活動として位置付け、他の活動との関連を
図りながら、「他者の命を尊重する心」の育成を目指していることを示した

「友情や信頼感を深めていくために」
よい友達関係を築くには、様々な場面での学習や生活をとおして助け合
い、理解し合うための場や機会が必要である
まず友達をよく知ること、そしてそのよさを認めること、そして信頼を基
に助け合いという双方向の流れを作ることが大切である

縦割活動のねらいと内容
異学年の交流によって、直に顔を突き合わせ、相手を思いつつ自分の意見を
表現することにより、コミュニケーション力も高まる。かかわりの中で育つ伝え
合う力は問題行動を抑止する攻めのアプローチであるといわれている

教職員向け通信「デメイタ」の発行

DEMEYTA通信

道徳的実践活動19の道徳の時間について

本時のねらいを確認

道徳的実践活動19の道徳の時間についての「デメイタ」8号の例 [H18年9月]

本時のねらいを確認

道徳的実践活動19の位置づけ
・その中における本時の道徳の時
間の位置付けについて確認
・思いやり・親切の価値について
どのようにとらえて指導に当た
ったらよいか

校内での全ての実践を全ての教
員が参観するのは無理がある。道徳
的実践活動における本時の位置付
けや指導の成果と課題については、
研究部からの通信といった形で先
生方に広められた

本時の資料について
道徳の授業を構想する上で、資料分析は重要なポイント。先
生方はどう考えますか？

授業を参観しての所感
先生と子ども達の息のぴったり合ったすばらしい授業

【資料3】避難訓練に関する指導実践の概要（4年生）

- 1 育てる力 規範意識を高める力
- 2 関連する価値 公德心、規則の尊重【4-(1)】
- 3 道徳的実践活動④のねらい
自他の安全を守るために、地震や火災の際の対処の仕方について体験をとおして理解させ、現実の場面において実践していこうとする態度を育てる。
- 4 実施期間 平成18年8月22日～9月1日

凡例

児童の反応

指導・支援

道徳的価値への気付き

学級活動

8月22日
本時のねらい：地震や火事が起きた場合の状況をとらえさせることによって、安全に避難するための方法を理解させる

指導の重点：これまで体験してきた避難訓練の様子を想起させ、いざというとき、どんな行動をとればいいのか、また、なぜそうする必要があるのでに気付かせる。

児童の実態：保育園のころから避難訓練は毎年経験しているが、これまでは、先生に言われるままに、何も考えずに行動することが多かった。また、訓練の大切さを分かって行動している子でも、ほとんどは自分が助かるために訓練していると思っている。そこで本時の学習を通して、避難訓練は自分の命だけでなく、友達の命も守るためにに行っていることに気付かせたい。

	主な学習活動	指導上の留意点
課題把握	1 これまでの避難訓練を振り返る 2 本時の学習課題を設定する なぜ避難訓練のきまりを守らなければならないのか考えよう	・避難訓練の大変さ、難しさについて、避難訓練のきまり「お・は・し・も」について、意見交流させる
課題追求	3 見通しをもつ 4 課題を追求する 班及び全体での意見交流	・「お・は・し・も」の内容を確認させ、それぞれについて、なぜ大切なのか考えさせる ・きまりを守らなければどうということが予想されるのか考えさせ、結局、きまりは何のためにあるのか、意見交流させる ・班の中での話し合いで、自己決定できない子も自己決定できるようにさせる
終末	5 避難訓練のきまりは自分の命と他人の命を守るためにあることに気付く 6 本時話し合ったことを振り返り、避難訓練のめあてを決める	・実際にあった出来事を紹介し、人がパニックになったときの状態を理解させ、訓練の大切さを実感させる ・具体的なめあてになるように助言する

児童の反応

T: 避難訓練で難しいことはありますか？
C: 静かに移動するのが難しい
C: ついついしゃべってしまう
C: ベルが鳴ると声が出てしまう
C: 前が離れると、つい走ってしまう
C: ドキドキしてきまりが守れない

T: 避難訓練のとき、どんなきまりがありましたか？
C: 「お・は・し・も」
C: 押さない 走らない しゃべらない 戻らない

T: 避難訓練のきまり「お・は・し・も」を守らないとどうなるでしょう？
C: 大変
C: 前の人を押すと、転んで、将棋倒しになってしまう
C: 下の人は大怪我をしてしまう
C: 特に階段が危ない
C: 走っても危ない
C: やっぱり怪我の原因になる
C: しゃべったって怪我はしないけど、放送や先生の話が聞こえなくなってしまう
C: どこで火事が起こったのか分からない
C: 場所が分からないと、どこを避難すればいいのか分からない
C: もどいたら死ぬかもしれない
C: お金より命が大事
T: 何のために避難訓練のきまりがあるのでしょうか？
C: 安全に避難するため
C: 命を守るため
C: 自分の命
C: 自分たちの命を守るため
C: みんなの命も

避難訓練

8月25日
ねらい：地震後の出火という想定において、事前の学習に基づいて行動し、安全な避難について体験をとおして理解させる

- 流れ：
- | | |
|-----------|-------------|
| 1 避難 | 2 校長先生のお話 |
| 3 消火器の使い方 | 4 消防署の方々の講評 |
| 5 おわりの言葉 | 6 各教室での反省会 |

指導の重点(中学年)：二つの災害における避難方法の違いを理解し、自他の安全を確保しながら避難する



活動・体験

階段の避難 → 消火器の使い方と講評

「お・は・し・も」について振り返り

一人一人が今日の活動について振り返ってみよう

児童の反応

T：身の回りにはどんなきまりや約束があるかな？
 C：廊下を走らない
 C：階段を一段抜かしにしない
 C：教室では暴れない
 T：いろんなきまりやルールがあるよね。みんなはそれらを守っていますか？
 C：守ってない・・・
 T：なんで守っていないの？
 C：面倒くさいから
 C：つい
 T：今日は、きまりについてみんなで考えていきたいと思います

道徳の時間（9月1日）
 主題名：みんなの場所を 資料名：「日曜日のパーベキュー」
 本時のねらい：社会のきまりや約束を守り、公德を大切にしようとする心情を育てる。

	主な学習活動
導入	1 身の回りにおけるきまりや約束について考える
展開前段	2 資料を読み、主人公の揺れ動く心情について話し合う (1)お母さんの自転車のかごに何度もごみが入られるのを見て、ぼくはどんな気持ちだったでしょう (2)ぼくはどんな気持ちでごみを捨てに行ったのでしょうか (3)立て札を見たのに、ごみをそのままにして行ったぼくをどう思いますか (4)空きかんを片付けるお母さんを見ながら、川原で捨てたごみのことが、ぼくの頭に浮かんできたのはなぜでしょう。
展開後段	3 避難訓練の映像を見ながら、訓練の様子を振り返り、きまりや約束を守ることの大切さについて話し合う。
終末	4 目に見えない規則（公德）にかかわる教師の体験談を話す

価値への導入を図る

避難訓練での様子を映像で振り返る

きまりを破ることは人に迷惑をかけるだけでなく、自分もいやな気持ちになる。避難訓練のきまりを破ると、自分の命だけじゃなくて人の命も脅かすことになるね。

(避難の際のアナウンスを聞く場面と階段を避難する場面の映像を見たあとで)

T：避難訓練の時には、「お・は・し・も」というきまりがありました。どうしてそういったきまりを守る必要があるのでしょうか？
 C：自分の命を守るため
 C：人の命を守るため
 T：例えば、アナウンスを聞く場面がありましたが、しっかり聞かないとどういうことになるの？
 C：放送が聞こえないと逃げ遅れる
 T：自分だけ？
 C：みんなも
 T：階段ではどうして押しちゃいけないの？
 C：将棋倒しになるから

成果

- ・第一段階の学級活動では、前回の訓練の様子を思い出させ、何が足りないのか確認することができた。なぜ、「お・は・し・も」を守らなければならないのか、意見交流することでその大切さを理解させてから、避難訓練に参加させることができた。
- ・第三段階の道徳の時間では、避難訓練での写真や移動の様子を収めた動画を提示することにより、児童はそれまでの経験と関連付けながら考えをまとめることができた。

授業者が学級の実態や資料に応じて、活動・体験を扱う場（導入・展開後段・終末）を選択できるように実施計画の形式を改めた。

課題 研究担当者による授業分析から（通信「デメイタ7号」から抜粋）

研究協議において話題になったことの一つに、本時の道徳的実践活動4における位置付けに関することがありました。道徳的実践活動4は、公德心・規則の尊重の価値を高めるために、避難訓練との関連で活動を進めてきました。

本時は、阿部先生にお願いして、展開後段に避難訓練の話題をもってきていただきました。（中略）きまりや約束事は、ごみの処理においても、避難訓練においても存在します。そしてどちらのきまりについても、破ることは自分はもちろんのこと他者に対する迷惑という形で返ってくる（公德に反する）場合があります。特に、避難訓練にあっては、他者の命を脅かすことにもなりかねません。

参観された先生方からは、展開後段ではない扱いのほうがよかったのではないかと意見も出されました。今回、道徳的実践プログラムについていただいたご意見は、今後の改善に生かしていきたいと思います。（略）

【資料4】振り返り活動に関する指導実践の概要（1年生）

- 1 育てる力 規範意識を高める力、自己指導力
- 2 関連する価値 節度・節制、自立【低・中学年1-(1)】
思慮・反省、節度・節制【高学年1-(1)】
- 3 道徳的実践活動7のねらい
夏休み後の学校や家庭での生活について関心をもたせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。
- 4 実施期間 平成18年8月21日～9月6日

凡例

児童の反応

指導・支援

事前

5月に振り返り活動・1を行い、今回は年間で4回行われる振り返り活動の中で第2回目の活動となる。

学級活動

題材名：まいにちのせいかつをふりかえろう
 本時の指導のねらい：夏休み中の生活を振り返り、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さに気付かせ、生活を改善しようとする意欲をもたせる。
 学年の重点：自分の生活習慣で、できていることががんばることに気付かせ、より生活を改善しようとする意欲をもたせる。

児童の実態：基本的な生活習慣は定着しつつある。
 個別に苦手な項目がある。
 「手伝い」をあまりしていない子が比較的多い。

主な学習活動	
課題把握	1 夏休み中の生活について交流し、「振り返り活動・1」について想起する
	2 学習課題を設定する じぶんのめあてをかながえよう
課題追求	3 夏休み中の生活を振り返って、よくできたこと、あまりよくできなかったことについて発表する
	4 5月の「振り返りカード・1」を見直し、よかったこととあまりよくなかったことを発表し、意見交流する
	5 話し合ったことをもとに、今後自分ががんばろうと考えるめあてを設定し、記入する
終末	6 本時の学習について感想を交流する

6 代表児童のめあて発表

夜、寝る時刻をもっと早くする

朝の歯磨きをもっと上手になるようにがんばる

自分の生活でよかったところ、これからのめあてを考えよう！

1 「振り返り活動・1」について思い出してみよう
振り返りカードを拡大して提示

4 一人一人が、じっくりと自分の生活を振り返ることができるようにするために

T：前までにできていたかどうかについて、思い出しながら活動シートに印をつけてみましょう（ 、 、 ）
各自記入する
T：今度は、前に使った振り返りカード・1を配ります。今自分で振り返ってもらったことが本当かどうか確かめてみましょう

「自己を振り返るといふこと」 研究担当者による授業分析から（通信「デメイタ6号」から抜粋）

・・・保護者の方々のコメントと「振り返り活動・1」の想起から学習活動をスタートし、課題を設定しました。課題追求では自分の生活を振り返って、1年生ながら客観的に自己を振り返っている子どももいて驚きました。

低学年は特に自分のいい面、よくできた面を人にわかってほしいと考える傾向が強いと思いますが、積極的に自分のマイナス面と立ち向かおうとしていました。そういった子に対して純子先生は、（なかなか言えるものではありません。よく言えたね。）とほめていました。その言葉に刺激され、いいことだけを記述していた子の中にも（自分はどうだったかなあ？）と考え始めた子どももいたものと思われまふ。

低学年の段階で全ての子どもにそういったことを求めることは必ずしもいい結果をもたらすものではないと思いますが、そういった子の存在にスポットを当てる純子先生の指導がすばらしいなあと思いました。

「胸に手を当てて、自分自身について考えさせる瞬間」

学級活動シートを本時用に改善・修正していただきました。配布と同時に純子先生が示した項目に従って自己評価。その後「振り返りカード・1」の同様の項目と比較させていました。自分の日常生活を過大評価していた子どもにとっては、自分自身の課題に気付かせるための効果的な手立てになったと思います。

今後のめあてを設定するきっかけとして、純子先生は「早起き」「早寝」「手伝い」の3つを取り上げましたが、実際に個々に考えさせたときにはその3つにこだわらずに「歯磨き」やその他の項目について設定する子がいたのは、他人事ではなく自分自身の胸に当てて考えさせる瞬間があったからだと思いました。

道徳的価値への気付き

各家庭における取組

8月21日～9月1日
 ねらい：めあてに向かって活動させることにより、生活上の問題点を解決することによる満足感をもち、
新たな課題に気付かせる
 低学年の指導の重点：家庭との連携を深めることによって、規則正しい生活を送ろうとする態度を育てる
 第1学年が基本的な生活習慣として、振り返り活動・2で取り上げた内容：

- ・朝起きる時刻 ・朝のあいさつ ・朝ごはん ・朝の歯磨き
- ・家庭学習 ・手伝い ・夜の歯磨き ・夜寝る時刻

取組を始める前に、前回の取組を振り返って、めあてを設定させる

低学年用 振り返りカード 2

めあて 朝起きる時刻を早くする。

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1週間
1 朝起きる時刻(じぶんの)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
○おきた △おきなかった												
2 朝のあいさつ(しほのひと)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
○できた △できない												
3 朝ごはん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
○食べた △たべない												
4 朝の歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
○みがいた △みがかない												
5 手伝い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
○した △しない												
6 夜の歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
○した △しない												
7 よるの歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
○みがいた △みがかない												
8 夜寝る時刻(じぶんの)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4
○まもった △まもれない												

めあてについてふりかえろう
 もんかんはる。

低学年用 振り返りカード 2

めあて 朝起きる時刻を早くする。

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1週間
1 朝起きる時刻(じぶんの)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
○おきた △おきなかった												
2 朝のあいさつ(しほのひと)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
○できた △できない												
3 朝ごはん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
○食べた △たべない												
4 朝の歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
○みがいた △みがかない												
5 手伝い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
○した △しない												
6 夜の歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
○した △しない												
7 よるの歯磨き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
○みがいた △みがかない												
8 夜寝る時刻(じぶんの)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
○まもった △まもれない												

めあてについてふりかえろう
 たいはもれた。 よるの「はみかき」と「ねるじく」をかたばるといわ。あでは、とてきいいちようした。

2週間の取組を終えたところで、教師から称揚、励ましのコメントを書く

短学活

9月6日
 本時のねらい：基本的な生活習慣に関する自分と友達の取組の様子を比較してとらえ、生活習慣を改善させようとする態度を育てる

主な学習活動

- 1 今回の取組をとらえて、改善された事例として顕著なもの、継続して取り組んでいたもの、生活態度として自己共に認めるものなどについて事前に選択し、児童に紹介する（当該学級の事例とは限らない）
- 2 「振り返りカード2」を配布し、教師によるコメントを各自熟読させ、継続あるいは改善させることへの意欲をもたせる
- 3 基本的な生活習慣については、本人のやる気次第でいつでも取り組めること、11月には今年度3回目の取組を行うことなど、今後の見通しをもたせる

成果

- ・一人一人ががんばらなければならない点に気付かせることができた。【第一段階】
- ・毎朝みんなで確認しながら、シートに ×を付けていくことにより、続けよう、がんばろうという意欲をもたせることができた。【第二段階】
- ・「前回と比べてがんばった」という児童が多かった。ポイントを絞った子にそういった意識をもつ子が多いことがわかった。【第三段階】
- ・1回目よりも今回のほうが実態を正直に出すようになったと感じた。3回目、4回目と継続させることにより、より取組の成果を高めていきたい。【全体】

課題

- ・夏休み中も取り組ませてみたが、どうしてもマンネリ化してしまう。目の届きにくい長期休業中は、ポイントを絞って取り組ませたほうがよい。

道徳的実践活動 8 振り返り活動・3

(11月)

道徳の時間

題材名：じぶんのちからで 1 - (1) 節度・節制、自立

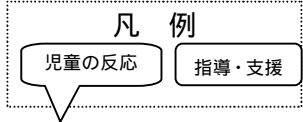
資料名：「しまのおさるたち」

本時の指導のねらい：他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さに気付き、自立する態度を育てる。

学年の重点：自分の生活習慣で、できていることとがんばることに気付け、より生活を改善しようとする意欲をもたせる。

【資料5】学期のめあてに向けての取組に関する指導実践の概要（6年生）

- 育てる力 自己指導力
- 関連する価値 希望、勇気、不撓不屈【1-(2)】
- 道徳的実践活動 10のねらい
目標に向かって努力する過程において、粘り強くやり遂げようとする態度と困難にあっても自己をコントロールしようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年4月7日～9月25日



道徳的価値への気付き

学級活動
4月7日
本時のねらい：自分の生活や学習について振り返り、その改善を図るためのめあてに向かって努力しようとする態度を育てる

	主な学習活動	指導上の留意点
課題把握	1 めあてを達成して、満足できた経験や粘り強く取り組んで成果が挙げられた例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する	5年生の時のことを振り返らせ、運動面、学習面などについて具体的な事例を挙げさせる。
課題追求	3 課題解決の見通しをもつ（解決のための方法について） ・改善点を基にして、 <u>がんばれば達成可能な点についてめあてを設定</u> することを知らせる	1 学期の自分にぴったりのめあてを決めよう ・改善点を基にして、頑張れば達成可能な点についてめあてを設定することを知らせる
	4 各自で改善すべき点を考え、それを基にしてめあてと取組の具体策についても考える（自己決定）	・改善点だけにとどまらず、今頑張っていて更に力を伸ばしたい点も含め、ふさわしいめあてを決めさせる
	5 お互いの考えを交流するなどして改善点の把握とめあての設定の仕方についてとらえる	・以前の失敗もふまえて、めあての達成のための見通しをもたせる ・活動シート、掲示用短冊に記録させる
まとめ	6 発表された内容を基にして、めあてを達成させるために大切なことは何かについて意見交流をする 7 本時話し合ったことを基に、もう一度自分のめあてと具体策について検討し、記録する（1～2つ程度） 8 本時の学習について感想を交流することにより、めあてを達成させようとする意欲をもつ	

児童の反応

運動面
・スポ少の練習を一生懸命頑張って、試合に勝つことができた
・点数をたくさん入れられるようになった
・業間マラソンで、毎日精一杯走っていたら、タイムが縮まった。楽に走れるようになった
・鉄棒の練習を毎日休み時間に行い、逆上がりができるようになった
学習面
・漢字ドリルの練習を繰り返していたら、テストでいい点がとれるようになった
・一人勉強で復習に取り組んだら、100点をとれた

・忘れないようにするために目につくところに書いて
・毎日振り返る。（反省）
・努力すること（毎日）
・一生懸命取り組むこと
・頭に入れて常に意識する

本児の1学期のめあて
漢字は習った日に練習する。
算数でわからないところがあったら、一人勉強などで、練習する。
...

6月の反省
漢字は習った日にちゃんと一人勉強をして覚えられたのでよかった。算数は、わからない所もあったけど、一人勉強をやって、覚えることができた。...

担任のコメント
確実に力を伸ばしていますね。努力の成果ですね。でも、わからない所は遠慮せずに、聞いてくださいね。自分をさらに高めていくためにもね。

月毎の反省
各月末の一週間
ねらい：月末の一週間をめあてについての振り返り週間に設定し、児童による活動シートへの記録内容を基に指導を行い、粘り強く取り組もうとする態度を育てる。

指導の手順：
振り返り週間において、各自に活動シートや日記などにめあてについて振り返らせる。
児童の記録内容を読み、個の状況に応じてコメントを加える、個別に面談する、家庭と連携を図るなどの指導を行う。
（価値に結び付く活動や様子について、通信等を活用して広める）

1学期の活動シートの例

1 学期のめあて（4月7日）
(5) 年 () 組

1 1学期のめあてを書こう(学活の勉強が終わってから)
漢字は、習った日に練習する。算数でわからない所があったら、一人勉強などで練習する。算数でわからないところがあったら、一人勉強などで練習する。
2 めあてを達成させるためには、自分なりにどのようにすることが大切と考えますか。
一人勉強などに書くことを忘れないようにすれば、めあてを達成できると思い、努力すれば、達成できると思っています。
3 4月の反省
漢字で、習った日に練習して覚えていくことができたので、算数でわからない所は、一人勉強などで練習する。算数でわからない所は、通訳の人に聞いてみる。算数、算数を、習った日に覚えてしまえば、すごい！！とてもうれしい心掛けです。
4 5月の反省
運動会下りの仕事を一生懸命やりました。自分の下り仕事に慣れるように、頑張りました。学校の先生の仕事を、委員会の仕事を責任をもち、頑張りました。運動会へ取り組みと平行して、一人勉強もがんばりました。いつも工夫してノート作りをして、心に感銘しています。
5 6月の反省
漢字で、習った日にちゃんと一人勉強をして覚えた。算数は、わからない所もあつたけど、一人勉強をやって覚えることができた。通訳の人に聞いてみる。算数でわからない所は、遠慮せずに、聞いてくださいね。自分をさらに高めていくためにもね。

活動・体験

道徳の時間

児童の反応

6月16日

主題名：生きがいを求めて 資料名：「なぜ子供は学校に行かねばならないのか」
 本時の指導のねらい：目標に向かって粘り強く取り組み、困難にあっても自己をコントロールしようとする態度を育てる

活動・体験

主な学習活動	
導入	1 なぜ学校に行かなければならないか話し合う
展開前段	2 資料を読み、話し合いの方向性をつかむ
	3 父親である「私」の気持ちの変化を考える (1)光の様子を見てどんな思いだったか (2)友達の手助けをするようになった光を見てどう思ったか (3)光が才能を生かして活躍している姿を見てどう思ったか
	4 子どもが学校に行くことの意味についてまとめる
展開後段	5 活動シートの記述内容を振り返り、自分自身のめあてに向かう姿勢について反省する
終末	6 大江光の音楽を聴く

(登場人物が才能を生かして活動している様子を見て)
 T：皆さん自身はどうですか、大江光さんのように自分を高める努力をしてきたでしょうか？活動シートを見て、4月からの自分の取組を振り返ってみましょう。精一杯がんばってこれたなぁと確認できた人？
 C：9人
 T：もっとがんばらなくてはいけないなぁと思うところがある人？
 C：10数名
 T：その中身については先生が聞くまでもありません。一番わかっているのは自分ですね。みんなでお互いを励ます拍手をしましょう。1学期が終わったときに自分も成長できたなぁと思えるように努力してほしいです



「がんばったね！と思えるように」 研究担当者による授業分析（通信「デメイタ5号」から抜粋）

授業の終末で藤原先生が「1学期の終わりを迎えたときに、がんばったねと思えるようにしてほしい」と話されました。これは、児童自身が自分の1学期の足跡を振り返って、自分自身の頑張りに対して満足感をもってほしいという先生の願いが表れた言葉でした。この言葉の裏には、もちろん先生としても「あなたはよくがんばったね！」という言葉を通じて一人一人の子どもに言ってあげたいという願いも込められていると思います。子どもたちに自分が歩いてきた足跡を振り返る習慣を身に付けさせてあげることは、とても重要なことであり、決してマイナス思考に働くものばかりではないと考えます。むしろ、明日に向かう活力を養うものであると思います。子どもたちはこれまでの学校生活を支えてくれた藤原先生に対する信頼感と困ったときには支えてくれるはずだという安心感を胸に、夏休み明けも自分のめあてに向かって努力してくれることと思います。

学級活動

9月25日

本時のねらい：1学期のめあてについての反省を基にして2学期のめあてを設定し、それに向かって粘り強く取り組もうとする態度を育てる

道徳性の高まり

主な学習活動		指導上の留意点
課題把握	1 1学期のめあてについて振り返った活動シート10や日記などの記述内容、粘り強く取り組んだ事例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する 1学期のめあての反省を基にして、2学期のめあてを考えよう	1学期の自分の取り組みについて振り返り、めあての達成に向けて、成果が表れたと思われるものを出し合う
課題追求	3 課題を解決するための見通しをもつ ・めあてを達成できたあるいは達成できなかった原因が何かを考えることが重要であることをとらえる	・めあてを達成できた、あるいは達成できなかった原因が何かを考えることが重要であることをとらえる
	4 自分のめあての達成状況とその原因を考える（自己決定） 5 各自の考えをグループで交流し合う 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する（達成状況と原因の把握について） 7 めあてを達成させるために大切なことは何かについて意見交流をする 8 本時話し合ったことを基に、2学期の自分のめあてと具体策について検討し、記録する（1～2つ程度）	・達成できたこと、できなかったことのどちらについてもその原因を探り、自分の頑張りだけでなく、自分の弱さをも見つめ直させる ・活動シート（2学期分）と掲示用短冊に記録させる
	まとめ	9 本時の課題と本道徳的実践活動にかかわる道徳的価値について振り返る（1・2年生は本時の課題についてのみ）

・めあてを忘れてしまい、達成できない月があった
 ・マラソンを頑張りとおして、タイムを縮めることができた
 ・早寝早起きをこころがけ、前よりも早く寝られるようになった（ふり返りカードに記入）

こまめに反省をすることで、意識することができた
 毎日目標をもって頑張った
 時間を有効に使って、取り組んだ
 ついめあてを忘れてしまった
 楽な道に走ってしまった
 気が続かなかった

成果と課題

成果

・児童一人一人が、自分に必要なめあてとそれを達成させるための方策を考えることにより、めあてに対する意欲が高まった。
 ・振り返りカードの教師コメントは児童の励みになり、とても有効であった。
 ・定期的に生活を見直したり、道徳の時間で登場人物の生き方に触れたりすることによって、自分自身の弱さに気づいた子もいた。自分の伸びを自覚できたとき、積み重ねてきた努力と結び付けて、粘り強く取り組もうとする態度の育成につながった。

課題

・児童の思いを記録したファイルなどを保護者の方に見ていただくことをとおして、さらに家庭との協力体制を強いものにする。

【資料6】縦割活動に関する指導実践の概要（2年生）

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 友情・信頼、助け合い【2-(3)】
- 3 道徳的実践活動 14のねらい
縦割遊びで深めた自己理解と相互理解を基に、七夕飾り作りに取り組みさせること
によって、お互いの信頼と友情を深めさせる。
- 4 実施期間 平成18年6月22日～7月14日

事前準備

七夕集会実施計画の立案と担当委員会への指導
七夕集会の諸準備に係る必要な物品等の発注・準備
必要な道具等についての児童及び保護者への連絡（通信等）

凡例

児童の言動

指導・支援

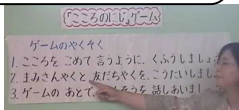
児童の反応

G・Eを取り入れた道徳授業の進め方
 インストラクション・1
 デモンストレーション・1
 インストラクション・2
 デモンストレーション・2
 エクササイズ
 シェアリング

道徳の時間
 主題名：たすけあい 資料名：「こころのにじ」（学研、2年）
 本時の指導のねらい：友達と仲良くし、助け合おうとする態度を養う。



インストラクション・1
「こころのにじゲーム」をする際の約束や注意点を確認



デモンストレーション・1
みんなで声を出してみよう



デモンストレーション・2



主な学習活動	
導入	1 友達っていいなと思ったことを発表する。
展開前段	2 資料を読み、話し合う。 3 「こころのにじゲーム」をする。 (1) 「こころのにじゲーム」をして、まみさんやひろくんたちの気持ちを感じる。 (2) ゲームをして助けたり、助けられたりしたとき、どんな気持ちだったか話し合う。
展開後段	4 友達に親切にしたり、されたりする行動について再確認する。
終末	5 「心のノート」を開き、明日から取組について確認する。

エクササイズ
全員が体験してみよう



シェアリング



友達パワーをあつめよう
『心のノート』へ



シェアリング場面での児童の発言内容

助けられたときはどう思いました？

- ・困っているときに助けてくれるのは、**本当の友達**だと思った。友達っていいなあ
- ・転んで痛かったけど、**うれしかった**（痛かったのは身体、うれしかったのは心？）

助けたときはどう思いました？

- ・友達が転んだときかわいそうだと思った
- ・「**ありがとう**」と言ってもらってうれしかった。助けてあげてよかったと思った
- ・いいことをしてよかったと思った

「心のにじ」ってどんなときかかえるのかな？

- ・いいことをしたとき
- ・ともだちをたすけたとき
- ・親切にしてくれたとき
- ・優しくしたとき
- ・心がうれしいとき

道徳的価値への気づき

活動・体験

七夕飾り作り

7月5日（3・4校時）
 活動のねらい：縦割遊びで深めた相互理解を基にし、七夕集会とそれに向けての活動をとおして、自分自身や友達の良さに気付く

進め方：七夕飾り作り
 活動前に本集会に向けての班のめあてを設定させる

- 当日
- あいさつ
 - リーダーからの活動内容説明
 - 活動
 - 活動反省
（ 日記等における振り返り）



つるを折りたい人？



活動後の感想文

六年生に天の川の作り方をおしえてもらいました。ほんのみんながきれいなかざりを作っていたので、ぼくもきれいに作るうとうとうきもちになりました。

私が、わつかを作るときまちがってやったのを六年生が直してくれました。かざるときには、六年生の さんにきいたら、こうやるんだよとおしえてくれました。私はおしえてもらってよかったと思いました。



いいかい
ここがポイントだよ



わあ、すごい
きれいにできた！



すごい、すごい
上手にできたねえ！



折りまげたときのこの
線に沿って折るんだよ

道徳の時間

主題名：ともだちっていいな 資料名：「ひろったビスケット」(学研、2年)
本時の指導のねらい：友達と仲よく助け合うことの大切さを知り、友達を大切にしようとする心情を育てる。

	主な学習活動
導入	1 八幡神社探検で見つけたありの様子を思い出す。
展開前段	2 資料を読み、プンの気持ちの変化を中心に話し合う。 ビスケットを拾ったとき、プンはどんな気持ちだったか。 「こっそり2人で食べようよ」と言われたとき、プンはどんなことを考えたか。 「2人のためにとっておいたんだ」と言われたとき、プンはどんな気持ちになったか。
展開後段	4 七夕飾り作りで、上級生や友達に教えてもらったり、手伝ってもらったりして、うれしかったことを発表する。
終末	5 「心のノート」の「ともだちパワーをあつめよう」を書く。

資料を紙芝居仕立てで紹介



役割演技 モデリング



全員が2人の役を体験



七夕飾り作りでうれしかったことを発表



今日の勉強を振り返って



児童の反応

『心のノート』
「ともだちパワーをあつめよう」(児童の記述から)

けしごむがくだけでつかえなかったとき、さんがけしごむをかしてくれました。

4年生がつるのつくりかたを教えてくださいました。ぼくはしんせつだなあと感じました。

たてわりはんのそうじでかいだんふきを5年生のさんがてつだってくれました。

ぼくが1年生でぐあいかわるかったとき、6年生のさんがかんびょうしてくれてうれしかったです。

さんにフラフープのまわしかたを教えてくださいました。わたしはすごくじょうずになりました。

課題

- ・お互いのよさに気付くためにも七夕飾り作りでは、他学年と一緒に作る場面を増やしたい。
- ・めあての把握のさせ方や取り組ませ方について、低学年という発達段階でどう支援していくべきか検討する必要がある。
- ・他の縦割活動との関連をより充実させて進めたい。

成果

- ・体験活動を取り入れることで、友達と助け合ったときの心地よさや嬉しさを感じ取らせることができた。【第一段階】
- ・資料の展開によって、友達の信頼を失いそうになったときの心について共感させることによって、助け合うことの大切さを感じ取らせることができた。【第三段階】
- ・縦割遊びや七夕飾り作りは、他学年との信頼や友情を育むきっかけになると思う。

研究担当者による授業分析から(通信「デメイタ4号」から抜粋)

展開後段では、七夕集会を終えての5名の子どもの感想を紹介しました。主に、高学年からの声かけなどに対して、優しさや親切な気持ちを受け取り、感謝の気持ちをもっているようでした。こういった気持ちは紹介された子どもたち以外にもあると思われますし、今まで漠然としていた子どもたちの心にも感謝の気持ちが沸き起こったかもしれません。こういった心情が、今後の縦割遊びや縦割清掃に生かされていくように支援していきたいものです。高学年から低学年への思い、それに応えようとする低学年のこれからの生活。ここにこそ双方向の流れが生まれ、信頼感が芽生え、助け合いへとつながっていくのではないかと考えられます。ぜひ、今回の2年生の思いが高学年にも伝わり、さらなる温かい心となって低学年に降り注がれることを期待します。終末では、「心のノート」の「友達パワーを集めよう」に記録しました。高橋先生からは、「同級生だけでなく、高学年の人の気持ちも友達パワー加えていきたいですね」という話がありました。低学年の子どもたちにとっては、人間関係を築いていく上でのパワーになることまちがいないですね。

【資料7】 **キャップハンディ体験に関する指導実践の概要（3年生）**

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 思いやり・親切【2-(2)】
- 3 道徳的実践活動 **17**のねらい
福祉に関する課題を追求することによって、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心をもって、親切にしようとする心情を育てる。
- 4 実施期間 平成18年6月5日～6月27日

凡 例

児童の反応

指導・支援

事前準備

道徳的価値への気付き

単元指導計画、評価計画の作成
児童の情報活用に係るリテラシーの把握と情報活用方法 関係機関との連絡調整
アイマスク・白杖体験のねらいや進め方に関する保護者への連絡（通信等）

児童の反応

- ・こわい
- ・真っ暗
- ・道路を渡れない
- ・道がわからない
- ・どこに何があるかわからない
- ・不安

- ・道を教えてあげる
- ・やさしく話しかける
- ・一緒に歩く
- ・助けてあげたいけど、どうしていいかわからない

総合的な学習の時間


6月5日（3・4校時）
単元名：福祉の町石鳥谷 ～目の不自由な人について～
指導計画：1 課題に出会う段階
(1)目の不自由な人のことについて、知っていることを話し合う
2 課題をいづく段階
(2)目の不自由な人の様子や思い・願いを調べる計画を立てる
(3)第一次調査を行い、課題を設定する（本時）
活動のねらい：目の不自由な人の生活について第一次調査をすることにより、単元をとおしての課題を設定させる
指導上の留意点：
・目の不自由な人とのかわりについて考えることが本単元のポイントであることをとらえさせ、思いやり・親切の価値に気付かせる

主な学習活動	
導 入	1 目の不自由な人のことについて、知っていることを話し合う
	2 学習課題を設定する 目の不自由な人の生活の様子や気持ちについて考えよう
展 開	3 視覚障害者について理解する（資料・ビデオ）
	4 目が見えない人の気持ちや願いについて考える
	5 目が見えない人への接し方について話し合う
終 末	5「心のノート」を開き、明日から取り組みについて確認する


活動・体験

アイマスク・白杖体験（総合）


6月13日（3・4校時）
指導計画：3 活動・体験する段階
(4)アイマスク・白杖体験の準備をする
(5)アイマスク・白杖体験をする（本時）
活動のねらい：アイマスクや白杖、特殊めがねなどを使って、目の不自由な人の立場を体験することにより、課題を追求させる
指導上の留意点：
・ご指導して下さる方へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点を理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート **17** に記録を取らせる
・体験を通じて感じたことや思ったことは、感想文として活動後に記録をさせる




皆さんから見ると、左声をかけられる人から見るとこちらは右ですね



どうやって腕を組んだらいいかな？



見えなからすごく不安なんだけど・・・



段差があるよ気を付けて！

主な学習活動	
導 入	1 講師の先生にあいさつをする
	2 学習課題を設定する 目の不自由な人の生活の様子を体験しよう。
展 開	3 指導して下さる先生の説明を聞く
	4 アイマスク・白杖体験 (1) 一人で歩行する (2) 2人組みを作り、誘導する側とアイマスクをつけて歩く側を体験する
	5 目の不自由な人の生活の様子や気持ちについて分かったことを発表し合う
終 末	6 「心のノート」を開き、明日からの取り組みについて確認する

アイマスク・白杖体験後の児童の感想

(略) 始めに、アイマスクをつけ、白杖をもって一人で歩きました。かんたんだなと思っていただけ、やってみるとこしのぬけたおばあさんのようになってしまいました。そういう人を見かけたときは、あんないをしてあげたいなと思いました。体験が終わったときアイマスクをはずせただけ、本当に目の見えない人ははずせないからとてまわかいそうです。

今日、アイマスクを使って歩いてみて、まっくらなところを一人ぼっちで歩いているように、とてもこわかったです。でも、人に助けてもらい、あんないをしてもらって、まっくらでも一人ぼっちで歩くよりも、あんないして歩くことができるのがわかりました。これからは、目が見えなくて困っている人がいれば、道あんないをしてあげたいです。

児童の反応

(略) さいしよに、一人で白杖を持ち、アイマスクをつけておっふくするということをしました。すくきようぶしんを感じました。こわかったです。その次に二人一組で行動するとき、安心してできました。(略)

道徳の時間

6月27日

主題名：わたしたちにできることは 資料名：「耳をおいてでかけられますか？」
本時のねらい：思いやることの意味を理解し、相手のことを考えて、温かい心で接する態度を育てる。

	主な学習活動	期待される児童の反応
導入	1 耳が聞こえない生活とはどんなものか話し合う(2年生での手話体験を想起させる)	・話していることがわからない。 ・こわい ・困る
展開前段	2 資料を読んで話し合う。 (1) 聴導犬とはどんな犬か (2) えりさんは、なぜ「外に出かけるとき、耳をおいて出かけられますか？」と聞いたのだろう (3) 「犬を連れてくるなんてー」といやな顔をされた時、えりさんは、どんなことを思っただろう	・耳が聞こえない人のお世話をする犬 ・音を教える犬 ・電話やチャイムが鳴っても聞こえないから ・後ろから来る車のクラクションも聞こえなくて危ないから ・迷惑なんかかけていないのに ・聴導犬のことをみんなにもっとほしい
展開後段	3 聴導犬や盲導犬を連れてくる人に会ったら、どうしてあげたらいいだろうか 4 体の不自由な人について、分かったことを発表し合う。(宝寿荘訪問やキャップハンディ体験とも関連させて、人との接し方を考えさせる)	・見守る ・大きな声を出したり、さわりに行ったりしない ・白杖をもっている人がいたら、道案内をしたり、手をかしたりしてあげる
終末	5 相手の気持ちを考えて行動することについて考えをまとめる(参考「心のノート」P38～41)	

(白杖体験の写真を提示) 目が見えないって、どんな思いをするんだっけ？



- ・真っ暗な倉庫にいるみたい
- ・こわい、危ない
- ・寂しい
- ・人にぶつかるかも【体験の想起】

(宝寿荘訪問の写真を提示) 宝寿荘には、車椅子の人や体の不自由な方がいましたね。



みんなにできることってどんなことだろう？

「思いやりとは？」 研究担当者による授業分析 (通信「デメイタ4号」から抜粋)

「聴導犬、盲導犬、介助犬などを連れてくる人にあったら、どうしてあげたらいいでしょう。」といった先生の発問に対して、子どもたちは積極的に発言をしました。「手伝いたいけど手伝えない」「見守ってあげたい」「手話でがんばってくださいと話す」「心の中でさよならを言う」「近くで見守ってあげる」「そっと手伝ってあげる」「心の中で気を付けてと言う」など…。子どもたちは、これまでのキャップハンディ体験とおして、障害をもった方々に対してどのように接することが大切なのかということをとらえていたようです。特に、犬とかかわっている障害者の方の場合は、両者の関係にも配慮することが求められるということも子どもたちは、分かっているようです。親切な行動というのは、こちらの一方的なとらえや思いによって行動することではないのだということ。3・4年生の指導要領解説 2-(2)には、「親切にするという行為も相手のことを考えたものになるよう指導していくことが大切である。」という記述が見られます。

そういった意味においては、先生から「どうして障害をもった方々を見ても見守るなの？」「どうして心の中で言うの？」「どうして手伝いたいけど手伝えないの？」と聞いてあげることも児童の考えを深めるために有効かと思えます。

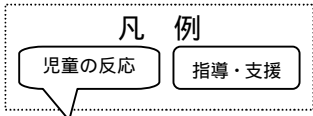
成果

- ・低学年で学習した手話体験などを想起させ、目の不自由な人の様子について知っていることなどを話し合った。目の不自由な人と直接会ったり、話をしたりしたことのある児童はいなかったため、調査活動は有効であり、一人一人が単元の課題を理解することができた。
- ・実際に体験することにより、目の不自由な人の気持ちや苦勞を感じることができた。また、身体の不自由な人に出たら、自分達は何かができるのかと言う問いかけに対し、一人一人ができることを真剣に考え、次時の道徳の時間につなげることができた。
- ・福祉体験の前後に段階的にねらいを設定して指導にあたったので、子ども達の心情にせまった学習を進めることができた。

課題 ・第3学年では、老人福祉施設の訪問も行ってきている。次年度以降そちらとの関連も検討していく必要がある。

【資料 8】福祉施設の方々との交流活動に関する指導実践の概要（5年生）

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 思いやり・親切【2 - (2)】
- 3 道徳的実践活動 19のねらい
福祉施設の方々との共通体験をとおり、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心情を育てる。
- 4 実施期間 平成 18 年 9 月 5 日～9 月 15 日



事前準備

単元指導計画の作成 関係機関との連絡調整
福祉施設の方々との交流のねらいや進め方に関する保護者への連絡（通信等）

道徳的価値への気付き

ルンビニー交流 の課題を立てる（総合）

9月5日（3・4校時）

単元名：ルンビニー交流をしよう(30)

指導計画：1 課題をいいたく段階(1)

(1)ルンビニー交流（ウォークラリー）の課題を立てる(13/30 本時)

活動のねらい：ルンビニー交流 の反省を基にして、障害のある方々とウォークラリーをする際にどのように接したらいいか考え課題を設定させる

指導上の留意点：・ルンビニー交流 における体験とその反省を基にして、新たな課題設定をさせる
・今回の交流はウォークラリーであることをとらえ、その際に障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかを考えることにより、思いやり・親切の価値に気付かせる

	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 ルンビニー学園の職員の方のインタビューのビデオを見る 2 学習課題を設定する	・職員の方のインタビューをよく聞き、内容をしっかりとらえると共に、聞こえてくる音にも注意を向けさせる
展開	3 学級のみあてを立てる 4 活動班ごとに、めあてを立てる 5 個人のみあてを立てる	・学級会形式で話し合うことで意欲化を図る ・班ごとに話し合いながらどんなことに気を付けて活動すればよいか確認し合う ・前回の活動の反省を踏まえ、個人のみあてを立てさせる
終末	6 ルールやマナーについての確認をする	・敬語を使うこと ・自分達が楽しむだけでなく、一緒に楽しもうという気持ちをもつこと等、大切なことを一つ一つ板書しながら確認する

ルンビニー交流 （総合）

9月11日（3・4校時）

指導計画：3 活動・体験する(4)

(1)ルンビニー交流（ウォークラリー）の計画、準備をする(14,15/30)

(2)ルンビニー交流 をする(16,17/30 本時)

活動のねらい：障害を持った方々と共にウォークラリーを行い、障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかということに関するめあてをもって、課題を追求させる

指導上の留意点：
・入所されている方と職員の方々へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点と有事の際の対処方法について理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート 19 に記録を取らせる



活動・体験

	主な学習活動	指導上の留意点
導入 3分	1 課題を確認する	・個人、班、学級のみあてを確認し、活動への意欲化を図る
展開 77分	2 ウォークラリーをする	・巡視しながら、安全に活動するよう促す。 ・めあてを意識するよう声かける
終末 10分	3 活動を振り返る	・めあてが達成されたか、また、達成されなかったのはなぜか考えさせ、次回の交流会への方向付けを図る

道徳の時間

9月15日

主題名：心の温かさにふれて 資料名：「思いもよらぬできごと」

本時のねらい：だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる

	主な学習活動と児童の反応	指導上の留意点
導入	1人が困っているのを見かけたときの経験について発表する	・自分の経験を話させることで主人公の気持ちへの導入を図る
展開前段	2資料を読み、「わたし」の気持ちについて話し合う (1)うろたえているおばさんを見て、「わたし」はどう思いましたか (2)おばさんからもらった袋を開けたとき、「わたし」はどんな気持ちになりましたか (3)「わたし」がおばさんを「すばらしい方だ」と思ったのはなぜですか (書く活動を取り入れる)	・アルバイトの仕組みにも触れながら、列に並び、前の人がもたついたときの イライラした気持ちに共感 させる ・おばさんの優しい気持ちを「わたし」はどう受け止めたかに着目し、優しさについて考えを深めさせる ・「おばさん」から「あの方」と言い方が変わっていることにも注目させ、最初の頃と気持ちが変化してきていることもおさえる
展開後段	3これからの生活について考える これから困っている人を見かけたとき、どんな気持ちで接していこうと思いますか	わからないことがあるようだったら、 相手のことを考えて、親切に教えてあげる
終末	4ウォークラリーを終えた後に児童が書いた体験文を紹介する	自分のためではなく、 助けられる人のことを考えて手助けする

道徳性の高まり

「歩くペースを合わせながら、協力し、楽しく交流しよう」をめあてに、班のめあて、個人のめあてを基にして取り組みました。私は、積極的に話しかけようと思い、初めてのウォークラリーをルンビニーの人達と楽しみました。はじめは話しかけながら歩くチャンスがつかめませんでした。歩くペースは最後のほうの人の横について歩いたのでよかったです。だんだんと問題を解いていくうちに、話しかけられるようになりました。勇気を出して話ができ、すこく楽しい気持ちになりました。だけど、返ってくる言葉が静かだったので、残念だったけど、あきらめない気持ちが出てきました。答えあわせでは、さんが、教えてくださった答えが合っていたので、近くで拍手ができて、さんはとても喜んでいるようでとてもよかったです。

おやつの時間、同じグループの人がおやつをもらっていないだったので、自分の分を渡してあげることができました。自分でも役に立ったような気がしました。この二回目の交流でルンビニー学園のことがよくわかったのでよかったです。それに、一回目の交流のときより積極的にかわかって、一緒にウォークラリーを楽しむことが一番よかったですと思います。この交流に向けて立てた学級のめあては、達成されたのではないだろうか。これからは、障害者の人達との交流は続けていきたいし、ルンビニー交流で分かったことを生かして、今度また会う機会に生かしていきたい。そう思います。

成果

- ・前年度のインタビューのビデオを見せたことにより、**体験全体のイメージ**をもたせることができ、学級や個人のめあてを設定させるために有効であった。【第一段階】
- ・第一段階において、**学級・班・個人のめあてを設定**させることにより、ウォークラリーでの活動が意欲的に行われていた。【第二段階】
- ・**道徳の時間の終末**において、それまでの体験活動について振り返らせることにより、思いやり・親切についての価値意識が高まり、**次の交流活動への意欲**につながった。【第三段階】

課題

- ・第一段階の活動では、図書やインターネットの活用についても検討し、広い視点から道徳的価値に気付かせたい。
- ・道徳の時間の資料については、体験内容と関連が深いものを選択することも検討したい。

研究担当者による授業分析から（通信「デメイタ8号」から抜粋）

学習指導要領解説道徳編には、「よい人間関係を築くには、さらに、相手に対する思いやりが不可欠である。それは、具体的には**温かく接すること**や、**相手の立場に立った励ましや援助**などを含む親切な行為とならなければならない。」とあります。

5年生の児童は、この資料をとおして**親切な行為とはいかなるものか**について、考えを深めることができたようです。このことは、この資料を使った道徳の時間が単発で行われるのではなく、**総合的な学習の時間におけるルンビニー交流があったからこそ、深めることができたもの**と思います。

成果と課題

【資料9】2学期の指導の方向性をとらえるまでの概要

第2回 道徳教育に関するアンケート調査をどう受け止めたか

(H18,11月)

校内研究会での確認事項(校内研究会資料から)

改善の方向性を探るために(教職員、保護者の方々の声から)	改善が望まれる事項・内容・指導	これまでに効果があったと思われる指導	今後の道徳的実践活動
德育	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なまじりを日常生活から導き出す指導 個別の支援が必要な児童 なぜまじりを守ることが大切なのかという意義理解 ストップが外れやすい実態 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通して実際の場面での指導 	5 児童会生活目標に向けての取組
節度・節制	<ul style="list-style-type: none"> 日常的指導における指導の在り方 具体的にどういう行動が節度あるといえるのか、範を示していく。 個別支援が必要な子、善悪の判断力が弱い 自分のめあてを把握していない(保護者から) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と協力しながら、基本的な生活習慣の確立 振り返りカード等でごんばっている子の紹介 カードを提示することで意識を高めることはできる。 振り返りカードの効果は高い(保護者) 	8 振り返り活動3 9 振り返り活動4
勤勉・努力	<ul style="list-style-type: none"> 困難な体験を乗り越える経験をさせることによって、充実感をもたせたい。 めあてについてマンネリ化しない取組 がんばる意味、がんばり方の方法などをしっかり持たせる。 個人差にどのように対処するか 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の励ましは自分のよさやがんばりに気づかせるという点で効果的 	11 2学期のめあてに向けての取組
友情・信頼・助	<ul style="list-style-type: none"> 共感的人間関係を作る学級づくり 自己満足感、実行力などを育てなければ信頼や助け合いにはつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割遊び、縦割清掃 高学年ではリーダーとしての心構え指導によって、自信をもたせることができた。 本校の取組に対し、たくさんの保護者から好評を得ている。 	15 縦割清掃 16 チャレンジランキング大会
思いやり・親切	<ul style="list-style-type: none"> 思いやり・親切について普段から考えさせる指導とふさわしい行動をさせる指導 ペースの合わない子への配慮が足りない。自分から気づく子になってほしい(保護者) 	<ul style="list-style-type: none"> いしどりやまつり、敬老会、交流学習などの機会設定 お年よりとの交流、障害をもっている方々との交流の場(家族や近所のお年寄りに対する接し方に変化がみられた) 本校の取組に対し、たくさんの保護者から好評を得ている。 	20 学校への招待(5年生)

公德心・規則の尊重、友情・信頼、助け合い、思いやり・親切については、教職員及び保護者によってこれまでの指導の効果が概ね認められている。ただし、自由記述を見ると課題点も残っている。縦割遊びや福祉体験等については、本校の教育活動の中でも特に保護者から好評を得ている。節度・節制、勤勉・努力については、十分な指導の効果が出ているとは言いがたい状況である。児童の自己評価と全く反対の結果となっていて、今後指導の重点とすべき項目である。思いやり・親切に関しては、児童の「自分とペースの合わない子への配慮が足りないのではないか」といった保護者からの指摘があり、節度・節制なども関連して気を付けていきたいポイントである。各項目共に各学年の実践で、効果があつたと思われる指導の手立てが明らかになっているので、他の学年も参考にしながら、2学期の指導にあたっていく。

アンケート調査の結果をどのように指導に生かすか

アンケート調査の結果を基に、どのように学級全体の指導改善を図るか

道徳教育に関するアンケート調査の結果を受けて、どのように指導改善を図るか

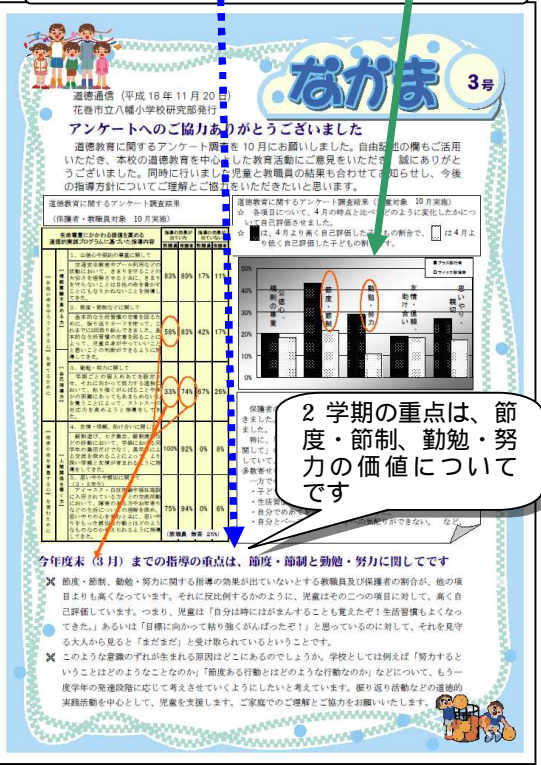
学年	重点的に指導する生命尊重にかかわる価値	指導改善を図る場(道徳的実践活動など)	指導改善の具体(ねらい、方法、評価などについて)
1			
2			

アンケート調査の結果を基に、特に支援を要する児童に対してどのように指導改善を図るか

命を大切にすることを育む小学校道徳教育における道徳的実践プログラム
アンケート調査を基にした個別支援カード

番号	氏名	アンケート調査の結果 特にマイナス傾向を示した質問項目 (関連する価値)	児童の思い、願い、徳徳に対する考え (個別面談の際の指導及び今後の指導方針)	指導・支援 【個別面談の際の指導及び今後の指導方針】
4	F		専らに対して、前は自分で、今は別感を感じて、理由がわかる。	専らを自分の中に、と考える。
5	A		片付けや挨拶が苦手、面倒くさいと思ってる。	学校では机やロッカーの様子を教師で、片付けは自分自身で行う、物置を片付ける、片付けの大切さを伝える。
6	D		友達と遊んだりゲームが好き、勉強が苦しい。友達と遊ぶのが好きで、勉強は嫌いな気がする。	一人活動やグループ活動で、勉強が苦手な子をサポートする、勉強の楽しさを伝える、友達と一緒に勉強する。

保護者に対しアンケート調査の結果を示し、2学期の指導の重点を示す



(3) 指導実践の分析と考察

ア 自他の命を守ろうとする心に関する児童の変容状況

研究協力校の教職員と保護者を対象にした「道徳教育に関するアンケート調査」を評定尺度と自由記述により実施した。生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムに基づいた指導の効果が出ていたかどうかについての評定尺度による結果を価値ごとに示したものが下の【図3】～【図7】である。

(ア) 公德心、規則の尊重に関して

【図3】を見ると、公德心・規則の尊重に関しては教職員及び保護者の8割以上が指導の効果がでていたととらえている。

教職員の自由記述の内容を見ると、「廊下歩行や無言清掃など、規則に関して守ろうとする子が増えている」や「基本的にきまりは守るべきものという意識は定着している」ということである。保護者からは「事故に気を付けよう、命を大切にしようという考えを家でも自分から発言していた」(3年保護者)という声も寄せられた。

一方で、教職員からは「何か新しいことをやりたいという気持ちに負けてしまってきまりを守れない児童がいる」とか、「日常生活の中で、きまりが軽んじられている場面を見受けることがある」といった声も寄せられた。さらに、「つい、成り行きでなどストッパーが外れてしまうことも見られる」というように、指導の効果が十分でない点についても明らかにされた。

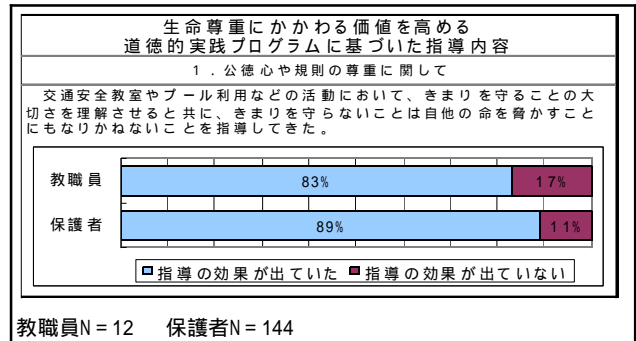
そういった意見に対し、教職員からは「生活に必要なきまりを児童自身が考えていくことが必要である」といったきまりを自覚させるための手立てや、「なぜ守ることが大切なのかという意義理解」が重要であるという改善の方向性も示された。

したがって、課題は見られるものの概ね指導の効果が認められ、さらに児童の変容に向けての改善の方向性も示されていることから、本道徳的実践プログラムにおける公德心・規則の尊重に関する指導は妥当であったととらえることができる。

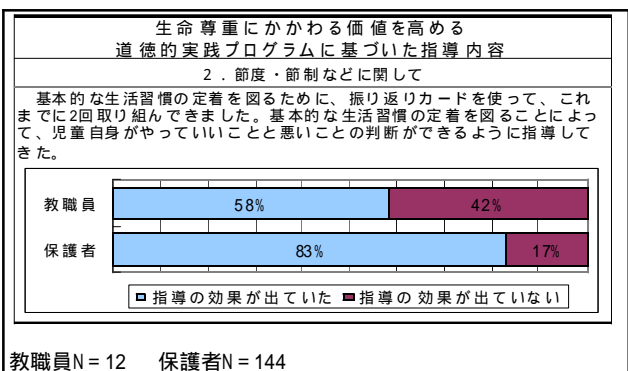
(イ) 節度・節制などに関して

【図4】を見ると、基本的な生活習慣を身に付けるための振り返りカードを使った取組には効果が見られたとする保護者の割合が83%と高くなっているが、教職員の方は効果が出ていたとする割合が58%、と効果を認める割合が低くなっている。

教職員の記述内容を見ると、「振り返りカードの活用によって改めて自分の生活を見直したり、他の子の話を聞いたりしているうちに自分もがんばろう、自分にもできるかもしれないといった気持ちが出てきたようだ」とか「掃除のときに自分のわがままを通そ



【図3】道徳教育に関するアンケート調査結果
(公德心や規則の尊重に関して)



【図4】道徳教育に関するアンケート調査結果
(節度・節制などに関して)

うとすることはなくなってきた」などの声が寄せられた。保護者からは、「振り返りカード等の学校での指導の中で、自然に自分で考えてできる

ようになってきていると感じることがあります。特に生活習慣について大人に言われなくても早寝早起きなどは自発的に行動していると思います」(4年保護者)などの肯定的な意見が寄せられた。

一方で、「掃除のとき自分のわがままを通そうとすることはなくなってきた。しかし、わがままな行動や善悪の判断力が弱いことから、男子2名の間でトラブルが続いている」といった担任の声がある。また、保護者からは「今どきの親、今どきの子、バランスよく叱ったり誉めたりできない私も反省。地区行事のとき上の学年ほど話を聞かない、落ち着きが無い。うちの子もそうになっていくのか心配」(3年保護者)とか「基本的な生活習慣の定着については、家庭でも常に取り組んでいるのですが、どうしても甘えが出てしまいなかなか定着には至っていません」(5年保護者)などの声が寄せられた。したがって、これまでの指導による効果が十分に認められたとは言えない状況である。

このような実態に対して教職員では、基本的な生活習慣は日常における指導の中で育つものであるから教職員のさらなる働きかけが重要であると確認された。具体的には、どのような行動が節度ある行動であるのか模範を示していくことや、場合によっては節度の無い人間の例から考えさせるなどの方法も学年によって検討されているのではないかとといった意見も出された。

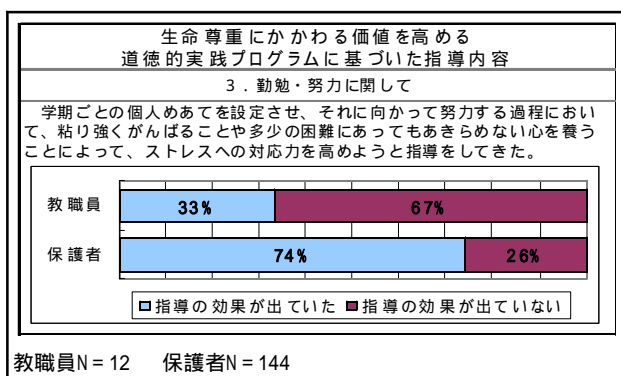
よって、今後は振り返りカードによる取組は有効であるとの声も多数あることから、その取組を継続させると共に、家庭の協力も得ながら、特に指導を要する児童に対して個別に支援していくことが求められる。

(ウ) 勤勉・努力などに関して

【図5】を見ると、学期ごとの個人めあてを設定させ、それに向かって努力する過程において、粘り強くがんばることや多少の困難にあってもあきらめない心を養うことによって、ストレスへの対応力を高める指導の効果がでていたとする教職員の割合は33%と低くなっている。また保護者の割合も74%であり、他の質問項目より低い割合となっている。

教職員の記述内容を見ると、「業間マラソンなどではがんばって走る姿が多く見られる」「集中して学習している子が増えている」など粘り強くがんばっている姿を認めている。保護者は「何かをするとき、自分でめあてを決めて取り組むようになりました」(3年保護者)や「一人勉強を工夫して取り組み、毎日少しずつですが勉強できるようになりました」(5年保護者)などと児童の成長を認めている。

一方で、「月ごとの振り返りカードは反省を記入して1週間もすると自分のめあてを見失ってしまう子もいる。なかなか向上していないのが現実。」だと語る教職員や「めあてに向かってがんばる気持ちはあるのだが、6ヶ月間は低学年には長かったように思う。振り返りプリントの記述もマンネリになってしまった」と語る教職員も見られた。保護者からは「本人の意地・やる気が出ないのが残念です。中学に行っても自分自身が大変なように思います」(6年保護者)といった声もあった。したがって、これまでの指導による効果が十分に認められないことから、児童



【図5】道徳教育に関するアンケート調査結果(勤勉・努力に関して)

が変容したとは言えない状況である。

このような実態に対して、教職員からは「本当に努力して達成できた喜びを何度か味わせた。楽しませすぎ。困難体験させなさ過ぎ。担任から大変だからとか疲れるからとか、難しいからとか言って避けていることが多くはないか？」といった指導の基本的な考え方に関する提案がなされた。また、「常にめあてを意識して行動している子もおり、個人差が大きい。教師の励ましは自分の良さ、がんばりに気付かせるという点で効果的であった。」と述べる教職員もいた。

よって、月ごとにめあてを振り返らせる取組は、十分とはいえないが、成果も認められることから、今後はこの取組を継続させたり、体験活動や月ごとの支援を充実させたりすることで児童のよりよい変容に結び付くものであると考える。

これらのことを基にすると、自他の命を守ろうとする心に結び付く「公德心・規則の尊重」「節度・節制」「勤勉・努力」に関して児童の変容は現段階では十分とはいえないが、改善の方向性も明らかになっていることから、道徳実践プログラムは自他の命を守ろうとする心の育成に向けて有効であるという見通しをもつことができた。

イ 他者の命を尊重する心に関する変容状況

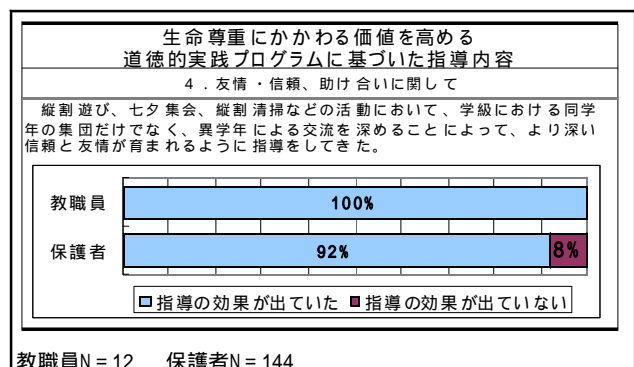
(ア) 友情・信頼、助け合いに関して

【図6】を見ると、縦割遊びなどの活動において、学級における同学年の集団だけでなく、異学年による交流を深めることによって、より深い信頼と友情が育まれるように指導した成果が出ていたととらえたのは全ての教職員と、保護者の92%にあたる。

教職員の記述内容を見ると、「縦割遊びや清掃活動において、他の学年の子ども達との交流をとおして、信頼・友情、助け合いの心が育ってきている」とか「上級生にいろいろお世話してもらうことで親しみと信頼関係が育まれてきた。また、縦割掃除で上級生の指示に従いがんばる姿が見られた」などの成果を認めるものが多かった。また、「6年生は全てにおいて〔お手本〕そして〔指導者〕にという意識で様々な行事や活動に参加してきた。心構えをもたせることで、きちんと行動でき、それが自信につながるということもあった」ということで、縦割遊び、七夕集会などとおした道徳実践活動の効果が認められる。保護者からは、「今まで同年齢の友達との交流が主だったのですが、家庭でも会話の中に上級生の話題もよく聞かれるようになり、楽しそうな様子から縦割交流が子どもにとってよい刺激になり、いい経験をしているなあと感じています。」といった声も寄せられた。

一方で「自分の気の合う仲間を集めて楽しく遊ぶ反面、ペースの合わない子への気配りが足りないと感じる時や乱暴な言葉遣いが気になるときがあります。注意すると気付いてくれますが、自分から気付いて考えてくれるとうれしいと思います」(6年保護者)という声も寄せられている。よって、縦割活動を中心とした諸活動は今後も継続させながら、その内容を充実させることによって気の合う仲間だけでなく、広く友達を大切にしようとする心構えを育成することができるものと考えられる。

したがって、課題は見られるものの概ね指導の効果が認められ、さらに児童の変容に向けての



【図6】道徳教育に関するアンケート調査結果
(友情・信頼、助け合いに関して)

改善の方向性も示されていることから、本道徳的実践プログラムにおける友情・信頼、助け合いに関する指導は妥当であったととらえることができる。

(4) 思いやり・親切に関して

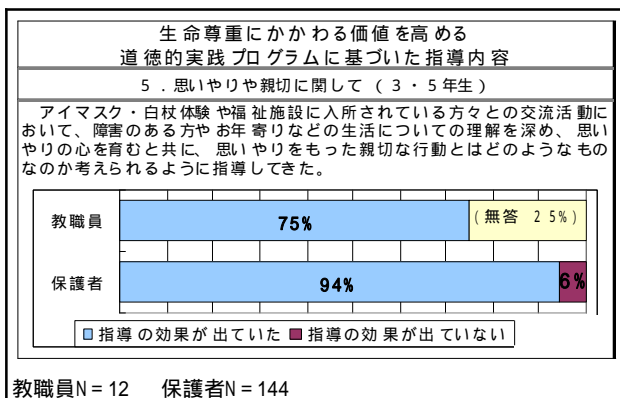
【図7】を見ると、福祉体験活動や交流活動において、障害のある方々やお年よりの生活についての理解を深め、思いやりの心を育むと共に、思いやりをもった親切な行動とはどのようなものなのか考えられるように指導した効果が出ていたとしたのは教職員の75%、保護者の94%であった。

教職員の記述内容を見ると、「お年よりの交流をとおして、話すときの姿勢や声の大きさなど、思いやりをもって接する態度が身に付いた。また、障害のある方の生活の様子がわかり、これから自分達にもできることなどを考えて行動できた」や「いしどりや荘の方々と交流で、お年よりに対する考え方に変化があった子もいた。保護者からもこの訪問をきっかけにして、家族や近所のお年よりに優しくしてくれるようになったというお話が数件あった」ということである。保護者からは、「ずいぶん気持ちの変化があったように思います。小さい子に手伝ってあげようかと手を差し伸べることが多くなりました」や「親戚のお年よりに思いやりのある行動が見られるようになりました」などの指導の効果を認める内容がたくさん寄せられた。

一方で、ある教職員からは、「普段の生活の中で思いやりや親切について考えさせたり、ふさわしい行動をさせたりする指導が重要である」といった行事などの活動以外での指導の充実を求める声があった。

したがって、課題は見られるものの概ね指導の効果が認められ、さらに児童の変容に向けての改善の方向性も示されていることから、本道徳的実践プログラムにおける思いやり・親切に関する指導は妥当であったととらえることができる。

これらのことを基にすると、他者の命を尊重する心に結び付く「友情・信頼、助け合い」「思いやり・親切」に関して児童の変容は十分とはいえないが、改善の方向性も明らかになっていることから、道徳的実践プログラムは他者の命を尊重する心の育成に向けて有効であると考えられる。

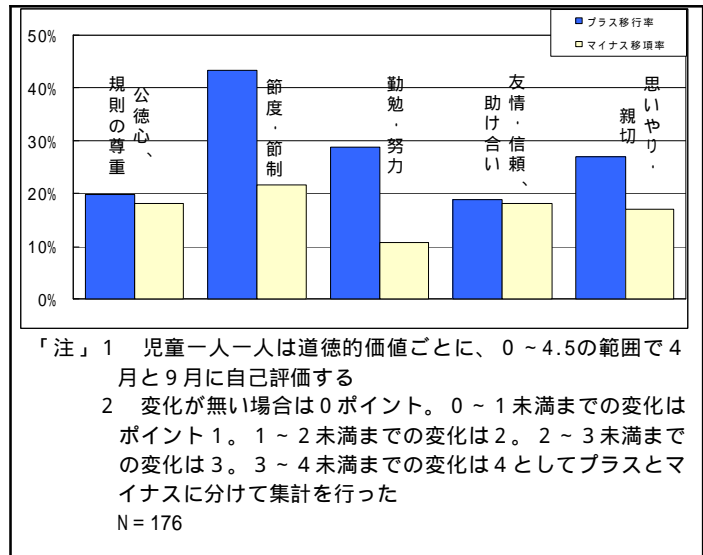


【図7】道徳教育に関するアンケート調査結果 (思いやり・親切に関して)

ウ 児童の生命尊重にかかわる価値に関する自己評価

4月に実施した道徳教育に関するアンケート調査と同じ項目について、自分がどのように変容したととらえるか児童に自己評価させた結果が右の【図3】である。

この図を見ると、全ての項目において、プラスに移行した児童の割合はマイナスに移行した児童の割合よりも大きいことがわかる。特に「節度・節制」「勤勉・努力」に関しては、プラスへの移行率がマイナスへの移行率を大きく上回っている。



【図8】道徳教育に関するアンケート調査結果 (児童対象 4月と9月実施)

この結果は、教職員及び保護者のアンケート調査から得られたものとは異なった結果になっている。教職員や保護者は「節度・節制」「勤勉・努力」に関しては、指導の効果が十分に出ているととらえた割合が比較的高かった。特に教職員は指導の効果がでていたと感じた割合が「節度・節制」に関しては58%、「勤勉・努力」に関しては33%となっている。保護者はそれほど顕著ではないが、「勤勉・努力」に関して指導の効果がでていたかという問いに対して74%となっており、他の項目より約10ポイント低くなっている。

つまり、4月に比べて自分としては「身の回りの整理整頓をしっかりとやっている」あるいは「やろうとしている」と思っている児童が増えたにもかかわらず、教職員はまだ基本的な生活習慣は定着していないととらえている。また、児童は「自分の勉強や仕事をしっかりとやっている」という児童が増えたにもかかわらず、教職員や保護者は「粘り強くがんばることや多少の困難にあってもあきらめない心」が十分に育成されていないととらえていることになる。

これに対して、「公德心・規則の尊重」や「思いやり・親切」の項目は、教職員や保護者から見ると指導の効果が認められているのに対して、児童の反応は大きくプラス傾向に移行しているとはいえない。これは、児童の道徳性が高まることが自分に対する客観的な目をより厳しいものにしていくのではないかと考えられる。このように考えると、児童の自己評価の高い「節度・節制」及び「勤勉・努力」に関しては、これからまだ指導改善の余地が残されているととらえることができると考えられる。

これらの結果を基に、研究協力校では「節度・節制」及び「勤勉・努力」に関する内容を、後期の道徳教育における重点内容と位置づけ、指導をしていくことにした。具体的には、道徳的実践活動の振り返り活動や2学期のめあてに向けての取組において「どのように行動することが節度を守った行動といえるのか」「努力するということはどのようなことなのか」といった、意義理解に関する内容を各学年の発達段階に応じて指導していこうと考えた。

生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムは、指導の効果を客観的に評価しながら指導改善を図っていくことによって、より充実したものとなる可以考虑することができる。

4 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する研究のまとめ

本年度は、昨年度の成果を踏まえながら、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムを作成すること、作成した道徳的実践プログラムに基づき指導実践を行い、その結果について分析・考察すること、指導実践の成果と課題をまとめ、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道德教育の妥当性について明らかにすること、の三つに取り組んできた。

ここでは、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道德教育の指導計画に基づいた指導実践と、その分析・考察によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムは、道徳の時間や学級活動を中心として、教育活動全体のねらいの関連を図りながら計画することができたので、命を大切にすることを育むための教育活動を意図的、計画的に進めるうえで有効であることが分かった。

イ 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムは、児童の実態把握から指導実践を経て評価、事後への対応までの指導の流れを示すことができたので、学級担任が活用する上で、指針となるものを提示できた。

ウ 指導実践をとおすことによって、実施計画レベルでの課題点が明らかになり、生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムを研究協力校の実態に合わせた形で改善することができた。

エ 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムは、研究協力校の教職員と保護者から見て、児童の生命尊重にかかわる価値を高めるために役立つと捉えることができた。

(2) 課題

ア 道徳的実践活動の成果と課題をそれぞれ一つの学年を中心として見てきたが、今後は他の学年における指導実践を重ねることによって、有効性をさらに検討する必要があること

イ より指導の効果を高めるために、保護者との協力の在り方についてさらに検討する必要があること

以上のことから、本研究で作成した、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムは、命を大切にすることを育む上で効果があり、小学校道德教育の指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

この研究は、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおして、命を大切にすることを育むための指導の在り方を明らかにし、小学校道德教育の充実に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、先行研究や文献から得た資料や情報を基に、命を大切にすることを育む小学校道德教育の在り方についての基本的な考え方の検討、基本構想の立案並びに推進試案の作成を行った。また、それらの結果を踏まえて、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成を行った。

第2年次である今年度は、命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する推進試案に基づく指

導実践の分析と考察の方法を検討し、それに基づいて指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切に
する心を育む小学校道徳教育に関する妥当性の検討を行った。

2年間の研究の成果と課題については、次のようにまとめることができる。

1 研究の成果

(1) 命を大切に する心を育む小学校道徳教育についての基本的な考え方の検討

先行研究や文献を基に、命を大切に
する心を育む小学校道徳教育に関して、「規範意識を高める力」「自己指導力」「人間関係を築く力」の三つの力を育てることが重要であるという考えを示すことができた。

(2) 命を大切に する心を育む小学校道徳教育についての基本構想の立案

三つの力を基にして生命尊重にかかわる価値を明らかにし、道徳的実践プログラムのねらいを設定することができた。また、道徳的実践活動を推進する際の見通しをもつことによって、命を大切に
する心を育む小学校道徳教育に関する基本構想を検討し、立案することができた。

(3) 命を大切に する心を育む小学校道徳教育についての推進試案の作成

基本的な考え方と基本構想で述べた視点を基に、命を大切に
する心を育む道徳的実践プログラムの構想から反省までの年間を見通した指導の流れを明らかにし、道徳的実践プログラムを立案するまでの手順、育てる力や道徳的実践活動の実施計画の立案、活動の流れについて検討を進めた。これによって、生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの作成をとおした命を大切に
する心を育む小学校道徳教育の推進試案を作成することができた。

(4) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成

道徳的実践プログラムの作成においては、推進試案に基づいて、「道徳的実践プログラムの年間スケジュールと指導計画案」、「道徳的実践活動の活動計画案」、「道徳的実践活動の実施計画案」を作成することができた。また、これらの作成にかかわる考え方や手順をまとめ、別冊資料として「道徳的実践プログラム」を作成することができた。

(5) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムに基づいた指導実践とその分析・考察

研究協力校における指導実践をとおして教職員や保護者のアンケート調査からは、道徳的実践プログラムは生命尊重にかかわる価値を高めるうえで、妥当であること、提示した道徳的実践プログラムは、児童に、命を大切に
する心を育むために効果が見られたことがわかった。

(6) 命を大切に する心を育む小学校道徳教育に関するまとめ

指導実践の分析と考察により成果と課題をまとめ、推進試案に基づいて作成した生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムは、児童の命を大切に
する心を育む上で効果があり、小学校道徳教育の指導の改善に役立つという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムを構想し、実際に活動を進めるに当たっては、研究協力校との事前の検討が非常に重要であった。よって、今後このプログラムを広く他校において実践するに当たっては、各校の実態に合わせた道徳的実践活動のねらいの設定や活動の精選をしながら進めることが大切だと考える。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、保護者の皆さんに心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

有村久春(2005),「児童生徒の問題行動への対応」『「命を大切にせる教育」をどう進めるか』,教育開発研究所,p.12

内山絢子(2005),「子どもの規範意識の育成」『「命を大切にせる教育」をどう進めるか』,教育開発研究所,p.31

森徹(2000),『道徳・特別活動』,明治図書,p.214

【引用Webページ】

文部科学省(2004),『児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)』

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/10/04100501.htm

【参考文献】

大河原美以(2004),『怒りをコントロールできない子の理解と援助』,金子書房

押谷由夫(1995),『総合単元的道徳学習論の提唱』,文溪堂

金森俊朗(2003),『命の教科書』,角川書店

近藤卓(2002),『いのちを学ぶ・いのちを教える』,大修館書店

近藤卓(2003),『いのちの教育』,実業之日本社

本田恵子(2002),『キレやすい子の理解と対応』,ほんの森出版

畠山博明,『道徳指導の手引き』

【参考Webページ】

静岡県青少年問題協議会(2002),『青少年の規範意識を育てるための施策について』

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-09/ikengusin.htm>

命を大切にする心を育む小学校道徳教育

道徳的実践プログラム

規範意識を高める力

自己指導力

人間関係を築く力

自他の命を守ろうとする心

他者の命を尊重する心

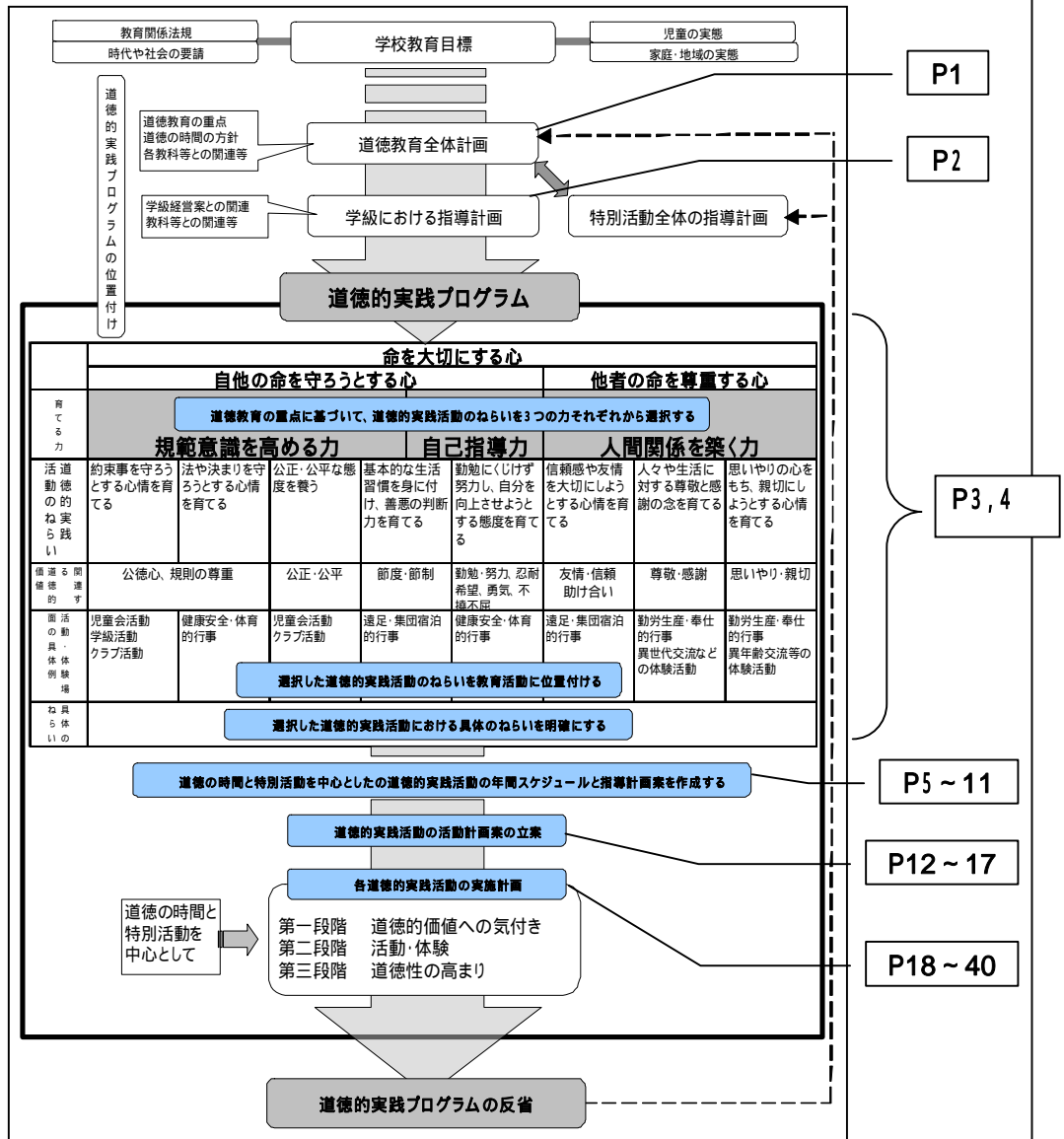
命を大切にする心を育んだ児童

はじめに

本研究では、学校における教育活動全体の中に指導者が生命尊重にかかわる価値を位置付け、その価値を高めるために、年間を見通した指導と教育活動全体による組織的な指導といった視点に基づいて作成した指導構想を**道徳的实践プログラム**と呼ぶこととしました。

この道徳的实践プログラムは、研究協力校である花巻市立八幡小学校の「道徳教育全体計画」「道徳教育の学級における指導計画」を基にして構想し、「生命尊重にかかわる価値を高める道徳的实践プログラムの構想表」としてまとめました。その構想を基にして、「平成18年度道徳的实践プログラム年間スケジュール表」「道徳的实践プログラムの指導計画案」「道徳的实践活動の活動計画案」「道徳的实践活動の実施計画案」を作成しました。

上記の諸計画案は、花巻市立八幡小学校の教育活動を中心として作成しましたが、位置付けた教育活動は県内の各小学校でも行われているものが多くあります。県内各校において、このプログラムを推進するにあたっては、下図の「生命尊重にかかわる価値を高める道徳的实践プログラムの作成をとおした命を大切に育む小学校道徳教育の推進試案」と花巻市立八幡小学校の活動を参考にされて、計画立案及び指導実践に当たって頂ければと思います。道徳的实践プログラムが児童の命を大切に育む道徳教育の充実につながり、より多くの児童の自己実現に役立てばと思います。



生命尊重にかかわる価値を高める道徳的实践プログラムの作成をとおした命を大切に育む小学校道徳教育の推進試案

目 次

1	道徳教育全体計画	1
	道徳教育の重点目標に「規範意識を高める力」「自己指導力」「人間関係を築く力」を位置付けた	
2	道徳教育の学級における指導計画（第6学年）	2
	学年ごとの重点を基にして、教育活動全体をととした道徳的実践プログラムの構想を立てた	
3	各活動で高める道徳的価値と道徳的実践活動との関連表	3
	道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間のねらいの関連を明らかにした	
4	生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの構想表	4
	生命尊重にかかわる価値を高めるための活動を教育活動に位置づけ、ねらいや活動の概略を示した	
5	平成18年度 道徳的実践プログラム年間スケジュール表	5
	三つの段階で進める道徳的実践活動の活動日程を示した	
6	道徳的実践プログラムの指導計画	
	道徳的実践活動と道徳の時間及び特別活動の年間指導計画とそれぞれの活動の関連を示した	
(1)	第1学年	6
(2)	第2学年	7
(3)	第3学年	8
(4)	第4学年	9
(5)	第5学年	10
(6)	第6学年	11
7	道徳的実践活動の活動計画	
	生命尊重にかかわる価値ごとに道徳的実践活動の三つの段階のねらいや評価の視点を示した	
(1)	道徳的実践活動 1 ~ 5	12
(2)	道徳的実践活動 6 ~ 9	13
(3)	道徳的実践活動 10 ~ 12	14
(4)	道徳的実践活動 13 ~ 16	15
(5)	道徳的実践活動 17 ~ 20	16
(6)	道徳的実践活動 21 ~ 24	17

8 道徳的実践活動の実施計画

道徳的実践活動ごとにその具体的な進め方や指導上の留意点等について示した

道徳的実践活動 1 (交通安全教室)	18
道徳的実践活動 2 (遠足・集団宿泊的行事)	19
道徳的実践活動 3 (プール利用)	20
道徳的実践活動 4 (避難訓練)	21
道徳的実践活動 5 (児童会生活目標への取組)	22
道徳的実践活動 6 (振り返り活動・1)	23
道徳的実践活動 7 (振り返り活動・2)	24
道徳的実践活動 8 (振り返り活動・3)	25
道徳的実践活動 9 (振り返り活動・4)	26
道徳的実践活動 10 (1学期のめあてに向けての取組)	27
道徳的実践活動 11 (2学期のめあてに向けての取組)	28
道徳的実践活動 12 (校内マラソン大会)	29
道徳的実践活動 13 (縦割遊び)	30
道徳的実践活動 14 (七夕集会)	31
道徳的実践活動 15 (縦割清掃)	32
道徳的実践活動 16 (チャレンジランキング大会)	33
道徳的実践活動 17 (アイマスク・白杖体験)	34
道徳的実践活動 18 (ルンビニー苑作業体験)	35
道徳的実践活動 19 (ウォークラリー)	36
道徳的実践活動 20 (学校への招待)	37
道徳的実践活動 21 (宝寿荘訪問)	38
道徳的実践活動 22 (いしどりや荘訪問)	39
道徳的実践活動 23 (一人暮らしのお年よりとの交流)	40

道徳教育全体計画

花巻市立八幡小学校

教育関係法規
 日本国憲法
 教育基本法
 学習指導要領
 岩手県学校教育指導指針
 花巻市学校教育指針

学校教育目標
 豊かな人間性と創造性をもち、たくましく生きる子ども
 ・ 進んで 学ぶ子ども
 ・ 健康で たくましい子ども
 ・ 礼儀正しく 助け合う子ども
 ・ ねばり強く よく働く子ども

時代・社会の要請
 児童の問題行動が社会問題となっている。特に、命を大切にすることを育む教育の充実が求められている

児童の実態
 ・ 動植物や郷土を愛する心をもち、責任ある態度をとることができる
 ・ 家族を大切に、感謝する心を持っているが、反面自主性に欠けることがある

道徳教育の重点目標
 命を大切にする心を育むために、道徳的実践プログラムにより、三つの力の育成を目指す

規範意識を高める力	いかなる状況においても、命の尊さを踏まえて善悪を判断できる
自己指導力	自分の行動を調節したり、ストレスへの対応力を身に付けている
人間関係を築く力	他者を肯定的に受け止め、お互いの思いや願いを伝え合っている

保護者・地域の願い
 ・ 学校や社会におけるルールはよく守っていて、粘り強さや人間関係においてがんばっているとされている
 ・ 友情を深め、お互いに助け合ったり、思いやりの心をもって生活したりすることや基本的な生活習慣については、今後さらに努力してほしい点としてとられている

教職員の願い
 ・ 基本的な生活習慣を身に付け、自分でやるようになったことについては粘り強く取り組んでほしい
 ・ だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切な態度で接することができるようになってほしい

特別活動における道徳教育
 望ましい集団活動を計画的、発展的に行うことにより、道徳的実践についての方法や技術を学ぶと共に、道徳的実践力を育成する

各学年の道徳教育重点目標
 低・中・高学年別 指導の重点

低学年	みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守るわがままをしないで、規則正しい生活をすると共に、自分がやらなければならないことをしっかり行う 友達と仲よく助け合い、日ごろお世話に立っている人々に感謝の気持ちをもって親切にする
中学年	約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ 節度ある生活をし、自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げる 友達や生活を支えている人々に尊敬や感謝の念をもち、相手のことを思いやって親切にする
高学年	公德心をもって法やきまりを守ると共に、偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める 節度、節制に心掛け、より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけずに努力する 互いに信頼し合い、友情を深めると共に、日々の生活が人々の助け合いで成り立っていることに感謝し、相手の立場に立って親切にする

各教科等における道徳教育
 各教科等のねらいを達成するための学習活動をとって、道徳的実践力を育成すると共に、道徳的価値についての知識・理解を深める

国語	言語をとって、人間や社会、自然などについて深く考えたり、感じたりする豊かな情操を養うと共に他者と自分の思いや願いを伝え合力を高める
社会	社会や社会事象に対する理解を深め、広い視野から公正に判断しようとする能力・態度を育てると共に、人間尊重の精神を養う
算数	課題を把握し、筋道を立てて考え、自ら解決する能力を育てると共に、根気強く解決しようとする態度を育てる
理科	主体的に観察や実験を行って、自然の偉大さと人間に対する恩恵の念をいだけせると共に、根気強く問題解決に当たろうとする態度を育てる
生活	具体的な活動や体験を充実させ、自分や身近な人々、自然について関心をもって考えようとする態度を育てる
音楽	楽曲を鑑賞したり、表現したりすることによって感性を育て、伝統や自然、文化に根ざした豊かな心情を養う
図工	表現と鑑賞活動をとって、お互いの個性に対する理解を深め、尊重し合うようとする態度を育てる
家庭	実習等をとって、家族の一員としてよりよい家庭生活をするために進んで活動しようとする態度を育てる
体育	運動する楽しさや喜びを体得させると共に、公正な態度や仲間と助け合いやり遂げる態度を育てる
総合的な学習の時間	児童の興味や関心に基づき体験的な学習や問題解決的な学習をとって、自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意義に気づくと共に、児童自身が自分なりの生き方を考えることができるようにする

学級活動
 「学級や学校の生活の充実と向上に関する」活動と「日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する」生活態度の育成に資する活動をとって、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度を形成すると共に望ましい人間関係の育成を図る
 生活目標への取組
 行事等への取組
 約束事の決定、実行、反省

児童会活動
 学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力してその解決を図る活動を自主的、自発的に行わせることにより、集団の約束事を尊重し公正・公平な態度を育成する
 児童会総会
 1年生を迎える会
 チャレンジランキング
 6年生を送る会
 長期休業中のくらし
 生活目標への取組
 児童集会

クラブ活動
 同じ興味や関心をもって活動することの楽しさを感得させ、お互いの個性を認め合ったり、興味を膨らませたりしながら意欲的に活動する態度を養う
 クラブ発表会
 作品展示
 クラブ見学

学校行事
 学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うことによって、思いやりの心や責任感を涵養すると共に、友達よさや自らの可能性に気づかせる
 儀式的行事
 学芸的行事
 健康安全・体育的行事
 遠足・集団宿泊的行事
 勤労生産・奉仕的行事

『心のノート』の活用
 (1) 自分を見つけ、自ら学習していくよう動機づける
 (2) 教育活動の全体を通じて、『心の記録』として自らの成長に生かせるよう支援する
 (3) 学校と家庭とを結び『心の架け橋』として連携を深める

道徳的実践プログラムにおける道徳教育の指導方針
 重点目標で示された三つの力を育成するために、学校における教育活動に生命尊重にかかわる価値を位置付け、年間を見通した指導と教育活動全体による組織的な指導を行う。道徳的実践プログラムでは、道徳の時間と特別活動を中心とした道徳的実践活動を行い、その中に次の三つの段階を位置付ける
 第一段階 児童による道徳的価値の把握とあてあての設定
 第二段階 活動・体験
 第三段階 児童によるあてあての振り返り

道徳の時間の指導方針
 自己を見つめ、互いを認め合う道徳授業
 (1) 全教育活動を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合し、計画的、発展的に指導する
 (2) 児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め道徳的実践意欲と態度を培うことをとって、道徳的実践力を育成する

生徒指導における道徳教育の指導方針
 生徒指導運営計画に基づき、基本的な生活習慣の確立を目指すと共に、日常生活において道徳的判断力の育成を図る
 正しい言葉遣い
 あいさつ
 もくもくと物を大切に
 協力的態度の育成
 思いやりの心の育成

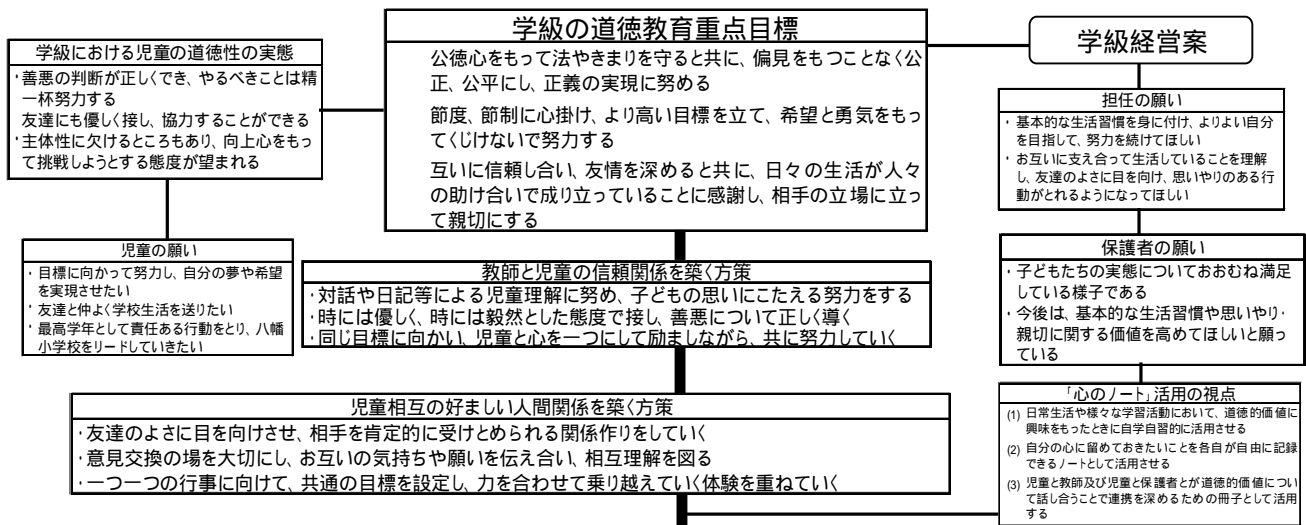
家庭・地域との連携

啓発活動	実践活動
・ 校報、学級通信の発行 ・ 保健便りの発行 ・ 授業参観、懇談会 ・ 家庭訪問 ・ 通信票 ・ 連絡帳 ・ 地区懇談会 ・ 道徳教育地区公開講座	・ 学年PTA行事 ・ 子ども会行事 ・ 地区の清掃活動 ・ 環境整備作業 ・ 地域行事への参加(石鳥谷祭、廃品回収他) ・ 地域の方の校内行事等への招聘(交通安全教室、クラブ、運動会等)

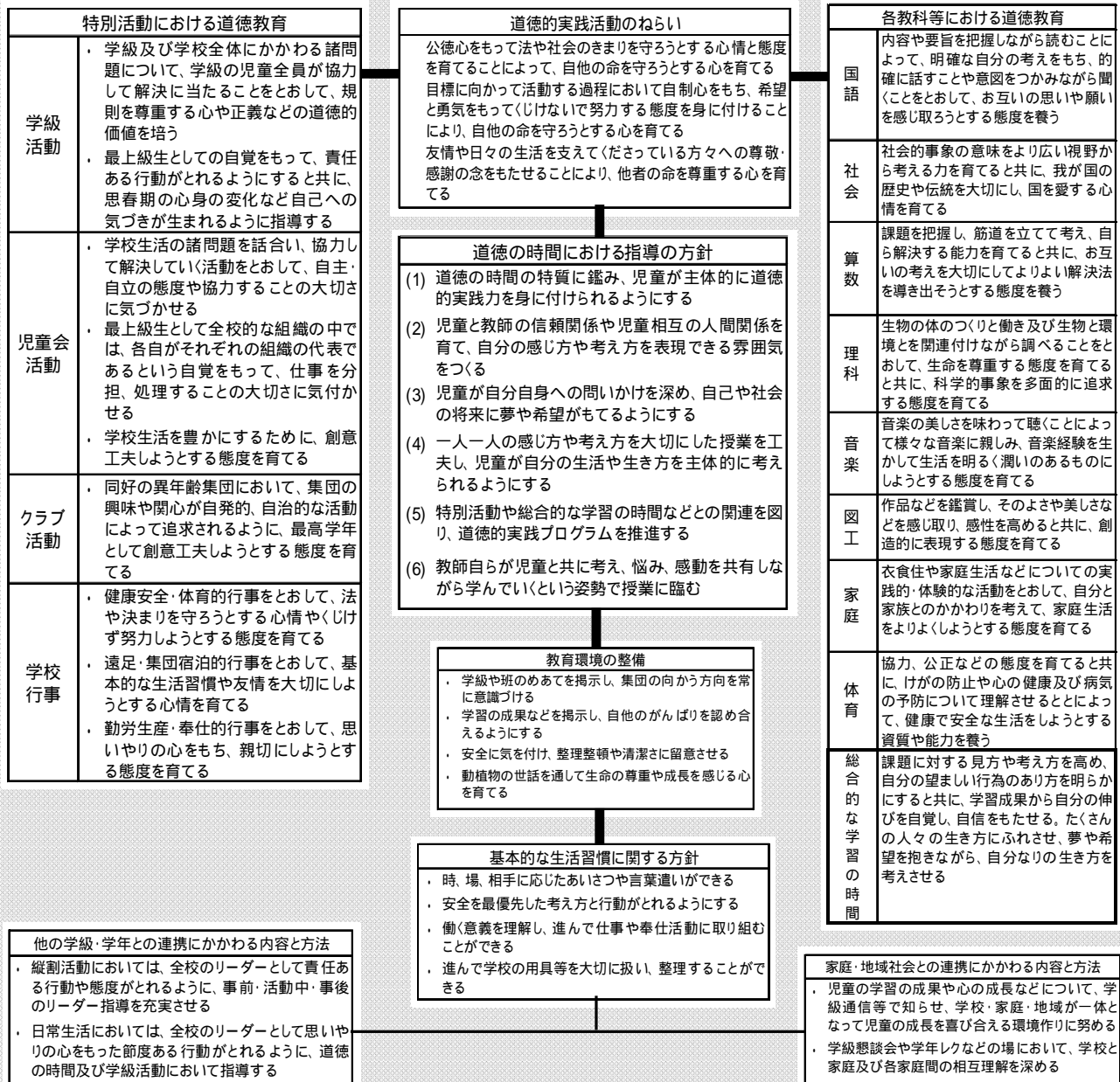
教育環境の整備
 人、物、自然等の環境を整え道徳性の育成を図る
 縦割グループ活動
 業間草取り
 なかよし給食
 校内内外での掲示活動
 校物の飼育活動
 学級園等での栽培活動
 行間草取り

道徳教育の学級における指導計画

花巻市立八幡小学校
第6学年



道徳的実践プログラムの構想



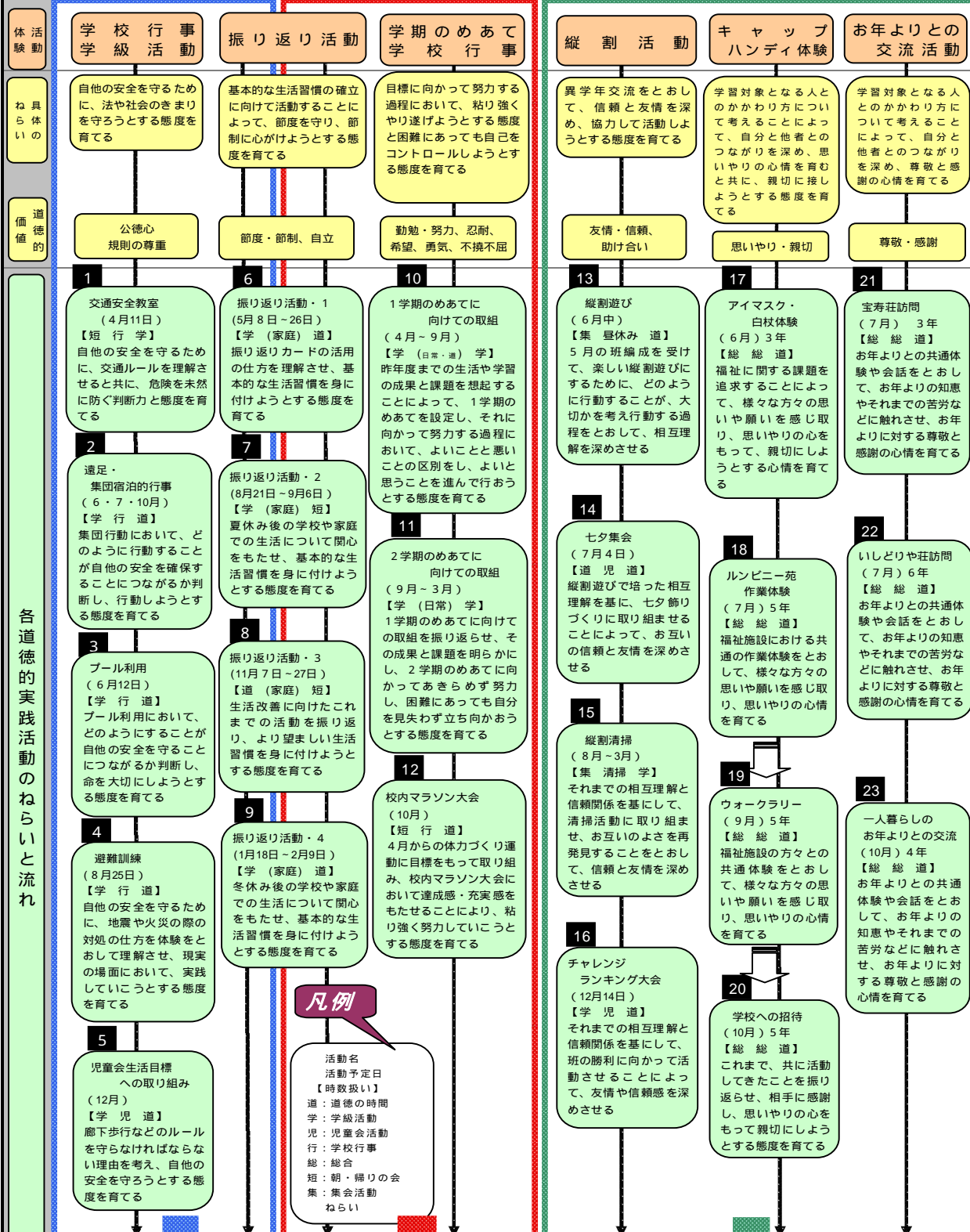
各活動等で高める道徳的価値と道徳的実践活動との関連表

花巻市立八幡小学校

	活動内容	活動の内容	主な題材とそのねらい		各活動で育てる道徳的価値			
			題材名	指導のねらい			生命尊重にかかわる価値	
学級活動	(1) 学級や学校の生活の充実と向上に関する活動	学級や学校における生活の諸問題の解決	男女の役割	異性について理解し、互いに尊重し合おうとする態度を育成する		思いやり・親切	友情・信頼、助け合い	
			校舎内での生活の仕方	校舎内での生活を振り返り、互いが気持ちよく安全な過ごし方について理解させる	生命尊重		公徳心、規則の尊重	
		学級内の組織作りや仕事の分担処理など	前期組織作り	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもたせる	役割と責任の自覚		勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			後期組織作り	1学期の反省を基にして、学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもたせる	役割と責任の自覚		勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
		児童会活動や学校行事に関すること	児童会の一員として	児童会総会に向けて	児童会総会に向けて学級で取り組むことにより、児童会の一員としての自覚をもたせる	向上心・個性伸長	創意・進取	尊敬・感謝
				修学旅行に向けて(6)	旅行の意義や役割分担を確認し、楽しい旅行にしようとする意欲をもたせる	役割と責任の自覚	愛校心	勤勉・努力、勇気、不撓不屈
			運動会に向けて	運動会の成功に向けての学級や個人の目標をもたせ、活動に対する意欲化を図る	役割と責任の自覚	友情・信頼、助け合い	勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			七夕集会に向けて	七夕集会に向けての計画立案と準備をとおして、活動への意欲化を図る	役割と責任の自覚	友情・信頼、助け合い	勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			学習発表会に向けて	学習発表会成功に向けての学級や個人の目標をもつことにより、活動に対する意欲をもたせる	役割と責任の自覚	友情・信頼、助け合い	勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			児童会引継ぎに向けて	役員選挙、総会、六議会に向けての活動を進めることにより、自主的に活動しようとする意欲をもたせる	役割と責任の自覚	創意・進取	友情・信頼、助け合い	
	(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する活動	希望や目標をもって生きる態度の育成	年生になって	学年の進級に伴い、その学年の役割をとらえさせることにより、自覚をもって行動しようとする意欲を高める	向上心・個性伸長	役割と責任の自覚	勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			卒業に向けて(6)	小学校生活を支えてくれた人々の存在に気付き、感謝しようとする態度を育成する	郷土愛、愛国心	尊敬・感謝	思いやり・親切	
			学期のめあてをきめよう	学期ごとのめあてを設定して、それに向かって自己を高めようとする態度を育成する		向上心・個性伸長	勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
			長期休業中の生活発表会をしよう	夏休みの学習と生活を振り返り、新たな活動意欲をもたせる	向上心・個性伸長	誠実・明朗	友情・信頼、助け合い	
		イ 基本的な生活習慣	規律ある生活	日常生活を振り返り、基本的な生活習慣の大切さに気付かせる	礼儀		思慮・反省、節度・節制、自立	
			ウ 望ましい人間関係	お年寄りを大切にしよう	日々の生活を支えてくれたお年寄りの存在に気付き、感謝しようとする態度を育成する	尊敬・感謝	思いやり・親切	友情・信頼、助け合い
		エ 学校図書館の利用	役立つ図書	生活や学習に役立つ本の調べ方を知り、読書への関心と興味をもたせる	敬虔	自然愛、動植物愛護、環境保全		
			本に親しむ	感動した図書を紹介し合うことにより、読書への関心と興味をもたせる	敬虔	生命尊重		
		オ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	正しい登校	安全な登下校の仕方を知ると共に、自らの安全を守るようとする態度を育成する	生命尊重	思慮・反省、節度・節制、自立	公徳心、規則の尊重	
				丈夫な歯	歯と健康との関係やむし歯の予防の仕方についてとらえ、健康に気を付けようとする態度を育成する	生命尊重		
プールの約束	プール利用の仕方や約束を知り、安全に水泳の学習をしようとする態度を育てる		生命尊重		公徳心、規則の尊重			
心とからだの成長	からだの成長の仕方や心の健康などについて理解し、健康に気を付けようとする態度を育成する		生命尊重					
危険なことが起きたら	地震や火事の際の避難の仕方覚え、自他の安全を守るようとする態度を育成する		生命尊重		公徳心、規則の尊重			
腰痛と背骨の異常	背骨のつくりと役割についてとらえ、健康な生活をしようとする態度を育てる		生命尊重					
かぜやインフルエンザ	かぜやインフルエンザの原因を知り、罹患しないための暮らし方についてとらえ、実行しようとする態度を育てる		生命尊重					
雪道の登下校	雪道の危険について考え、安全な登下校の仕方について理解させる		生命尊重		公徳心、規則の尊重			
異性とのかかわり	異性とよりよい接し方を理解し、尊重し合い、協力していこうとする態度を育成する			思いやり・親切	友情・信頼、助け合い			
カ 学校給食と望ましい食習慣の形成	食べられることのありがたさ		給食や毎日の食事に関して調べ、食べ物大切にしようとする態度を育成する	自然愛、生命尊重	郷土愛			
キ その他の内容	長期休業中のくらし	長期休業を安全で有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画をもたせる	愛国心	自然愛、動植物愛護、環境保全	思慮・反省、節度・節制、自立			
	長期休業中の反省	夏休みの反省を基に、具体的な目標をもち、学校生活への意欲を高める		思慮・反省、節度・節制、自立	勤勉・努力、勇気、不撓不屈			
児童会活動	代表委員会活動	代表委員会活動	代表委員会活動	役割と責任の自覚	自由・規律	公正・公平、正義		
	委員会活動	各種委員会活動	分担された仕事に責任を持って活動することによって、学校生活を向上・発展させようとする態度を育成する	役割と責任の自覚	自然愛、動植物愛護、環境保全	勤勉・努力、勇気、不撓不屈		
	児童会集会活動	児童会総会	児童会における諸計画の立案とその反省をとおして、学校生活をより豊かなものにしていく意欲を育成する	役割と責任の自覚	自由・規律	公徳心、規則の尊重		
クラブ活動	所属する児童全員の話し合いによる活動の内容、役割分担などの決定	初回のクラブ活動	クラブの活動計画や役割分担を決め、同好の児童による楽しい活動にしようとする態度を育成する	寛容・謙虚	役割と責任の自覚	公正・公平、正義		
	共通の興味・関心を追究する活動	年間の活動	児童相互の創意工夫を生かした活動をすることで、楽しい活動をしようとする態度を育成する	創意・進取	役割と責任の自覚	思いやり・親切		
	クラブの成果を発表する活動	クラブ発表会	年間の活動のまとめとして設定し、児童の活動意欲を高めると共に互いの成果を認め合う機会とする	創意・進取	役割と責任の自覚	友情・信頼、助け合い		
学校行事	儀式的行事	入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、離任式、朝会など	学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、新しい生活の展開への動機付けを図る	礼儀	愛校心	尊敬・感謝		
	学芸的行事	学習発表会、学芸会、音楽会など	平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲をいっそう高める	郷土愛、愛国心	敬虔	郷土愛		
	健康安全・体育的行事	健康診断、避難訓練、交通安全教室、運動会、球技大会など	安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上を図る	生命尊重		勤勉・努力、勇気、不撓不屈		
	遠足・集団宿泊的行事	遠足、修学旅行、野外活動など	平素と異なる生活環境にあって、集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい生活態度の形成を図る	生命尊重	友情・信頼、助け合い	思慮・反省、節度・節制、自立		
	勤労生産・奉仕的行事	勤労栽培活動、美化活動、施設等の訪問・交流活動	勤労の尊さや生産の喜びを体得すると共に、ボランティア活動など社会奉仕の精神を涵養する	自然愛、動植物愛護、環境保全	敬虔	勤労・社会奉仕、公共心	尊敬・感謝	
				生命尊重				
継続的・体系的活動	授業一学習訓練	学習習慣の確立	日々の授業や家庭学習	望ましい学習習慣を身に付け、学力の向上に資する	礼儀		思慮・反省、節度・節制、自立	
	振り返り活動	自己について振り返る習慣の定着	日記活動、基本的な生活習慣に関する実態調査	自分の生活や学習について振り返ってとらえられる習慣を身に付けさせる	尊敬・感謝		思慮・反省、節度・節制、自立	
	体力作りへの取組	業間運動などの継続した体力づくり活動	業間運動	目標に向かって粘り強く努力しようとする態度と体力の向上を図る			勤勉・努力、勇気、不撓不屈	
その他	自己の生き方	学習成果から成就感を感じ、自己の成長を自覚させる活動	学習対象とのかかわりをおとて、自己のよさに気付き、自分を伸ばすことができるようになる	尊敬・感謝	向上心・個性伸長	思いやり・親切		
	将来の自分の望ましい行為の在り方を考える活動	学習対象とのかかわりをおとて、自分のあるべき姿や目指すべき姿をとらえられるようになる	学習対象とのかかわりをおとて、自分のあるべき姿や目指すべき姿をとらえられるようになる	勇気	誠実	尊敬・感謝		

生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムの構想表

花巻市立八幡小学校



規範意識を高める力
いかなる状況においても、命の尊さを踏まえて善悪を判断している

自己指導力
自分の行動を自制し、ストレスへの対応力を身に付けている

人間関係を築く力
他者を肯定的に受け止め、互いの思いや願いを伝えている

自他の命を守ろうとする心

他者の命を尊重する心

命を大切にすることを育んだ八幡小学校の児童

花巻市立八幡小学校

道徳的実践プログラムスケジュール表

日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	土	月	木	土	火	金	土	水	金	月	木	木
2	日	火	金	日	水	土	日	木	土	火	金	金
3	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土
4	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日
5	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月
6	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火
7	金	日	水	金	月	土	土	火	木	日	水	水
8	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木
9	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金
10	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土
11	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日
12	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月
13	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火
14	金	日	水	金	月	土	土	火	木	日	水	水
15	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木
16	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金
17	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土
18	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日
19	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月
20	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火
21	金	日	水	金	月	土	土	火	木	日	水	水
22	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木
23	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金
24	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土
25	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	日
26	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	月
27	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	火
28	金	日	水	金	月	土	土	火	木	日	水	水
29	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	木
30	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	金
31	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	土

道徳的実践活動

1 交通安全教室
2 遠足・集団宿泊的行事
3 プール利用
4 選抜訓練
5 児童会生活目標への取組
6 振り取り活動・1
7 振り取り活動・2
8 振り取り活動・3
9 振り取り活動・4
10 1学期のめあて
11 2学期のめあて
12 校内マラソン大会
13 縦断遊び
14 七夕集会
15 縦断清掃
16 チャレンジランキング大会
17 アイマスク・目状体験(3年)
18 ルンビニー宛作業体験(5年)
19 ワークラリー(5年)
20 学校への招待(5年)
21 宝寿荘訪問(3年)

注:道徳の時間 総:総合的な学習の時間 短:短学活 集:集会活動
:第一段階(道徳的価値への気付き) :第二段階(活動・体験) :第三段階(道徳性の高まり)
生:生命尊重 公:公明心、規則の尊重 部:節度、審判、自立 動:勤勉・努力、忍耐、希望、勇気、不屈不屈 友:友情・信頼、助け合い 尊:思いやり・親切 尊:尊敬・感謝

凡例

道徳的実践プログラムの指導計画(第1学年)

《道徳の資料は「みんなのどうとく」(学研1年)》

月	道徳の時間		道徳的実践活動		学級活動	児童会活動	学校行事
	主題名	資料名	活動番号	活動名(活動段階、時数扱い)	題材名	活動名	行事名
4	[がっこうだいすき]	愛校心	10	1学期のめあて〔学〕	1年生になって		入学式
	たのしいがっこう		1	交通安全教室〔短 行〕	楽しい給食		交通安全教室
	[あかるいあいさつ]	礼儀					授業参観日
5	あかるいあいさつ		1	交通安全教室〔学〕	学校への行き帰り		
	[すなおであかるいこころ]	誠実・明朗	6	振り返り活動・1〔学〕	基本的な生活習慣		家庭訪問
	よごれたてえぶるかけ						1年生清掃開始
6	[だいすきなぼくのまち]	郷土愛			掃除の仕方		
	およげ、ジャンプごいのぼり		6	振り返り活動・1〔道〕	日直と係の仕事		運動会
	[わがままなきもち]	節度・節制、自立	13	縦割遊び(顔合わせ)〔集〕			プール清掃
7	かぼちゃのつる		3	プール利用〔学〕	火事するとき		避難訓練
	[たいせつないのち]	生命尊重	3	プール利用〔行〕	プールの約束		プール開き
	いしぜんいのち		10	1学期のめあて〔道〕		陸上選手激励会	
8	[正しいことを勇気をもって]	勇気					
	ゆうきをだしてもうど		13	縦割遊び〔道〕	丈夫できれいな歯		授業参観フリーデー
	[ともだちだから]	友情・信頼、助け合い	14	七夕集会〔道〕			
9	二わのことり		3	プール利用〔道〕			
	[みんながにこにこ]	公德心、規則の尊重	14	七夕集会〔児〕	汗をかいたら	七夕集会	七夕飾り作り
	みんなのこうえん		14	七夕集会〔道〕	水泳選手激励会		
10	[かっこいいいきもの]	自然愛、動植物愛護			お楽しみ会をしよう		清掃週間
	いきものって かわいいね		7	振り返り活動・2〔学〕	楽しい夏休み	夏休みのくらし	夏休み
	[きめたことはさいごまで]	勤勉・努力	4	避難訓練〔学〕	夏休みを振り返って		夏休み作品展
11	ーりんしゃ		15	縦割清掃〔集〕	地震のとき	夏休みのくらしの反省	縦割清掃開始
	[おかあさんおめでとう]	家族愛	4	避難訓練〔行〕			避難訓練
	おかあさんおめでとう		4	避難訓練〔道〕	みんなの図書館		
12	[でんしゃのなかで]	公德心、規則の尊重	7	振り返り活動・2〔短〕	お年寄りを大切にしよう		
	おじさんのてがみ		10	1学期のめあて			1学期の反省
	[しょうじきなきこり]	誠実・明朗	11	2学期のめあて	2学期のめあて	1学期の反省	授業参観日
1	きんののおの		12	校内マラソン大会〔短〕	目を大切に	小中音楽発表会激励会	第1学期終業式
	[しんせつになったおかあみ]	思いやり・親切	2	遠足〔学〕	遠足に向けて		第2学期始業式
	はしのうえのおかみ		12	校内マラソン大会〔行〕	学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	校内マラソン大会
2	[なにかしてあげたいな]	尊敬・感謝					
	ごほうび(文部省)	礼儀	2	遠足〔行〕	校庭での遊び		遠足
	[こころをつなぐあいさつ]		12	校内マラソン大会〔道〕			
3	かめさんありがとう	勤勉・努力	2	遠足〔道〕	感謝して食べよう		
	[じぶんのためにがんばろう]		8	振り返り活動・3〔道〕	かせに気をつけよう		学習発表会
	はたらけさせ		5	校舎内での生活の仕方〔学〕	校舎内での生活の仕方		
4	[どうぶつえんのきまり]	公德心、規則の尊重			雪の日の道	なかよし給食	清掃週間
	キリンさん、ごめんね(文部省)		8	振り返り活動・3〔短〕			
	[ものをたいせつにするこころ]	節度・節制、自立	15	縦割清掃〔道〕			
5	おもちゃのかいぎ		16	チャレラン〔道〕	かせに気をつけよう		学習発表会
	[おもいやるこころ]	思いやり・親切	16	チャレラン〔児〕			
	花の かんむり(文部省)		16	チャレラン〔学〕	雪の日の道	なかよし給食	清掃週間
6	[ゆうきをだして]	勇気			かぜに気をつけよう		学習発表会
	うんどうくつ		5	校舎内での生活の仕方〔道〕	校舎内での生活の仕方		
	[あたたかいこころ]	思いやり・親切	9	振り返り活動・4〔学〕			
7	きみにあげるよ				雪の日の道	なかよし給食	清掃週間
	[なかよくあそぶ]	友情・信頼、助け合い	15	縦割清掃〔道〕			
	ブンブンごま(文部省)		16	チャレラン〔道〕		チャレンジランキング大会	スケート教室
8	[いのちをまもりそだてる]	生命尊重			みんなのよさ		
	ハムスターのあかちゃん		5	校舎内での生活の仕方〔道〕	お楽しみ会をしよう		授業参観日
	[かわいいいきもの]	自然愛、動植物愛護	9	振り返り活動・4〔学〕			
9	いきものって かわいいね				お楽しみ会をしよう	冬休みのくらし	授業参観日
	[かんしゃのこころを]	尊敬・感謝					
	ゆきのないみち		9	振り返り活動・4〔道〕	冬休みを振り返って	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
10	[じぶんのちからで]	節度・節制、自立					
	しまのおさるたち						
	[うつくしいおもいで]	敬虔					
11	しるいノート				豆まき		避難訓練
	[かけがえのないいのち]	生命尊重			男の子、女の子		スケート教室
	ナイチンゲール				6年生に感謝		授業参観フリーデー
12	[ありがとうのきもちをもって]	尊敬・感謝					
	ありがとう、六ねんせい		11	2学期のめあて〔学〕	1年生のまとめ	六年生を送る会	
	[かぞくのためにできること]	家族愛			新しい11年生を迎える準備		
1	ひいじいちゃんとうわし				楽しい春休み		修了式

道徳的実践プログラムの指導計画(第2学年)

《道徳の資料は「みんなのどうとく」(学研2年)》

道徳の時間	
月	「主題名」・資料名
4	[いつもどうもありがとう] くろいわのおじさん
	[あいさつであかるいせいかつ] あいさつがきらいな 王さま
	[しようじきなこころ] 子だぬき ボン
5	[きょう土をあいするこころ] ふるさと先生
	[事に気をつけて] どっきりしたこころ
	[いのちのつながり] びよちゃんと ひまわり
6	[そらだんするゆうき] 先生、おしえて
	[たすけ合い] こころのじ
	[きまりをまもる] でん車の中で
7	[いちずなおもい] むくどりのゆめ
	[ともだちっていいな] ひろったバスケット
	[わたしのだいじなあげは] 元気でね、あげはくん
8	[つらくてもがんばる] がんばれ ボボ
	[かぞくみんながせかいー] とうさんが つくったたこは、せかいー
	[みんなのやくそく] あぶら山
9	[よわいこころと、つよいこころ] シールのせいじや ない
	[しんせつの花をさかせよう] こころの花
	[おかあさん、ありがとう] きつねと ぶどう
10	[こころをつなぐありがとう] ほっかばか
	[しっかり やらうね] かきかたのじかんの こと
	[やくそくをまもる] ポケットふたつ(文部省)
11	[わがままはしっぱいのもと] わがままダンプの しっぱい
	[あいての ほんとうのきもちは?] こうえんのおにごっこ
	[こころでかんじるすっぱさあまさま] みかんの木の たら
12	[ぼんとうのゆうき] モチモチの木
	[あたたかなこころを] 白い車いす
	[ともだちっていいな] ゆつき と やっち(文部省)
1	[かけがえない いのち] わすれないよ、ゴン太
	[生きものにやさしくするこころ] くじらのハンフリー
	[かんしゃするこころ] ふえを ぶいて
2	[じぶんの力で] ねこの目
	[すがすがしいこころ] 七つぼし
	[たいせつないのち] はねのない かぶと虫
3	[おじさん、ありがとう] じぶんが しんごうきに(東京書籍)
	[かぞくのために] サパンナの子ども

道徳的実践活動	
活動番号	活動名(活動段階、時数扱い)
10	1学期のめあて〔学〕
1	交通安全教室〔短 行〕
1	交通安全教室〔学〕
6	振り返り活動・1〔学〕
6	振り返り活動・1〔道〕
13	縦割遊び(顔合わせ)〔集〕
3	プール利用〔学〕
3	プール利用〔行〕
10	1学期のめあて〔道〕
13	縦割遊び〔道〕
14	七夕集会〔道〕
3	プール利用〔道〕
14	七夕集会〔児〕
14	七夕集会〔道〕
7	振り返り活動・2〔学〕
4	避難訓練〔学〕
15	縦割清掃〔集〕
4	避難訓練〔行〕
4	避難訓練〔道〕
7	振り返り活動・2〔短〕
10	1学期のめあて
11	2学期のめあて
12	校内マラソン大会〔短〕
2	遠足〔学〕
12	校内マラソン大会〔行〕
2	遠足〔行〕
12	校内マラソン大会〔道〕
2	遠足〔道〕
8	振り返り活動・3〔道〕
8	振り返り活動・3〔短〕
5	校舎内での生活の仕方〔学〕
15	縦割清掃〔道〕
16	チャレラン〔道〕
16	チャレラン〔児〕
16	チャレラン〔学〕
5	校舎内での生活の仕方〔道〕
9	振り返り活動・4〔学〕
9	振り返り活動・4〔道〕
11	2学期のめあて〔学〕

学級活動	児童会活動	学校行事
題材名	活動名	行事名
2年生になって(2)		入学式
楽しい給食		交通安全教室
学校への行き帰り		授業参観日
基本的な生活習慣		家庭訪問
掃除の仕方		1年生清掃開始
日直と係の仕事		運動会
火事するとき		プール清掃
プールの約束		避難訓練
	陸上選手激励会	プール開き
丈夫できれいな歯		授業参観フリーデー
汗をかいたら	七夕集会	七夕飾り作り
水泳選手激励会		
お楽しみ会をしよう		清掃週間
楽しい夏休み	夏休みのくらし	夏休み
夏休みを振り返って		夏休み作品展
地震のとき	夏休みのくらしの反省	
		縦割清掃開始
みんなの図書館		避難訓練
お年寄りを大切にしよう		
2学期のめあて	1学期の反省	授業参観日
目を大切に	小中音楽発表会激励会	第1学期終業式
遠足に向けて		第2学期始業式
学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	校内マラソン大会
校庭での遊び		遠足
感謝して食べよう		
かぜに気をつけよう		学習発表会
校舎内での生活の仕方		
雪の日の道	なかよし給食	清掃週間
		スケート教室
	チャレンジランキング大会	
みんなのよさ		
お楽しみ会をしよう		授業参観日
	冬休みのくらし	
冬休みを振り返って	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
豆まき		避難訓練
男の子、女の子		スケート教室
6年生に感謝		授業参観フリーデー
2年生のまとめ	6年生を送る会	
お楽しみ会をしよう		
楽しい春休み		修了式

道徳的実践プログラムの指導計画(第3学年)

《道徳の資料は「みんなのどうとく」(学研3年)》

道徳の時間		
月	「主題名」・資料名	価値
4	[せいじつな気もち] やくそく	誠実・明朗
	[生きものへのやさしさ] 大自然のおきゃくさん	自然愛、動植物愛護
5	[心をそらえて] フラフープを下ろそう	愛校心
	[人のいいなりにならない] ろばを売りにいく親子	節度・節制、自立
	[いのちあるものを大切に] 目の見えない犬	生命尊重
6	[正しいことは思いきって] あと、ひとこと	勇気
	[わかり合える友] わががら	友情・信頼、助け合い
	[わたしたちにできることは] 耳を聞いてでかけられますか?	思いやり・親切
	[きまりは何のために] ポケットのあきかん	公徳心、規則の尊重
7	[この一日をだれかのために] お父さんのように	尊敬・感謝
	[親友ならどうする?] 絵はがきと切手	友情・信頼、助け合い
	[かندوقする心] ゆうどうえんばく	敬虔
8	[かがやくじぶんになるう] ずきなことから	勤勉・努力、忍耐
	[心が通い合う家ぞく] ほたる	家族愛
9	[みんなのものを大切に] あめ玉	公徳心、規則の尊重
	[明るいいで] ガラスの心	誠実・明朗
	[あい手のことを考えたいいぎ] しつれいおばさん	礼儀
10	[思いやること] 山ぐり(文部省)	思いやり・親切
	[生きものを大切に] ひきがえるところば	自然愛、動植物愛護
	[さいごまでやりとげる] すりばち村のだんだんばたけ	勤勉・努力、忍耐
	[みんなの場しよだから] 公園の自転車	公徳心、規則の尊重
	[わがままなおばあさん] はたらくって気持ちいい	節度・節制、自立 勤労
11	[ゆう気を出して] 心ないことば	勇気
	[うつくしい心] 花さき山	敬虔
	[日本の文化やでんどうを知ろう] ふるしき	愛国心
12	[みんな友だち] 明るくなった友だち	友情・信頼、助け合い
	[支えられている命] 生きているしるし(文部省)	生命尊重
1	[じぶんをふりかえって] あらし	思慮・反省
	[子どももまもるれいぎ] エチケットしんだん	礼儀
2	[じぶんの考えをはっきりと] じぶんの考えをつたえよう	節度・節制、自立
	[かんしやする心] かねつきどう	尊敬・感謝
3	[赤ちゃんが生まれるまで] おばちゃん、がんばれ	生命尊重
	[やさしい心と心] 新幹線で	思いやり・親切
	[きょう土をあいする心] 心の花たば	郷土愛

道徳的実践活動	
活動番号・活動名(活動段階、時数扱い)	
10 1学期のめあて〔学〕	
1 交通安全教室〔短 行〕	
1 交通安全教室〔学〕	
6 振り返り活動・1〔学〕	
6 振り返り活動・1〔道〕	
13 縦割遊び(顔合わせ)〔集〕	
17 アイマスク・白杖体験〔総〕	
3 プール開き〔学〕	
3 プール開き〔行〕	
17 アイマスク・白杖体験〔総〕	
10 1学期のめあて〔道〕	
13 縦割遊び〔道〕	
14 七夕集会〔道〕	
17 アイマスク・白杖体験〔道〕	
3 プール開き〔道〕	
21 宝寿荘訪問〔総〕	
14 七夕集会〔児〕	
21 宝寿荘訪問〔総〕	
21 宝寿荘訪問〔道〕	
14 七夕集会〔道〕	
7 振り返り活動・2〔学〕	
4 避難訓練〔学〕	
15 縦割清掃〔集〕	
4 避難訓練〔行〕	
4 避難訓練〔道〕	
7 振り返り活動・2〔短〕	
10 1学期のめあて〔学〕	
11 2学期のめあて〔学〕	
12 校内マラソン大会〔短〕	
2 遠足〔学〕	
12 校内マラソン大会〔行〕	
2 遠足〔行〕	
12 校内マラソン大会〔道〕	
2 遠足〔道〕	
8 振り返り活動・3〔道〕	
8 振り返り活動・3〔短〕	
5 校舎内での生活の仕方〔学〕	
15 縦割清掃〔学〕	
16 チャレラン〔学〕	
16 チャレラン〔児〕	
16 チャレラン〔道〕	
5 校舎内での生活の仕方〔道〕	
9 振り返り活動・4〔学〕	
9 振り返り活動・4〔道〕	
11 2学期のめあて〔学〕	

学級活動	児童会活動	学校行事
題材名	活動名	行事名
3年生になって(2)		入学式
児童会の一員として	児童会総会	交通安全教室 授業参観日
自転車に乗るとき		
基本的な生活習慣	運動会応援	家庭訪問
運動会に向けて		1年生清掃開始
図書と図書館のはたらき		運動会
丈夫できれいな歯		プール清掃 プール開き
プールの約束		避難訓練 プール開き
	陸上選手激励会	
雨の日の遊び方		授業参観フリーデー
七夕集会に向けて	七夕集会	七夕飾り作り
お年寄りを大切にしよう	水泳選手激励会	清掃週間
夏休みのくらし	夏休みのくらし方	夏休み
夏休みの反省		夏休み作品展
	夏休みのくらしの反省	
避難の仕方		縦割清掃開始 避難訓練
新しい学級委員		
家庭学習を工夫しよう		
2学期のめあて	1学期の反省	授業参観日 第1学期終業式
視力低下の原因とその予防	小中音楽発表会激励会	第2学期始業式
遠足に向けて	学習発表会に向けて	遠足
学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	校内マラソン大会
感謝して食べよう		
かぜに気をつけよう		学習発表会
本に親しむ		
校舎内での生活の仕方		
友達の良いところ	なかよし給食	清掃週間
	チャレンジランキング大会	スケート教室
寒いときの過ごし方	チャレラン表彰式	
冬休みのくらし	冬休みのくらし方	授業参観日
冬休みの反省	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
児童会活動の意義	児童会総会	避難訓練
私の誕生	児童会役員引継ぎ会	スケート教室 授業参観フリーデー
6年生に感謝		
一年間を振り返って	六年生を送る会	
お楽しみ会をしよう		
もうすぐ4年生		修了式

道徳的実践プログラムの指導計画(第4学年)

(道徳の資料は「みんなのどうとく」(学研4年))

道徳の時間		
月	「主題名」・資料名	価値
4	[心あわせて作る学級] さくらの下でみんながわらった	愛校心
	[まごころをもって] 春の星	礼儀
5	[命のふしぎ] 自然のゆりかご	敬虔
	[じぶんのことはじぶんで] エジソンとえいじ	節度・節制、自立
	[思いやり心を伝えよう] 心の信号機	思いやり・親切
6	[生命を大切に守る心] パンダの命をすくえ	生命尊重
	[困難を乗り越えて] 父をせおって(文部省)	勇気
	[みんなでいっしょに] オトちゃんルール	友情・信頼、助け合い
	[心の内にある決まり] 雨のバス停りゅう所	公德心、規則の尊重
7	[友だちのために] いのりの手	友情・信頼、助け合い
	[みんな、生きている] うみがめの命	自然愛、動植物愛護
	[家族の一員ならば] お母さんのせいきゅう書	家族愛
8	[ゆめの実現のために] 日本一の料理人	勤勉・努力、忍耐
	[自然っていいな] わが家は自然観察園	自然愛、動植物愛護
9	[みんなの場所を] 日曜日のバーベキュー(東京書籍)	公德心、規則の尊重
	[いじめを考える] わたしのいもうと	思いやり・親切
	[気持ちのよい礼ぎ] 小さなしんしたち	礼儀
10	[きょう土の伝とうを守る] 祭りだいに	郷土愛
	[みんなのためにつくす人びと] あと三十分おくれたら	尊敬・感謝
	[目いように向かって] グレンよ、走れ	勤勉・努力、忍耐
	[みんなのためにできること] あぶない道	公德心、規則の尊重
11	[節度ある生活] 友だちのしょうこ	節度・節制、自立
	[正直に生きる] 百点を十回とれば	誠実・明朗
	[本当のゆう気とは] 心にひびくかねの音	勇気
	[気高く、美しい心] ジャングル大帝	敬虔
12	[すばらしい日本の文化] 日本のおべん当	愛国心
	[しんじ合う友だち] もどらない友	友情・信頼、助け合い
	[命の重さ] お母さん、なかないで	生命尊重
1	[すがすがしい心で] うそつきの落ちる橋	思慮・反省
	[進んで人のために] 神戸のふっこうは、ぼくらの手で	勤労
2	[本当に大切なものは] マイダス王のなげき	節度・節制、自立
	[ありがとうみんなのために] 谷川岳に生きたドクター	尊敬・感謝
	[なによりも尊いもの] 人間愛の金メダル(東京書籍)	生命尊重
3	[人の気持ちを考える] 温かいことば	思いやり・親切
	[せい実生きる] うそのつけないわか者	誠実・明朗

道徳的実践活動	
活動番号	活動名(活動段階、時数扱い)
10	1学期のめあて【学】
1	交通安全教室【短 行】
1	交通安全教室【学】
6	振り返り活動・1【学】
6	振り返り活動・1【道】
13	縦割遊び(顔合わせ)【集】
3	プール開き【学】
3	プール開き【行】
10	1学期のめあて【道】
13	縦割遊び【道】
14	七夕集会【道】
3	プール開き【道】
14	七夕集会【児】
14	七夕集会【道】
7	振り返り活動・2【学】
4	避難訓練【学】
15	縦割清掃【集】
4	避難訓練【行】
4	避難訓練【道】
7	振り返り活動・2【短】
10	1学期のめあて【学】
11	2学期のめあて【学】
23	一人暮らしのお年よりの交流【総】
12	校内マラソン大会【短】
2	遠足【学】
23	一人暮らしのお年よりの交流【総】
12	校内マラソン大会【行】
23	一人暮らしのお年よりの交流【道】
2	遠足【行】
12	校内マラソン大会【道】
2	遠足【道】
8	振り返り活動・3【道】
8	振り返り活動・3【短】
5	校舎内での生活の仕方【学】
15	縦割清掃【学】
16	チャレラン【学】
16	チャレラン【児】
16	チャレラン【道】
5	校舎内での生活の仕方【道】
9	振り返り活動・4【学】
9	振り返り活動・4【道】
11	2学期のめあて【学】

学級活動	児童会活動	学校行事
題材名	活動名	行事名
4年生になって②		入学式
児童会の一員として	児童会総会	交通安全教室
学校へ通う道		授業参観日
基本的な生活習慣	運動会応援	家庭訪問
運動会に向けて		1年生清掃開始
なごやかな気分で		運動会
丈夫できれいな歯		プール清掃
プールの約束		避難訓練
	陸上選手激励会	プール開き
雨の日のくらし		授業参観フリーデー
七夕集会に向けて	七夕集会	七夕飾り作り
学校をきれいに	水泳選手激励会	清掃週間
夏休みのくらし	夏休みのくらし方	夏休み
夏休みの反省		夏休みの反省
安全な避難	夏休みのくらしの反省	夏休み作品展
後期組織作り		縦割清掃開始
家庭学習を工夫して	自然愛、動植物愛護	避難訓練
2学期のめあて	1学期の反省	授業参観日
姿勢と健康	小中音楽発表会激励会	第1学期終業式
学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	第2学期始業式
遠足に向けて		校内マラソン大会
本に親しむ		遠足
感謝して食べよう		学習発表会
校舎内での生活の仕方		
かぜに気を付けよう	なかよし給食	清掃週間
友達の良いところ	チャレンジランキング大会	スケート教室
雪道の登下校	チャレラン表彰式	授業参観日
冬休みのくらし	冬休みのくらし方	
冬休みの反省	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
高学年に向けて	児童会総会	避難訓練
私の成長	児童会役員引継ぎ会	スケート教室
6年生に感謝		授業参観フリーデー
一年間を振り返って	六年生を送る会	
お楽しみ会をしよう		修了式
もうすぐ5年生		

道徳的実践プログラムの指導計画(第5学年)

《道徳の資料は「みんなのどうとく」(学研5年)》

道徳の時間		道徳的実践活動		学級活動	児童会活動	学校行事
月	【主題名】・資料名	価値	活動番号・活動名(活動段階、時数扱い)	題材名	活動名	行事名
4	【自分らしさを発揮させよう】 ドラえもんの声	向上心、個性伸 長	10 1学期のめあて【学】 1 交通安全教室【短 行】	5年生になって②	児童会総会	入学式 交通安全教室 授業参観日
	【きょう土を愛する心】 わたしの心のアルプス	郷土愛、愛国心	1 交通安全教室【学】	児童会の一員として	児童会総会	授業参観日
5	【だれもが大切な人ばかり】 わたしはひろがる	公正・公平、正 義	6 振り返り活動・1【学】	正しい自転車の乗り方	運動会応援	家庭訪問 1年生清掃開始
	【よく考えて行動する】 愛する奈々ちゃんへ	思慮・反省、節 度・節制	6 振り返り活動・1【道】	運動会に向けて		1年生清掃開始
	【自由ときつある行動】 うばわれた自由	自由・規律	13 縦割遊び(顔合わせ)【集】	図書の特色と利用		運動会 プール清掃
6	【かけがえない命】 命	生命尊重	3 プール開き【学】 3 プール開き【行】	丈夫な歯 プールの約束	陸上選手激励会	避難訓練 プール開き
	【苦しみに負けない心】 上を向いて歩こう	希望、勇気、不 撓不屈	10 1学期のめあて【道】 2 生活学校【学】	生活学校に向けて		授業参観フリーデー
	【おたがいを大切にしながら】 ことばのおくりもの	友情・信頼、助 け合い	13 縦割遊び【道】 14 七夕集会【道】			
	【教えなければならなかったきまり】 母からのメモ(文部省)	公徳心、規則の 尊重	3 プール開き【道】			
	【友達のために】 友の命(東京書籍)	友情・信頼、助 け合い	14 七夕集会【児】 2 生活学校【行】	七夕集会に向けて	七夕集会	七夕飾り作り
7	【公共物を大切に】 まいごのカナリア号	公徳心、規則の 尊重、権利・義 務	18 ルンビニー苑作業体験【総】 18 ルンビニー苑作業体験【総】	正しい給食の仕方		清掃週間
	【あたたかな心】 人の心にふれて	思いやり・親切	14 七夕集会【道】 2 生活学校【道】 18 ルンビニー苑作業体験【道】	夏休みのくらし	夏休みのくらし方	夏休み
	【本当の美しさ】 美しいお面	敬虔	7 振り返り活動・2【学】 4 避難訓練【学】	夏休みの反省 安全な避難	夏休みのくらしの反省	夏休み作品展 縦割清掃開始 避難訓練
	【自然を大事にする】 チョモランマ清掃登山隊	自然愛、環境保 全	15 縦割清掃【集】 4 避難訓練【行】			
8	【進んで義務を果たす】 危険です ガラスが入っています(文部省)	公徳心、規則の 尊重	4 避難訓練【道】 19 ウォークラリー【総】	後期組織作り		
	【気持ちのよいあいさつ】 よいあいさつが、よい出会いをつくる	礼儀	7 振り返り活動・2【短】 19 ウォークラリー【総】	男女仲良く		
	【心のあたたかさにふれて】 思いもよらぬできごと	思いやり・親切	19 ウォークラリー【道】 10 1学期のめあて【学】 11 2学期のめあて【学】	1学期の反省		授業参観日
	【じぶんがやるべきことの目標】 とり返しのつかない一日	役割と責任の自 覚	20 学校への招待【総】 12 校内マラソン大会【短】	2学期のめあて		第1学期終業式 第2学期始業式
9	【困った人の身になって】 くずれ落ちたダンボール箱(東京書籍)	思いやり・親切	20 学校への招待【総】 12 校内マラソン大会【行】	目の健康	小中音楽発表会激励会	第2学期始業式
	【希望をもって】 メジャーリーグ・イチロー	希望、勇気、不 撓不屈	20 学校への招待【道】 12 校内マラソン大会【道】	学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	校内マラソン大会
	【広い心で相手のことを考えて】 銀のろうそく立て	寛容・謙虚				
10	【節度ある生活】 流行おくれ	思慮・反省、節 度・節制	8 振り返り活動・3【道】	スポーツ大会をしよう		
	【感しゃの心】 おじいさんのあたたかな目	尊敬・感謝		本に親しむ		
	【考えたことを試すこと】 ゼロハンテープの発達	創意・進取	8 振り返り活動・3【短】	感謝して食べよう		学習発表会
	【家族の幸せ】 新しい家族「陽平」にカンパイ	家族愛	5 校舎内での生活の仕方【学】	かぜの予防	校舎内での生活の仕方	
11	【心でわかり合うすばらしさ】 もうひとつのふるさと	国際理解・親善	15 縦割清掃【学】 16 チャレラン【学】	自分のよさ、友達よさ	なかよし給食	清掃週間
	【男女が理解しあう心】 心のレシーブ(東京書籍)	友情・信頼、助 け合い	16 チャレラン【児】 16 チャレラン【道】	雪道の登下校	チャレラン表彰式	スケート教室
	【とうとい命】 母とながめた一番星	生命尊重	5 校舎内での生活の仕方【道】	冬休みのくらし	冬休みのくらし方	授業参観日
12	【みんなのために働く】 まごころのボランティア活動	勤労、社会奉 仕、公共心	9 振り返り活動・4【学】	冬休みの反省	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
	【自然や人の心の美しさ】 アルソミトラの空(文部省)	敬虔				
1	【健康を見直す】 「豆シヤブの心こしませ」きんさん・ぎんさん(東京書籍)	節度・節制、自 立	9 振り返り活動・4【道】	児童会引継ぎに向けて	児童会総会	避難訓練
	【感謝の心】 あしるい花の種は、ほくの心のなかに	尊敬・感謝		命のはじまり	児童会役員引継ぎ会	スケート教室 授業参観フリーデー
	【かけがえない命】 あの子があぶない(文部省)	生命尊重		六送会に向けて		
2	【せい実な心】 手品師	誠実・明朗	11 2学期のめあて【学】	一年間を振り返って お楽しみ会をしよう	六年生を送る会	
	【母校を愛する心】 さざんかの花	愛校心		春休みのくらし		修了式

道徳的実践プログラムの指導計画（第6学年）

《道徳の資料は「みんなのどうとく」（学研6年）》

月	道徳の時間	
	「主題名」・資料名	価値
4	【あいさつする心】 エレベーターとわたし 【社会のためにつくす】 マザー・テレサ	礼儀 勤労、社会奉仕、公共心
	【じゅうなんな発想でものごとを考える】 ミッキーマウスの誕生 【じぶん勝手な心】 くもの糸 【命の尊さ】 ラッシュアワーの惨劇	創意・進取 思慮・反省、節度・節制 生命尊重
6	【食事のマナー】 いただきます(文部省)	公德心、規則の尊重、権利・義務
	【生きがいを求めて】 なぜ子供は学校に行かねばならないのか 【相手の力になるとは】 ロレンゾの友達(文部省)	希望、勇気、不撓不屈 友情・信頼、助け合い
	【きまりの意味】 おばあさんの抗議(文部省)	公德心、規則の尊重
	【みんなの力で】 森の絵 【本当の友情とは】 いじめられて 【支え合う心】 ボランティアあう関係	役割と責任の自覚 友情・信頼、助け合い 尊敬・感謝
8	【にくしみをこえた美しい心】 青の洞門 【自然を大切に】 花かけの花守りたち	敬虔 自然愛、環境保全
	【きまりを守るには】 きまりってどうして必要なの？ 【見えない規りつ】 移動教室の夜	公德心、規則の尊重 自由・規律
10	【ありがたいと思う心】 新聞のスラップ帳 【広い心で】 ひとふさのぶどう 【正しいと信じて】 わたしの一票 【じぶんの心にせい実】 のりづけされた詩 【くじけない心】 橋をかける	尊敬・感謝 寛容・謙虚 公正・公平、正義 誠実・明朗 希望、勇気、不撓不屈
	【ものを大切に】 食べ残されたえびになみだ 【家族とともに】 鈴虫が鳴いた 【日本人としてのほこり】 こころざし高く、今を熱く生きる 【人の真心】 雪のぼうし	思慮・反省、節度・節制 家族愛 郷土愛、愛国心 思いやり・親切
	【差別を許さない】 どれい解放の父・リンカーン 【男女仲よく】 絵地図の思い出(文部省) 【生命のかがやき】 わたしの思い	公正・公平、正義 友情・信頼、助け合い 生命尊重
	【外国の文化を大切に】 サンタクロースっているんでしょうか？ 【美を求める姿勢】 百一歳の富士(文部省)	国際理解・親善 敬虔
2	【率直な反省】 「すんまへん」でいい(東京書籍) 【じぶんの中の宝物】 人間はすばらしい 【精神的な生命】 祖母のつえ(文部省)	思慮・反省、節度・節制 向上心、個性伸長 生命尊重
	【よりよい学校に】 きえた紙くず 【相手の立場に立って】 最後のおくり物(文部省)	愛校心 思いやり・親切

道徳的実践活動	
活動番号	活動名(活動段階、時数扱い)
10	1学期のめあて〔学〕
1	交通安全教室〔短 行〕
1	交通安全教室〔学〕
6	振り返り活動・1〔学〕
2	修学旅行〔学〕
6	振り返り活動・1〔道〕
13	縦割遊び〔顔合わせ〕〔集〕
2	修学旅行〔行〕
3	プール開き〔学〕
2	修学旅行〔道〕
3	プール開き〔行〕
10	1学期のめあて〔道〕
13	縦割遊び〔道〕
14	七夕集会〔道〕
3	プール開き〔道〕
14	七夕集会〔児〕
22	いしどりや荘訪問〔総〕
22	いしどりや荘訪問〔総〕
14	七夕集会〔道〕
22	いしどりや荘訪問〔道〕
7	振り返り活動・2〔学〕
4	避難訓練〔学〕
15	縦割清掃〔集〕
4	避難訓練〔行〕
4	避難訓練〔道〕
7	振り返り活動・2〔短〕
10	1学期のめあて〔学〕
11	2学期のめあて〔学〕
12	校内マラソン大会〔短〕
12	校内マラソン大会〔行〕
12	校内マラソン大会〔道〕
8	振り返り活動・3〔道〕
8	振り返り活動・3〔短〕
5	校舎内での生活の仕方〔学〕
15	縦割清掃〔学〕
16	チャレラン〔学〕
16	チャレラン〔児〕
16	チャレラン〔道〕
5	校舎内での生活の仕方〔道〕
9	振り返り活動・4〔学〕
9	振り返り活動・4〔道〕
11	2学期のめあて〔学〕

学級活動	児童会活動	学校行事
題材名	活動名	行事名
最上級生として		入学式
児童会の一員として	児童会総会	交通安全教室 授業参観日
正しい登校		家庭訪問
基本的な生活習慣	運動会応援	1年生清掃開始
修学旅行に向けて		運動会
運動会に向けて		プール清掃
役立つ図書		修学旅行
丈夫な橋		避難訓練
プールの約束	陸上選手激励会	プール開き
心とからだの成長		授業参観フリーデー
七夕集会に向けて	七夕集会	七夕飾り作り
お年寄りを大切にしよう	水泳選手激励会	清掃週間
夏休みのくらし	夏休みのくらし方	夏休み
夏休みの反省	夏休みのくらしの反省	夏休み作品展
危険なことが起きたら		縦割清掃開始
後期組織作り		避難訓練
男女の役割		
2学期のめあて		
腰痛と背骨の異常	小中音楽発表会激励会	授業参観日 第1学期終業式 第2学期始業式
学習発表会に向けて	学習発表会に向けて	校内マラソン大会
規律ある生活		
本に親しむ		学習発表会
自分よさ、友達よさ	なかよし給食	清掃週間
雪道の登下校	チャレラン表彰式	スケート教室
冬休みのくらし	冬休みのくらし方	授業参観日
冬休みの反省	冬休みのくらしの反省	冬休み作品展
児童会引継ぎに向けて	児童会総会	避難訓練
異性とのかわり	児童会役員引継ぎ会	スケート教室 授業参観フリーデー
卒業に向けて		
一年間を振り返って	六年生を送る会	
卒業に当たって		修了式
春休みの過ごし方		

道徳的実践活動1～5の活動計画

1 道徳的実践活動のねらい

自他の安全を守るために、法や社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。

2 活動・体験場面

学校行事、学級活動、児童会活動

3 位置付ける教育活動

1交通安全教室、2遠足・集団宿泊的行事、3プール利用、4避難訓練、5児童会生活目標への取組

4 実施期間（4月11日～12月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動の ねらい	段階1 道徳的価値への 気づき	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにお ける評価の視点
自他の安全を守るために、交通ルールを理解させると共に、危険を未然に防ぐ判断力と態度を育てる	【短学活】 交通安全教室に臨む前に、どのようなねらいをもって教室に参加するかめあてを設定する	【学校行事】 1交通安全教室	【学級活動】 題材 学校へ通う道（低学年） 自転車の乗り方（中・高学年）	〔活動シート1〕 交通安全に関して命の大切さを踏まえて判断し、それを基に行動しようとしている
集団行動において、どのように行動することが自他の安全を確保することにつながるか判断し、行動しようとする態度を育てる	【学級活動】 題材 遠足に向けて（1～4年生） 生活学校に向けて（5年生） 修学旅行に向けて（6年生）	【学校行事】 2遠足・集団宿泊的行事 1～4年生 遠足 5年生 生活学校 6年生 修学旅行	【道徳の時間】 価値 4 (1) 公德心、規則の尊重	〔活動シート2〕 自他の安全を確保するという視点において約束やめあての意義を考え、行動しようとしている
プール利用において、どのようにすることが自他の安全を守ることにつながるか判断し、命を大切にしようとする態度を育てる	【学級活動】 題材 プールの約束	【学校行事】 3プール開き	【道徳の時間】 価値 4 (1) 公德心、規則の尊重	〔活動シート3〕 プール利用において、自他の安全を確保するという視点において、行動しようとしている
自他の安全を守るために、地震や火災の際の対処の仕方を体験をとおして理解させ、現実の場面において実践しようとする態度を育てる	【学級活動】 題材 地震や火事の時 安全な避難 危険なことが起きたら	【学校行事】 4避難訓練	【道徳の時間】 価値 4 (1) 公德心、規則の尊重	〔活動シート4〕 地震や火災の際の避難の仕方は、自他の安全を確保するために重要であることに気づき、有事の際に実践しようとしている
廊下歩行などのルールを守らなければならない理由を考え、自他の安全を守ろうとする態度を育てる	【学級活動】 題材 校舎内での過ごし方、遊び方	【児童会】 5児童会生活目標への取組	【道徳の時間】 価値 3 (2) 生命尊重	〔活動シート5〕 校舎内での生活の仕方によっては、自他の安全を脅かすことにもつながりかねないことに気づき、安全に行動しようとしている

道徳的実践活動 6～9 の活動計画

1 道徳的実践活動のねらい

基本的な生活習慣の確立に向けて活動することによって、節度を守り、節制に心がけようとする態度を育てる。

2 活動・体験場面

振り返り活動

3 位置付ける教育活動

6 振り返り活動・1、7 振り返り活動・2、8 振り返り活動・3、9 振り返り活動・4

4 実施期間（5月・8月・11月・1月の2週間）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	6 振り返り活動・1（5月）						8 振り返り活動・3（11月）				
				7 振り返り活動・2（8月）					9 振り返り活動・4（1月）		

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動の ねらい	段階1 道徳的価値への 気付き	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにお ける評価の視点
振り返りカードの活 用の仕方を理解さ せ、基本的な生活習 慣を身に付けようと する態度を育てる	【学級活動】 題材 基本的な生活習慣	【（家庭）】 6 振り返り活動・1	【道徳の時間】 価値 1（1） 節度・節制、自立	〔活動シート6〕 節度を守って生 活することの大 切さに気付き、 自らの課題を克 服しようとして いる
夏休み後の学校や家 庭での生活について 関心をもたせ、基本 的な生活習慣を身に 付けようとする態度 を育てる	【学級活動】 題材 夏休みを振り返って （低学年） 夏休みの反省（中・高学年）	【（家庭）】 7 振り返り活動・2	【短学活】 取組期間終了後に、個 と全体の変容を分析・ 整理し、児童及び家庭 に対する指導・支援を 行う	〔活動シート7〕 夏休み中の生活 習慣を改める必 要性に気付き、 改善を図ろうと している
生活習慣の改善に向 けたこれまでの活動 を振り返り、より望 ましい生活習慣を身 に付けようとする態 度を育てる	【道徳の時間】 価値 1（1） 節度・節制、自立	【（家庭）】 8 振り返り活動・3	【短学活】 取組期間終了後に、個 と全体の変容を分析・ 整理し、児童及び家庭 に対する指導・支援を 行う	〔活動シート8〕 自分の生活習慣 上の課題がどの ようなことから おきているか調 べ、それを克服 するための具体 的な手立てを考 えている
冬休み後の学校や家 庭での生活について 関心をもたせ、基本 的な生活習慣を身に 付けようとする態度 を育てる	【学級活動】 題材 冬休みを振り返って （低学年） 冬休みの反省（中・高学年）	【（家庭）】 9 振り返り活動・4	【道徳の時間】 価値 1（1） 節度・節制、自立	〔活動シート9〕 冬休み中の生活 習慣を改める必 要性に気付き、 改善を図ろうと している

道徳的実践活動 10~12 の活動計画

1 道徳的実践活動のねらい

目標に向かって努力する過程において、粘り強くやり遂げようとする態度と困難にあっても自己をコントロールしようとする態度を育てる。

2 活動・体験場面

学期のめあて、健康安全・体育的行事

3 位置付ける教育活動

10 1学期のめあてに向けての取組、11 2学期のめあてに向けての取組、12 校内マラソン大会

4 実施期間(4月~3月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10 1学期のめあてに向けての取組(4月~9月)						11 2学期のめあてに向けての取組(10月~3月)					
						12 校内マラソン大会(10月)					

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動のねらい	段階1 道徳的価値への 気付き	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにお ける評価の視点
昨年度までの生活や学習の成果と課題を想起することによって、1学期のめあてを設定し、それに向かって努力する過程において、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を育てる	【学級活動】 題材 年生になって (1~5年) 最上級生として(6年)	【(学校・家庭)】 10 1学期のめあて に向けての取組 【道徳の時間】 価値 低学年 1 (3) 勇気 中学年 1 (4) 勇気 高学年 1 (2) 希望、勇気、不撓不屈	【学級活動】 題材 2学期のめあて	〔活動シート10〕 自分のめあてを達成させるために、善悪の判断をしながら努力しようとしている
1学期のめあてに向けての取組を振り返らせ、その成果と課題を明らかにし、2学期のめあてに向かってあきらめず努力し、困難にあっても自分を見失わず立ち向かおうとする態度を育てる	【学級活動】 題材 2学期のめあて	【(学校・家庭)】 11 2学期のめあて に向けての取組	【学級活動】 題材 年生のまとめ (低学年) 1年間を振り返って (中・高学年)	〔活動シート11〕 めあての達成に際して、困難な状況にあってもあきらめず努力しようとしている
4月からの体力づくり運動に目標をもって取り組み、校内マラソン大会において達成感・充実感をもたせることにより、粘り強く努力しようとする態度を育てる	【短学活】 試走前にめあてを設定させ、各試走後に振り返りをさせながら、本番に向けてのめあてを明らかにさせる	【学校行事】 12 校内マラソン大会	【道徳の時間】 価値 低学年 1 (2) 勤勉・努力 中学年 1 (3) 勤勉・努力、忍耐 高学年 1 (2) 希望、勇気、不撓不屈	〔活動シート12〕 校内マラソン大会に向けて、自分の目標をもって体力づくりに取り組み、粘り強く努力することの大切さに気付いている

同時

道徳的実践活動 13~16 の活動計画

1 道徳的実践活動のねらい

異学年交流を通して、信頼と友情を深め、協力して活動しようとする態度を育てる。

2 活動・体験場面

縦割活動

3 位置付ける教育活動

13縦割遊び、14七夕集会、15縦割清掃、16チャレンジランキング大会

4 実施期間（6月～12月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		13縦割遊び（6月）		15縦割清掃（8～3月）							
			14七夕集会（7月）					16チャレンジランキング大会（12月）			

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動のねらい	段階1 道徳的価値への 気づき	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにお ける評価の視点
5月の班編成を受けて、楽しい縦割遊びにするために、どのように行動することが大切かを考え行動する過程をとおして、相互理解を深めさせる	【集会活動】 顔合わせ会	【（昼休み）】 13縦割遊び	【道徳の時間】 価値 2 (3) 友情・信頼、助け合い	〔活動シート13〕 楽しく縦割遊びをすることによって、互いのよさに気付いている
縦割遊びで培った相互理解を基に、七夕飾りづくりに取り組ませることによって、互いの信頼と友情を深めさせる	【道徳の時間】 価値 2 (3) 友情・信頼、助け合い	【児童会】 14七夕集会	【道徳の時間】 価値 2 (3) 友情・信頼、助け合い	〔活動シート14〕 共同作業を通して、互いを理解し合っている
それまでの相互理解と信頼関係を基にして、清掃活動に取り組ませ、互いのよさを再発見することをおして、信頼と友情を深めさせる	【集会活動】 全体打ち合わせ会	【清掃時間】 15縦割清掃	【学級活動】 題材 みんなのよさ（低学年） 友達のいいところ （中学年） 自分のよさ、友達のよさ （高学年）	〔活動シート15〕 共同作業を通して、互いを理解し合い、信頼感を深めている
それまでの相互理解と信頼関係を基にして、班の勝利に向かって活動させることによって、互いを肯定的に受け止めようとする態度を育てる	【学級活動】 題材 みんなのよさ（低学年） 友達のいいところ （中学年） 自分のよさ、友達のよさ （高学年）	【児童会】 16チャレンジランキング大会	【道徳の時間】 価値 2 (3) 友情・信頼、助け合い	〔活動シート16〕 互いを肯定的に受け止め、協同の活動において助け合っている

道徳的実践活動 17~20 の活動計画

1 道徳的実践活動のねらい

学習対象となる人とのかかわり方について考えることによって、自分と他者とのつながりを深め、思いやりの心情を育むと共に、親切に接しようとする態度を育てる。

2 活動・体験場面

キャップハンディ体験

3 位置付ける教育活動

3年 17 アイマスク・白杖体験

5年 ルンビニー苑の方々との交流活動

18 ルンビニー苑作業体験、19 ウォークラリー、20 学校へのご招待

4 実施期間（6月～10月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		17 アイマスク・白杖体験(6月)			19 ウォークラリー(9月)						
			18 ルンビニー苑作業体験(7月)			20 学校へのご招待(10月)					

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動のねらい	段階1 道徳的価値への 気付き	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにおける評価の視点
福祉に関する課題を追究することによって、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心をもって、親切にしようとする心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 17 アイマスク・白杖体験	【道徳の時間】 価値 2 (2) 思いやり・親切	〔活動シート17〕 視覚障害者が日常生活を送る上で、どのような思いや願いをもっているか感じ、自分なりにできることを考えている
福祉施設における共通の作業体験をとおして、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 18 ルンビニー苑作業体験	【道徳の時間】 価値 2 (2) 思いやり・親切	〔活動シート18〕 協同作業により、知的障害者の思いや願いに気付き、思いやりをもって接しようとしている
福祉施設の方々との共通体験をとおして、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 19 ウォークラリー	【道徳の時間】 価値 2 (2) 思いやり・親切	〔活動シート19〕 知的障害者に対する理解を深めている
これまで、共に活動してきたことを振り返らせ、相手に感謝し、思いやりの心をもって親切にしようとする態度を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 20 学校へのご招待	【道徳の時間】 価値 2 (2) 思いやり・親切	〔活動シート20〕 知的障害者から学んだことを基に、感謝の気持ちを表す会を企画し、これからの接し方について考えている

道徳的実践活動 21～23 の指導計画

- 1 道徳的実践活動のねらい
学習対象となる人とのかかわり方について考えることによって、自分と他者とのつながりを深め、尊敬と感謝の心情を育てる。
- 2 活動・体験場面
高齢者との交流活動
- 3 位置付ける教育活動
3年 21 宝寿荘訪問
6年 22 いしどりや荘訪問
4年 23 一人暮らしのお年よりとの交流
- 4 実施期間（7月～10月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			21 宝寿荘訪問（7月）			23 一人暮らしのお年よりとの交流（10月）					
			22 いしどりや荘訪問（7月）								

5 活動・体験場面におけるねらいの系統性

道徳的実践活動のねらい	段階1 道徳的価値への 気づき	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり	活動シートにおける評価の視点
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などにふれさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 21 宝寿荘訪問	【道徳の時間】 価値 中学年 2 (4) 尊敬・感謝 三年生	〔活動シート21〕 これまでの生活を支えてきた高齢者の知恵や苦勞についての課題を追究し、尊敬や感謝の念をもっている
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などにふれさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 22 いしどりや荘訪問 (6年生)	【道徳の時間】 価値 高学年 2 (5) 尊敬・感謝	〔活動シート22〕 日々の生活や自分が生きていけることへの感謝の念をもち、自分にできることを考えている
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などにふれさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる	【総合的な学習の時間】 福祉に関する課題追究	【総合的な学習の時間】 23 一人暮らしのお年よりとの交流	【道徳の時間】 価値 中学年 2 (4) 尊敬・感謝 四年生	〔活動シート23〕 これまでの生活を支えてきた高齢者の知恵や苦勞についての課題を追究し、尊敬や感謝の念をもっている

道徳的実践活動①の実施計画

- 1 育てる力 規範意識を高める力
- 2 関連する価値 公徳心、規則の尊重【低・中学年 4 -(1)】 公徳心、規則の尊重、権利・義務【高学年 4 -(2)】
- 3 道徳的実践活動①のねらい
自他の安全を守るために、交通ルールを理解させると共に危険を未然に防ぐ判断力と態度を育てる。
- 4 実施期間 平成 18 年 4 月 11 日～ 4 月 21 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気づき

4月11日(朝の会 10分)
この時間のねらい：交通安全教室の概要をとらえさせ、安全な歩行の仕方や自転車利用の仕方について、ねらいを設定させる
活動の概要：活動時間、活動場所、講師等についての連絡
示す内容：低学年 安全な登下校のための道路の歩行の仕方
中・高学年 安全な自転車利用及び自転車による登下校の仕方

活動・体験

交通安全教室

4月11日(3・4時間目 行事2)
本時のねらい：交通ルールを理解すると共に、自動車を運転する人の立場になって考えることにより、交通安全を心がけようとする態度を育てる

進め方：

1	はじめの言葉(教頭)
2	校長先生のお話と指導隊の方々の紹介
3	児童代表あいさつ(6年代表)
4	指導隊の方々のお話
5	実習
6	講評
7	お礼の言葉(6年代表)
8	おわりの言葉(教頭)

指導の重点：低学年 安全な登下校のための安全確認の仕方と意志の伝え方
 中学年 自転車利用に当たって、歩行者及び自動車の運転手に対して、自分の意志を伝えるための手信号の仕方
 高学年 信号機がある交差点とない交差点での自転車利用の仕方を理解し、身に付ける

道徳性の高まり

学級活動

4月13日～21日
本時のねらい：体験をととして学んだことの重要性や意義について理解を深め、法や社会のきまりを守るための判断力と態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 これまでの生活の中で、交通安全に関して感じたことや思っていることなどを交流する 2 交通事故の実態を示す写真、グラフ、新聞資料、交通安全教室での活動の様子などを提示し、学習課題を設定する <u>なぜ・・・が必要なのか考えよう</u>
課題追究	3 課題を解決するための見通しをもつ ・ 解決するための方法 ・ 課題にそのものに対する自己決定 4 課題を追究する ・ 資料及び講師の招聘 ・ 班及び学級全体での意見交流 5 全体で安全確認や手信号などについての重要性や意義について話し合う 6 交通安全に関する行動様式が自分たちの安全のためにあることに気づく
まとめ	7 本時の課題と本道徳的実践活動にかかわる道徳的価値について振り返る(1・2年生は本時の課題についてのみ)

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シートの教室掲示、夏休み前の安全指導で本活動を想起させる
事件・事故が発生した際の指導で本活動を想起させる

主な指導と留意点	
活動シート①の準備	
前年度の交通安全教室に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
公徳心や規則の尊重に関する児童の実態調査	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
3つの段階のねらいに基づいた指導の重点のおさえ	
予想される児童のめあてを考える	
自動車の運転手の視点からとらえられるような配慮(場の設定等)	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
活動の様子を記録する準備(静止画・動画などの記録)	
交通安全教室の概要についてのわかりやすい提示	
重点内容についてのわかりやすい提示	
各自のめあては適切か(低学年は教師からの提示)	
中学年以上はめあて設定の理由まで考えられているか	
活動シート①への振り返りの時間の確保(低学年は学校、中学年以上は家庭で)	
各自のめあての把握と交通安全教室における個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート①の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て	
課題に対する見通しをもたせるための手立て	
課題を追究させるための資料提示、講師の招聘、話し合いの組織化などの工夫	
課題を解決させるための指導の手立て	
特に配慮を要する児童への指導の手立て	
板書計画の立案	
本時の指導と児童の学習についての評価	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と課題)	

活動シート①における評価の視点

交通安全に関して命の大切さを踏まえて判断し、それを基に行動しようとしている

道徳的実践活動2の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力
- 関連する価値 公德心、規則の尊重【低・中学年4-(1)】 公德心、規則の尊重、権利・義務【高学年4-(2)】
- 道徳的実践活動2のねらい
集団行動において、どのように行動することが自他の安全を確保することにつながるか判断し、行動しようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年6月(修学旅行 6年) 7月(生活学校 5年) 10月(遠足 1-4年)

道徳的価値への気付き

学級活動

修学旅行(5月15日)、生活学校(6月20日)、遠足(10月10日)
 本時のねらい: 行程全体における安全上の留意点を把握し、日常の自己理解を基に各自がどのような態度や行動が求められるか考え、めあてを設定させる

主な学習活動	
課題把握	1 遠足・集団宿泊の行事の概要についてとらえる 2 本時の学習課題を設定する 安全な・・・するために、みんなの約束を決めよう
課題追究	3 見学・体験場所について、各グループに担当を決め、その特徴や留意すべき点について話し合う 4 話し合った結果を発表する 5 見学・体験場所の特徴について安全上留意すべきことについて発表された内容について、意見交流をする。 6 発表内容と意見交流を基に、全体での約束を決める 7 本時話し合ったことを振り返り、これまでの自己理解を基にして、各自のめあてを決める(活動シート2に記録する)
まとめ	8 全体での約束を確認し、本時の学習について感想を交流する。

：指導の計画及び準備に関すること
 ：指導の評価とその後の指導に関すること

主な指導と留意点	
活動シート2の準備	
前年度の行事開催に関する反省事項を確認し、本年度の計画に生かす	
公德心や規則の尊重に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動2のねらいと三つの段階のねらいの把握	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策を立てる	
行事の行程や見学場所等についての提示方法の検討	
学年の発達段階に即した課題を設定する	
自己決定及びグループでの話し合いの時間の確保	
意見交流が活発になるための指導・支援策を立案	
本時の学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間の確保	
行事のねらいに沿った個人のめあてが設定されたか	
本時の指導と児童の学習を評価	
各自のめあてを把握することによって、個への指導を検討する	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
活動シート2への振り返りの時間の確保(低学年は学校、中学年以上は家庭で)	
児童の活動の様子から教師の指導の反省をする	
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
資料分析を行う(場面分け、意識の焦点化、発問)	
資料分析と実態把握を基に本時の指導を構想する	
児童にとって考える価値のある発問構成を立てる	
特に配慮を要する児童への指導について計画する	
板書計画と資料の提示の仕方を工夫する	
児童が意欲をもてるような導入における資料提示等の工夫をする	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫をする	
めあてへの振り返らせ方(価値の内面化)を図る手立てを組む	
本時の価値に関しての効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備する	
指導の手立てについて振り返る	
教師自身が進んで心を開いていたか	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動・体験

生活学校、修学旅行、遠足

修学旅行(6月1日~2日)、生活学校(7月5日~7日)、遠足(10月17日)
 本時のねらい: 集団行動において、全体での約束と各自のめあてを意識しながら行事に参加し、安全に関する望ましい態度や習慣を身に付けさせる

流れ: **結団式(前日)** **出発式 出発・移動 見学・体験 移動 帰校式**

指導の重点: 低学年 楽しい遠足にするために、全体での約束事を守ることの大切さをとらえさせる
 中学年 お互いの安全を確保するために、互いに声を掛け合ったりすることの大切さをとらえさせる
 高学年 学校外の方々とのかかわり方や普段とは違う環境の中での安全な態度や習慣について考えさせる

道徳性の高まり

道徳の時間
 (行事終了後~1週間をめどに実施)

本時の指導の方向性: 体験をとおして学んだことの重要性や意義について理解を深め、法や社会のきまりを守るための判断力と態度を育てる

主な学習活動		活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、しおり、作文等への児童の記述内容の紹介 ・めあての達成状況をグラフ化する
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、きまりや約束を守ることが自他の安全につながることを個々の体験と関連付けさせて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、しおり、作文等への記述内容の紹介 ・活動(宿泊)に際しての保護者の思いを手紙で紹介

活動シート2における評価の視点

自他の安全を確保するといった視点において約束やめあての意義を考え、行動しようとしている

道徳的実践活動3の実施計画

- 1 育てる力 規範意識を高める力
- 2 関連する価値 公徳心、規則の尊重【低・中学年4-(1)】 公徳心、規則の尊重、権利・義務【高学年4-(2)】
- 3 道徳的実践活動3のねらい
プールの利用において、どのようにすることが自他の安全を守ることにつながるか判断し、命を大切にしようとする態度を育てる。
- 4 実施期間 平成18年6月8日～30日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

学級活動
6月8日
本時のねらい：「プール利用におけるきまり」を理解し、プールをどのようにして利用したらいいか考えることによって、プール利用のめあてを設定させる

主な学習活動	
課題把握	1 プール開きの概要についてとらえる 2 プール利用についての思いや願いを交流する 3 本時の学習課題を設定する 「プール利用のきまり」はなぜ大切なのだろう
課題追究	4 「プール利用のきまり」を読む 5 「プール利用のきまり」が大切なわけを考える（自己決定） 6 各自の考えをグループで検討する 7 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 8 発表された内容について、意見交流をする 主な視点（けがの防止、衛生面の配慮等） 9 本時話し合ったことを振り返り、各自のめあてを決める（活動シート3に記載する）
まとめ	10 本時の学習について感想を交流する

活動・体験

プールの利用
(6月8日～9月5日)
ねらい：プール開きから数週間、プールを利用することにより、プールの利用に関する自分のめあてについて振り返る機会とし、安全な利用について考えさせる
活動の流れ：プール開き実施計画及び体育の時間と放課後のプールの利用計画に基づいて実施
指導の重点：低学年 めあてを意識しながらプールの利用し、安全面と衛生面に留意したプールの利用ができるようにする
中学年 めあてを意識しながらプールの利用し、互いに声を掛け合いながら安全な利用ができるようにする
高学年 めあてを意識しながらプールの利用し、自他の安全を確保するために、下級生の模範となる利用ができるようにする

道徳性の高まり

道徳の時間
6月30日
本時の指導の方向性：社会のルールやマナーが自分を守ってくれていることをとらえ、法や社会のきまりを守るための判断力と態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、日記等への児童の記述内容の紹介 ・それまでの利用の仕方についての意見交流
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、きまりや約束を守ることが自他のプールの利用における安全につながることを個々の体験と関連付けさせて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、日記等への記述内容の紹介 ・水に関する事件・事故の紹介

主な指導と留意点	
活動シート3の作成	
前年度のプールの利用に関する反省事項を確認し、本年度の計画に生かす	
公徳心や規則の尊重に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動3のねらいと三つの段階のねらいの把握	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
プールの利用に係る職員の共通理解と第三段階道徳の時間の指導略案作成	
プールの開きの概要についての提示方法の検討	
学年の発達段階に即した課題の設定	
「プールの利用のきまり」の提示方法の検討	
自己決定及びグループでの話し合いの時間の確保	
意見交流が活発になるための指導・支援策の検討	
本時の学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間の確保	
本時の指導と児童の学習を評価	
各自のめあてを把握とプールの利用における個々の指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
活動シート3への振り返りの時間の確保（低学年は学校、中学年以上は家庭で）	
児童の活動の様子から教師の指導の反省をする	
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
活動シート3の記録内容を基に児童の実態を把握する	
資料分析を行う（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握を基に本時の指導を構想する	
特に配慮を要する児童への指導について計画する	
板書計画と資料の提示の仕方を工夫する	
児童が意欲を持てるような導入における資料提示等の工夫をする	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫をする	
児童にとって考える価値のある発問構成を立てる	
価値の一般化を図る手立てを組む	
本時の価値について効果的な終末するための体験談や事例紹介を準備する	
指導の手立てについて振り返る	
教師自身が進んで心を開いていたか	
道徳的実践活動のねらいが達成されたか	
道徳的実践活動全体での指導は適切だったか	

活動シート3における評価の視点

プールの利用において、自他の安全を確保するといった視点において行動しようとしている

道徳的実践活動4の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力
- 関連する価値 公徳心、規則の尊重【低・中学年4-(1)】 公徳心、規則の尊重、権利・義務【高学年4-(2)】
- 道徳的実践活動4のねらい
自他の安全を守るために、地震や火災の際の対処の仕方について体験をととして理解させ、現実の場面において実践していこうとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年8月22日～9月1日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

学級活動

8月22日
本時のねらい：地震や火事が起きた場合の状況をとらえさせることによって、安全に避難するための方法を理解させる

主な学習活動	
課題把握	1 これまでの避難訓練での反省点や様子を振り返る 2 本時の学習課題を設定する 地震や火事の際の避難の仕方について考えよう
課題追究	3 地震や火事の際の避難の仕方とその意義について考える（自己決定） 〔地震後の出火という状況の中での行動様式についてとらえる〕 4 各自の考えをグループで検討する 5 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 6 発表された内容について、意見交流をする 主な視点（自らの安全のために、他者の安全のために） 7 避難の仕方についてまとめる 8 本時話し合ったことを振り返り、避難訓練に参加する際の各自のめあてを決める（活動シート4に記録する）
まとめ	9 本時の学習について感想を交流する

活動・体験

避難訓練

8月25日
ねらい：地震後の出火という想定において、事前の学習に基づいて行動し、安全な避難について体験をととして理解させる

流れ：

1 避難	2 校長先生のお話
3 煙の中での避難体験	4 消防署の方々の講評
5 おわりの言葉	

指導の重点：低学年 避難誘導のアナウンスをよく聞き、教師の指示に従って自分の安全を確保しながら避難する
 中学年 二つの災害における避難方法の違いを理解し、自他の安全を確保しながら避難する
 高学年 二つの災害における避難方法の違いを理解し、自他の安全を確保しながら避難する

道徳性の高まり

道徳の時間

9月1日
本時の指導の方向性：社会のルールやマナーが自分を守ってくれていることに気づき、法や決まりを守るうとする態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、日記等への児童の記述内容の紹介 ・きまりや約束に関する意識調査（事前に調査することも）
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、きまりや約束を守ることが災害から自他の安全を守ることにつながることを個々の体験と関連付けさせて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、日記等への記述内容の紹介 ・避難訓練での活動の様子を紹介

主な指導と留意点		✓
活動シート4の準備		
前年度・本年度の避難訓練に関する反省事項を職員で共通確認し、今回の計画に生かす		
公徳心や規則の尊重に関する児童の実態把握（1-3を踏まえて）		
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）		
道徳的実践活動4のねらいと三つの段階のねらいの把握		
予想される児童のめあてを考える		
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案		
第一段階学級活動及び第三段階道徳の時間の指導略案作成		
避難訓練の概要についての提示方法の検討		
学年の発達段階に即した課題の設定		
それまでの避難訓練における児童の反省点を整理し、導入に位置付ける		
自己決定及びグループでの話し合いの時間の確保		
意見交流が活発になるための指導・支援策の検討		
本時の学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間の確保		
本時の指導と児童の学習を評価		
各自のめあてを把握と避難訓練における個への支援策の検討		
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う		
活動シート4への振り返りの時間の確保（低学年は学校、中学年以上は家庭で）		
児童の活動の様子から教師の指導の反省をする		
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす		
活動シート4の記録内容を基に児童の実態を把握する		
資料分析を行う（場面分け、意識の焦点化、発問等）		
資料分析と実態把握を基に本時の指導を構想する		
特に配慮を要する児童への指導について計画する		
板書計画と資料の提示の仕方を工夫する		
児童が意欲をもてるような導入における資料提示等の工夫をする		
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫をする		
児童にとって考える価値のある発問構成を立てる		
価値の一般化を図る手立てを組む		
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介の準備		
指導の手立てについて振り返る		
教師自身が進んで心を開いていたか		
道徳的実践活動のねらいが達成されたか		
道徳的実践活動全体での指導は適切だったか		

活動シート4における評価の視点

地震や火災の際の避難の仕方は、自他の安全を確保するために重要であることに気付き、有事の際に実践しようとしている

道徳的実践活動5の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力
- 関連する価値 勇気【低・中学年1-(3)】 希望、勇気、不撓不屈【高学年1-(2)】
- 道徳的実践活動5のねらい
廊下歩行などのルールを守らなければならない理由をとらえ、自他の安全を守ろうとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年11月27日～12月18日

道徳的価値への気付き

学級活動
11月27日
本時のねらい：廊下歩行に関する児童会の生活目標を受けて、その具現化に向けて、学級としての取組について話し合い、学校生活の充実と向上を目指そうとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 代表委員会から出された生活目標に関する方針について確認する 2 本時の学習課題を設定する 校舎内の生活の仕方について学級の取組を考えよう
課題追究	3 提案された生活目標に関する学級の問題点について確認する 4 学級としてどのように取り組めばいいか、個人で考える（自己決定） 5 各自の考えをグループで検討する 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 7 発表された内容について、意見交流をする 8 学級としての取組を決定する 9 本時話し合ったことを基に、学級の取組に関する各自のめあてを決める（活動シート5に記録する）
まとめ	10 本時の学習について感想を交流する

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

主な指導と留意点	
活動シート5の準備	
廊下歩行に関する現状把握を基にした執行部と協同の原案作成	
勇気（善悪の判断）に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動5と3つの段階のねらいの把握	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
第一段階学級活動と第三段階道徳の時間の指導略案作成	
生活目標についての提示方法の検討（低・教師、中・高 学級代表）	
学年の発達段階に即した課題の吟味	
廊下歩行に関する問題点を把握させるための指導・支援策	
自己決定及びグループでの話し合いの時間確保と指導・支援策	
意見の背景となる考えを大切に交流をさせるための指導・支援策を立てる	
学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間確保と指導・支援策	
本時の指導と児童の学習についての評価	
各自のめあての把握と個への支援策を立てる	
児童の活動状況を把握するための方法と、個に応じた指導の構想	
活動シート5への振り返りの時間の確保（低学年は学校、中学年以上は家庭で）	
児童の活動状況を受けての教師の指導の反省	
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
活動シート5の記録内容を基に児童の実態を把握する	
資料分析（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握に基づいた本時の指導略案の改善	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
板書計画と児童の意欲化を図る資料の提示の仕方工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
価値の一般化を図るための指導の手立て	
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備	
指導の手立てについての振り返り	
教師自身の自己開示	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動・体験

児童会生活目標に向けての取組
12月1日～15日
ねらい：生活目標に向けた学級の取組を基にして、学校生活を充実・向上させようとする態度を育てる
指導の重点：低学年 学級の取組に向けて、教師や上級生からの助言を素直に聞き、善悪を判断して行動しようとする態度を育てる
 中学年 自分のめあてを意識しながら、学級の取組に向けて善悪を判断して行動しようとする態度を育てる
 高学年 生活目標の達成に向けて、下級生の模範となる行動をし、全校的な視野に立って行動しようとする態度を育てる
主な取組の場面： 1 登校後の始業前 2 業間時間 3 昼休み時間
 4 教室移動 5 放課後

特に気を付けさせたい箇所：
1 教室内 2 廊下の角 3 階段 4 ガラス

道徳性の高まり

道徳の時間
12月18日
本時のねらい：社会のルールやマナーが自分を守ってくれていることに気づき、法や決まりを守ろうとする態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方（例）
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・学級の生活目標に対する取り組み方の確認 ・きまりや約束に関する実態調査（事前に調査することも）
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、きまりや約束を守ることが自他の安全を守ることにつながることを個々の体験と関連付けさせて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたためたりして、今後の発展につなげる	・校舎内での事件や事故などの事例紹介 ・取組継続のための意欲化を図る

活動シート5における評価の視点

校舎内での生活の仕方によっては、自他の安全を脅かすことにもつながりかねないことに気付き、みんなのことを考えて行動しようとしている

道徳的実践活動6の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力、自己指導力
- 関連する価値 節度・節制、自立【低・中学年1-(1)】 思慮・反省、節度・節制【高学年1-(1)】
- 道徳的実践活動6のねらい
振り返りカードの活用の仕方を理解させ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年5月8日～5月26日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

5月8日
本時のねらい：振り返りカードの活用の仕方を理解させ、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さに気付かせる

主な学習活動	
課題把握	1 基本的な生活習慣に関する興味・関心を実態調査や事例などを挙げて引き出す 2 本時の学習課題を設定する <u>自分の生活について考えてみよう</u>
課題追究	3 提示された事例について、生活の様子についてとらえる 4 提示された事例について、改善すべき点と思われることを個人で考える（自己決定） 5 各自の考えをグループで検討する（改善点としてとらえた根拠を基に） 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 7 事例を基にして、発表された内容について、意見交流をする 8 「振り返りカード1」の活用の仕方をとらえる 9 本時話し合ったことを基に、基本的な生活習慣に関する各自のめあてを決め、「振り返りカード1」に記入する
まとめ	10 本時の学習について感想を交流する（学級活動シート6に記入）

主な指導と留意点	
振り返りカード・1、活動シート6の準備	
日常の観察や実態調査等を基に、児童の生活習慣について把握する	
節度・節制、自立に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
3つの段階のねらい、展開、指導・支援策	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
児童の興味を引き出す話題提示の方法（実態調査、事例など）	
学年の発達段階に即した課題の吟味	
事例における改善点を把握させるための指導・支援策	
自己決定及びグループでの話し合いの時間確保と指導・支援策	
意見の背景となる考えを大切に交流をさせるための指導・支援策を立てる	
学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間確保と指導・支援策	
本時の指導と児童の学習についての評価	
各自のめあての把握と個への支援策を立てる（家庭との連携も含めて）	
「振り返りカード1」の有効な使い方に関する支援策	
「振り返りカード1」への振り返りの時間の確保	
児童の活動状況を受けての教師の指導の反省	
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
資料分析	
資料分析と実態把握に基づいた本時の指導構想	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
板書計画と資料の提示の仕方の工夫	
児童が意欲をもてるような導入における資料提示等の工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫	
児童にとって考える価値のある発問構成	
めあてへの振り返らせ方（価値の内面化）を図る手立て	
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備	
指導の手立てについての振り返り	
教師自身の自己開示	
道徳的実践活動のねらいが達成されたか	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と課題）	

活動・体験

5月8日～19日
ねらい：めあてに向かって活動させることにより、生活上の問題点を解決することによる満足感をもたせると共に、新たな課題に気付かせる
指導の重点：低学年 家庭との連携を深めることによって、規則正しい生活を送ろうとする態度を育てる
 中学年 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を育てる
 高学年 自分自身の生活習慣について、内省しつつ自ら節度を守って節制に心がけようとする態度を育てる
基本的な生活習慣として取り上げることが考えられる内容：

- あいさつ・洗顔・歯磨き・起床時刻・就寝時刻・朝食・家庭学習・手洗い・排便・読書・運動・その他

道徳性の高まり

5月26日
本時の指導の方向性：自分自身の生活について振り返り、節度を守って、規則正しい生活をしようとする態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・「振り返りカード1」の記述内容の紹介 ・学級全体の集計結果をグラフ等で紹介
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、基本的な生活習慣を身に付けるためにどのようなことが求められるか考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたためたりして、今後の発展につなげる	・個人、各家庭、各学級の効果的な取組の紹介

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、実態把握を基にした日常における個別指導、自分の生活について振り返って考えさせる場の設定、振り返り活動・2での指導・支援、夏休みのくらし、連休のくらし

「振り返りカード・1」における評価の視点

節度を守って生活することの大切さに気付き、自らの課題を克服しようとしている

道徳的実践活動7の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力、自己指導力
- 関連する価値 節度・節制、自立【低・中学年1-(1)】 思慮・反省、節度・節制【高学年1-(1)】
- 道徳的実践活動7のねらい
夏休み後の学校や家庭での生活について関心をもたせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年8月21日～9月6日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

学級活動

8月21日
本時のねらい：夏休み中の生活を振り返り、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さに気付かせ、生活を改善しようとする意欲をもたせる

主な学習活動	
課題把握	1 夏休み中の生活について交流させることにより、本時が「振り返り活動・1」に続く活動に関するものであることをとらえさせる 2 本時の学習課題を設定する 生活を見直そうパート のめあてを決めよう
課題追究	3 課題追究の見直しをもつ 問題点の洗い出し その原因 改善のための方策（めあての決定） 4 夏休み中の生活を振り返って、改善すべき点、その原因、改善のための方策を考える（自己決定） 5 各自の考えをグループで交流する（改善点としてとらえた根拠を基に） 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 7 発表された内容について、意見交流をする 8 本時話し合ったことを基に、基本的な生活習慣に関する各自のめあてを決め、振り返りカード・2に記入する
まとめ	9 本時の学習について感想を交流する（学級活動シート7に記入）

主な指導と留意点		
	「振り返りカード2」、「学級活動シート」の準備	✓
	振り返り活動・1における反省事項を職員で共通確認し、今回の計画に生かす	
	節度・節制、自立に関する児童の実態把握（夏休みの生活、前回の取組などから）	
	児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
	道徳的実践活動7のねらいと三つの段階のねらいの把握	
	予想される児童のめあてを考える	
	特に配慮を要する児童への指導・支援策	
	第一段階学級活動の指導略案の作成と第三段階短学活の構想立案	
	児童の興味を引き出す話題提示の方法（実態調査、事例など）	
	学年の発達段階に即した課題の吟味	
	各自に改善のための方策を把握させるための指導・支援策	
	自己決定及びグループでの話し合いの時間確保と指導・支援策	
	意見の背景となる考えを大切に交流をさせるための指導・支援策	
	学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間確保と指導・支援策	
	本時の指導と児童の学習についての評価	
	各自のめあての把握と個への支援策を立てる（家庭との連携も含めて）	
	基本的な生活習慣として取り組む活動内容の決定	
	「振り返りカード2」への振り返りの時間の確保	
	毎日提出される「振り返りカード2」に目をおし、可能な限りコメントを加えたり、声をかけたりして意欲化を図る	
	一週間経過したところで、前半の取組を整理し、児童及び家庭に対して取組状況を知らせる	
	児童の活動状況を受けての教師の指導の反省	
	児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
	「振り返りカード2」を中心として、今回の取組の成果と課題を明らかにする	
	基本的な生活習慣のさらなる改善に向けて児童の意欲化を図るための事例を選択する	
	事例提示の効果的方法を検討	
	児童の励みになるようなコメントの記入	
	継続的な取組に対する見直しをもたせるための提示方法の検討	
	指導の手立てについての振り返り	
	道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
	道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動・体験

振り返り活動・2

8月21日～9月1日
ねらい：めあてに向かって活動させることにより、生活上の問題点を解決することによる満足感をもたせると共に、新たな課題に気付かせる
指導の重点：低学年 家庭との連携を深めることによって、規則正しい生活を送ろうとする態度を育てる
 中学年 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を育てる
 高学年 自分自身の生活習慣について、内省しつつ自ら節度を守って節制に心がけようとする態度を育てる
基本的な生活習慣として取り上げることが考えられる内容：

・あいさつ 時刻 書	・洗面 朝食 運動	・歯磨き 家庭学習 その他	・起床時刻 ・就寝 ・排便 ・読
------------------	-----------------	---------------------	---------------------------

道徳性の高まり

短学活

9月6日
本時のねらい：基本的な生活習慣に関する自分と友達の間取りの様子を比較してとらえ、生活習慣を改善させようとする態度を育てる

主な学習活動	
1	今回の取組をおとして、改善された事例として顕著なもの、継続して取り組んでいたもの、生活態度として自他共に認めるものなどについて事前を選択し、児童に紹介する（当該学級の事例とは限らない）
2	「振り返りカード2」を配布し、教師によるコメントを各自熟読させ、継続することやさらに改善させることへの意欲をもたせる
3	基本的な生活習慣については、本人のやる気しだいいつでも取り組めること、11月には今年度三回目の取組を行うことなど、今後の見直しをもたせる

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、実態把握を基にした日常における個別指導、自分の生活について振り返って考えさせる場の設定、振り返り活動・2での指導・支援冬休みのくらし、連休のくらし、秋休みのくらし

「振り返りカード・2」における評価の視点

夏休み中の生活習慣を改める必要性に気づき、改善を図ろうとしている

道徳的実践活動 8 の実施計画

- 1 育てる力 規範意識を高める力、自己指導力
- 2 関連する価値 節度・節制、自立【低・中学年1-(1)】 思慮・反省、節度・節制【高学年1-(1)】
- 3 道徳的実践活動 8 のねらい
生活習慣の改善に向けたこれまでの活動を振り返り、より望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。
- 4 実施期間 平成 18 年 11 月 7 日～11 月 22 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

道徳の時間

11月7日
本時の指導の方向性：基本的な生活習慣を身に付けることが望ましいことだと自覚させ、節度ある生活態度や自制心を育む

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・「振り返りカード3」の記述内容の紹介 ・学級全体の集計結果をグラフ等で紹介
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下内に在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、基本的な生活習慣を身に付けるためにどのようなことが求められるか考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたりして、今後の発展につなげる	・個人、各家庭、各学級の効果的な取組の紹介 ・保護者の声紹介

主な指導と留意点		✓
	「振り返りカード3」の作成、準備	
	振り返り活動・2における反省事項を職員で共通確認し、今回の計画に生かす	
	節度・節制、自立に関する児童の実態把握(夏休みの生活、前回の取組などから)	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)		
	道徳的実践活動 8 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
	予想される児童のめあてを考える	
	特に配慮を要する児童への指導・支援策	
	第一段階道徳の時間の指導略案の作成と第三段階短学活の構想立案	
	「振り返りカード3」の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
	資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
	資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
	児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
	特に配慮を要する児童への指導について検討	
	板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫	
	登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
	価値の一般化を図るための指導の手立て	
	終末において道徳的実践活動 8 におけるめあてをもたせるための指導の工夫	
	各自のめあての把握と個への支援策を立てる(家庭との連携も含めて)	
	基本的な生活習慣として取り組む活動内容の決定	
	「振り返りカード3」への振り返りの時間の確保	
	毎日提出される「振り返りカード3」に目をとおり、可能な限りコメントを加えたり、声をかけたりして意欲化を図る	
	一週間経過したところで、前半の取組を整理し、児童及び家庭に対して取組状況を知らせる	
	児童の活動状況を受けての教師の指導の反省	
	児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
	「振り返りカード3」を中心として、今回の取組の成果と課題を明らかにする	
	基本的な生活習慣のさらなる改善に向けて児童の意欲化を図るための事例を選択する	
	事例提示の効果的方法を検討	
	児童の励みになるようなコメントの記入	
	継続的な取組に対する見直しをもたせるための提示方法の検討	
	指導の手立てについての振り返り	
	道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
	道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動・体験

振り返り活動・3

11月7日～11月20日
ねらい：めあてに向かって活動させることにより、生活上の問題点を解決することによる満足感をもたせると共に、新たな課題に気付かせる
指導の重点：低学年 家庭との連携を深めることによって、規則正しい生活を送ろうとする態度を育てる
 中学年 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を育てる
 高学年 自分自身の生活習慣について、内省しつつ自ら節度を守って節制に心がけようとする態度を育てる
基本的な生活習慣として取り上げることが考えられる内容：

・あいさつ ・洗顔 ・歯磨き ・起床時刻 ・就寝時刻
・朝食 ・家庭学習 ・手伝い ・排便 ・読書
・運動 ・その他

道徳性の高まり

短学活

11月22日
本時のねらい：基本的な生活習慣に関する自分と友達の見聞の様子を比較してとらえ、生活習慣を改善させようとする態度を育てる

主な学習活動
1 今回の取組をとおして、改善された事例として顕著なもの、継続して取り組んでいたもの、生活態度として自他共に認めるものなどについて事前を選択し、児童に紹介する(当該学級の事例とは限らない)
2 「振り返りカード3」を配布し、教師によるコメントを各自熟読させ、継続することやさらに改善させることへの意欲をもたせる
3 基本的な生活習慣については、本人のやる気しだいでいつでも取り組めること、冬休み明けには今年度四回目の取組を行うことなど、今後の見直しをもたせる

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、実態把握を基にした日常における個別指導、自分の生活について振り返って考えさせる場の設定、振り返り活動・4での指導・支援冬休みのくらし、自分勝手な行動が見られたときの指導

「振り返りカード・3」における評価の視点

自分の生活習慣上の課題がどのようなことから派生しているか調べ、それを克服するための具体的な手だてを考えている

道徳的実践活動9の実施計画

- 育てる力 規範意識を高める力、自己指導力
- 関連する価値 節度・節制、自立【低・中学年1-(1)】 思慮・反省、節度・節制【高学年1-(1)】
- 道徳的実践活動9のねらい
冬休み後の学校や家庭での生活について関心をもたせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成19年1月18日～2月9日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気づき

学級活動

1月18日
本時のねらい：冬休み中の生活を振り返り、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さに気付かせ、生活を改善しようとする意欲をもたせる

主な学習活動	
課題把握	1 冬休み中の生活について交流させることにより、本時が「振り返り活動・2」と同様の活動であることをとらえさせる 2 本時の学習課題を設定する 生活を見直そうパートのめあてを決めよう
課題追究	3 課題追究の見通しをもつ 問題点の洗い出し その原因 改善のための方策(めあての決定) 4 冬休み中の生活を振り返って、改善すべき点、その原因、改善のための方策を考える(自己決定) 5 各自の考えをグループで交流する(改善点としてとらえた根拠を基に) 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する 7 発表された内容について、意見交流をする 8 本時話合ったことを基に、基本的な生活習慣に関する各自のめあてを決め、「振り返りカード4」に記入する
まとめ	9 本時の学習について感想を交流する(学級活動シート9に記入)

主な指導と留意点	
	「振り返りカード4」「学級活動シート」の準備
	振り返り活動・3における反省事項を職員で共通確認し、今回の計画に生かす
	節度・節制、自立に関する児童の実態把握(夏休みの生活、前回の取組などから)
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
	道徳的実践活動9のねらいと三つの段階のねらいの把握
	予想される児童のめあてを考える
	特に配慮を要する児童への指導・支援策の検討
	第一段階学級活動と第三段階道徳の時間の指導略案作成
	児童の興味を引き出す話題提示の方法(実態調査、事例など)
	学年の発達段階に即した課題の吟味
	各自に改善のための方策を把握させるための指導・支援策
	自己決定及びグループでの話し合いの時間確保と指導・支援策
	意見の背景となる考えを大切に交流をさせるための指導・支援策
	学習を受けて、各自がめあてを設定するための時間確保と指導・支援策
	本時の指導と児童の学習の評価
	各自のめあての把握と個への支援策を立てる(家庭との連携も含めて)
	基本的な生活習慣として取り組む活動内容の決定
	「振り返りカード4」への振り返りの時間の確保
	毎日提出される「振り返りカード4」に目をとおり、可能な限りコメントを加えたり、声をかけたりして意欲化を図る
	一週間経過したところで、前半の取組を整理し、児童及び家庭に対して取組状況を知らせる
	児童の活動状況を受けての教師の指導の反省
	児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす
	「振り返りカード4」の記録内容等を基に児童の実態を把握する
	資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)
	資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善
	児童にとって考える価値のある発問構成の検討
	特に配慮を要する児童への指導について検討
	板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫
	登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫
	価値の一般化を図るための指導の手立て
	本時の価値に関して効果的な終末とするための事例を準備する
	道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)
	道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)

活動・体験

振り返り活動・4

1月18日～1月31日
ねらい：めあてに向かって活動させることにより、生活上の問題点を解決することによる満足感をもたせると共に、新たな課題に気付かせる
指導の重点：低学年 家庭との連携を深めることによって、規則正しい生活を送ろうとする態度を育てる
 中学年 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を育てる
 高学年 自分自身の生活習慣について、内省しつつ自ら節度を守って節制に心がけようとする態度を育てる
基本的な生活習慣として取り上げることが考えられる内容：

・あいさつ ・洗顔 ・歯磨き ・起床時刻 ・就寝時刻
・朝食 ・家庭学習 ・手洗い ・排便 ・読書
・運動 ・その他

道徳性の高まり

道徳の時間

2月9日
本時の指導の方向性：基本的な生活習慣を身に付けることが望ましいことだと自覚させ、節度ある生活態度や自制心を育む

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・「振り返りカード4」の記述内容の紹介 ・学級全体の集計結果をグラフ等で紹介
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、基本的な生活習慣を身に付けるためにどのようなことが求められるか考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたためたりして、今後の発展につなげる	(1年間の取組を振り返って) ・個人、各家庭、各学級の効果的な取組の紹介 ・保護者の声紹介

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、実態把握を基にした日常における個別指導、自分の生活について振り返って考えさせる場の設定、修了式・卒業式における態度指導(春休みのくらし)

「振り返りカード・4」における評価の視点

冬休み中の生活習慣を改める必要性に気づき、改善を図ろうとしている

道徳的実践活動10の実施計画

- 育てる力 自己指導力
- 関連する価値 勤勉・努力【低学年1-(2)】 勤勉・努力、忍耐【中学年1-(3)】 希望、勇気、不撓不屈【高学年1-(2)】
勇気【低学年1-(3)、中学年1-(4)】
- 道徳的実践活動10のねらい
目標に向かって努力する過程において、粘り強くやり遂げようとする態度と困難にあっても自己をコントロールしようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年4月7日～9月25日

道徳的価値への気付き

学級活動

4月7日
本時のねらい：自分の生活や学習について振り返り、その改善を図るためのめあてに向かって努力しようとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 めあてを達成して、満足できた経験や粘り強く取り組んで成果が挙げた例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する 1学期のめあてにひたりのめあてを決めよう
課題追究	3 課題解決の見通しをもつ(解決のための方法について) ・改善点を基にして、がんばれば達成可能な点についてめあてを設定することを 知る 4 各自で改善すべき点を考え、それを基にしてめあてと取組の具体策についても考 える(自己決定) 5 お互いの考えを交流するなどして改善点の把握とめあての設定の仕方についてと らえる 6 発表された内容を基にして、めあてを達成させるために大切なことは何かについ て意見交流をする 7 本時話し合ったことを基に、もう一度自分のめあてと具体策について検討し、記 録する(1～2つ程度)
まとめ	8 本時の学習について感想を交流することにより、めあてを達成させようとする意 欲をもつ

活動・体験

月毎の反省

各月末の一週間
ねらい：月末の一週間をめあてについての振り返り週間に設定し、児童による活動シートへの記録内
容を基に指導を行い、粘り強く取り組もうとする態度を育てる
指導の手順：**振り返り週間において、各自が活動シートや日記などにめあてについて振り返らせ
る**
**児童の記録内容を読み、個々の状況に応じてコメントを加える、個別に面談する、家
庭と連携を図るなどの指導を行う**
価値に結びつく活動や様子について、通信等を活用して広める

道徳の時間

6月16日
ねらい：よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を育てる。

主な学習活動	
導入	1 活動シート10や日記などの記述内容、事例などからねらいとする価値や取り扱う 資料についての構えをつくる
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える
展開後段	4 めあてに向かって粘り強く取り組むためには、どのようにしたらいいのが考える 5 なぜそのように考えるのか根拠を交流し、価値について深める
終末	6 教師の説話や資料の提示によって、めあてに向かって粘り強く努力することの大 切さをとらえる

道徳性の高まり

学級活動

9月25日(活動シート10に1学期にめあてについての反省を記述させ、児童の実態を把握しておく)
本時のねらい：1学期のめあてについての反省を基にして2学期のめあてを設定し、それに向かって粘
り強く取り組もうとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 1学期のめあてについて振り返った活動シート10や日記などの記述内容、粘り強 く取り組んだ事例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する 1学期のめあての反省を基にして、2学期のめあてを考えよう
課題追究	3 課題を解決するための見通しをもつ ・めあてを達成できたあるいは達成できなかった原因が何かを考えることが重要 であることをとらえる 4 自分のめあての達成状況とその原因を考える(自己決定) 5 各自の考えをグループで交流し合う 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する(達成状況と原因の把握について) 7 めあてを達成させるために大切なことは何かについて意見交流をする 8 本時話し合ったことを基に、2学期の自分のめあてと具体策について検討し、記 録する(1～2つ程度)
まとめ	9 本時の課題と本道徳的実践活動にかかわる道徳的価値について振り返る(1・2 年生は本時の課題についてのみ)

主な指導と留意点		V
活動シート10の準備		
勤勉・努力、忍耐等に関する児童の実態把握		
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)		
3つの段階のねらいに基づいた指導の重点のおさえ		
予想される児童のめあてを考える		
特に配慮を要する児童への指導・支援策		
児童の興味を引き出す話題提示の方法(実態調査、事例など)		
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て		
課題に対する見通しをもたせるための手立て		
課題を追究させるための資料提示、話し合いの組織化のための手立て		
めあてを達成させるための具体策を各自にとらえさせるための手立て		
本時の指導と児童の学習についての評価		
特に配慮を要する児童についての家庭との連携		
めあてに向けた児童の活動状況の把握と記録		
自己評価における視点の明示		
児童の励みになるようなコメントの記入		
資料分析と実態把握に基づいた本時の指導構想(意識の焦点化、発問構成)		
板書計画の立案		
児童が意欲をもてるような導入における資料提示等の工夫		
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫		
道徳的価値の自覚を深めるための手立て(価値の理解、価値の内面化、発展)		
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備		
特に配慮を要する児童への指導・支援策		
本時の指導と児童の学習についての評価		
教師自身の自己開示		
児童の興味を引き出す話題提示の方法(記述内容、事例など)		
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て		
課題に対する見通しをもたせるための手立て		
課題を追究させるための資料提示、話し合いの組織化のための手立て		
めあてを達成させるために大切なことをとらえさせるための手立て		
本時の指導と児童の学習についての評価		
道徳的実践活動におけるのねらいの達成状況		
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と課題)		

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シート10の教室掲示、2学期のめあての学級掲示

事後指導

活動シート10における評価の視点 **めあてに向かって活動する過程において、困難にあっても自己をコントロールし、粘り強く努力することの大切さに気付いている**

道徳的実践活動 11 の実施計画

- 育てる力 自己指導力
- 関連する価値 勤勉・努力【低学年 1 -(2)】 勤勉・努力、忍耐【中学年 1 -(3)】 希望、勇気、不撓不屈【高学年 1 -(2)】
勇気【低学年 1 -(3)、中学年 1 -(4)】
- 道徳的実践活動 11 のねらい
1 学期のめあてに向けての取組を振り返らせ、その成果と課題を明らかにし、2 学期のめあてに向かってあきらめず努力し、困難にあっても自分を見失わず立ち向かおうとする態度を育てる。
- 実施期間 平成 18 年 9 月 25 日～平成 19 年 3 月 12 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価と今後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

学級活動
9 月 25 日 (活動シート 10) に 1 学期のめあてについての反省を記述させ、児童の実態を把握しておく)
本時のねらい：1 学期のめあてについての反省を基にして 2 学期のめあてを設定し、それに向かって粘り強く取り組もうとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 1 学期のめあてについて振り返った活動シート 10 や日記などの記述内容、粘り強く取り組んだ事例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する 1 学期のめあての反省を基にして、2 学期のめあてを考えよう
課題追究	3 課題を解決するための見通しをもつ ・めあてを達成できたあるいは達成できなかった原因が何かを考えることが重要であることをとらえる 4 自分のめあての達成状況とその原因を考える (自己決定) 5 各自の考えをグループで交流し合う 6 グループでの話し合いの内容を全体に発表する (達成状況と原因の把握について) 7 めあてを達成させるために大切なことは何かについて意見交流をする 8 本時話合ったことを基に、2 学期の自分のめあてと具体策について検討し、記録する (1～2 つ程度)
まとめ	9 本時の課題と本道徳的実践活動にかかわる道徳的価値について振り返る (1・2 年生は本時の課題についてのみ)

主な指導と留意点	
活動シート 11 の準備	✓
勤勉・努力、忍耐等に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案 (本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動 11 と三つの段階のねらいに基づいた指導の重点のおさえ	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
児童の興味を引き出す話題提示の方法 (記述内容、事例など)	
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て	
課題に対する見通しをもたせるための手立て	
課題を追究させるための資料提示、話し合いの組織化のための手立て	
めあてを達成させるために大切なことをとらえさせるための手立て	
本時の指導と児童の学習についての評価	

活動・体験

月毎の反省
各月末の一週間
ねらい：月末の一週間のめあてについての振り返り週間に設定し、児童による活動シートへの記録内容を基に指導を行い、粘り強く取り組もうとする態度を育てる
指導の手順：**振り返り週間において、各自が活動シートや日記などにめあてについて振り返らせる**
児童の記録内容を読み、個の状況に応じてコメントを加える、個別に面談する、家庭と連携を図るなどの指導を行う
価値に結びつく活動や様子について、通信等を活用して広める

特に配慮を要する児童についての家庭との連携	
めあてに向けた児童の活動状況の把握と記録	
自己評価における視点の明示	
児童の励みになるようなコメントの記入	
特に配慮を要する児童への指導・支援策	
本時の指導と児童の学習についての評価	
教師自身の自己開示	

道徳性の高まり

学級活動
9 月 25 日 (活動シート 11) に 2 学期のめあてについての反省を記述させ、児童の実態を把握しておく)
本時のねらい：2 学期のめあてに向かっての取り組みを振り返って、自己の成果と課題をまとめると共に、お互いのがんばりを認め合せて、新たな目標に向かって努力しようとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 2 学期のめあてについて振り返った活動シート 11 や日記などの記述内容、粘り強く取り組んだ事例などについて知る 2 本時の学習課題を設定する 1 年間のがんばりを認め合おう
課題追究	3 課題を解決するための見通しをもつ ・めあてを達成できたあるいは達成できなかった原因が何かを考えることが重要であることをとらえる 4 自分のめあての達成状況とその原因を考える (自己決定) 5 友達のがんばったところを付箋に書いてわたす 6 友達からもらったメッセージに返事を書く 7 来年度新しい学校・学年でがんばりたいことやその方法などについて考える (活動シート 11 に記録する)
まとめ	8 本時の課題と本道徳的実践活動にかかわる道徳的価値について振り返る (1・2 年生は本時の課題についてのみ)

児童の興味を引き出す話題提示の方法 (記述内容、事例など)	
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て	
課題に対する見通しをもたせるための手立て	
課題を追究させるための資料提示、話し合いの組織化のための手立て	
めあてを達成させるために大切なことをとらえさせるための手立て	
本時の指導と児童の学習についての評価	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握 (反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省 (成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シート 11 の教室掲示、2 学期のめあての学級掲示

活動シート 11 における評価の視点

めあての達成に際して、困難な状況にあってもあきらめず努力しようとしている

道徳的実践活動 12 の実施計画

- 育てる力 自己指導力
- 関連する価値 勤勉・努力【低学年 1-(2)】 勤勉・努力、忍耐【中学年 1-(3)】 希望、勇気、不撓不屈【高学年 1-(2)】
- プール利用の道徳的実践活動におけるねらい
4月からの体力づくり運動に目標をもって取り組み、校内マラソン大会において達成感・充実感をもたせることにより、粘り強く努力していこうとする態度を育てる。
- 実施期間 平成 18 年 10 月 6 日～10 月 20 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前指導

4月から継続的に行う体力づくり運動への意欲化を図る指導（委員会指導、がんばりカードによる取組、積極的に取り組んでいる児童の紹介、歴代記録の紹介等）
試走前後の個別指導（めあての設定と振り返りに対する励まし）
試走及び本番の開催日程等について、警察への連絡

道徳的価値への気付き

10月6日（朝の会 10分）
ねらい：校内マラソン大会の概要を説明し個人のめあてをもたせることにより、目標をもって粘り強く取り組みようとする努力、忍耐、勇気、希望、不撓不屈などの価値に気付かせる
活動の概要：活動時間、活動場所、試走日程、体力づくりの日程等
留意点：
・試走前には個人のめあてをもたせ、試走後の振り返りに対する指導・支援を行う
・試走後の記録については、前年度及び前回の試走との伸びを他人との比較ではなく、個人の成長として認め合える雰囲気作りをめぐる
・試走の際には、1・3・5年生については新しいコースを走ることから、コースをよく知ることも重要な課題としてとらえさせる

活動・体験

校内マラソン大会
10月13日
ねらい：体力づくり及び試走の結果を基にして設定した個人のめあてに向かって競技をし、達成感や充実感もてるような機会とする
活動の流れ：
1 はじめの言葉（教頭）
2 校長先生のお話
3 競技場の注意（体育担当）
4 準備体操
5 競技
6 講評
7 整理体操
8 おわりの言葉（教頭）
留意点：
・異学年同士が同じ縦割班の友達を応援できるように、路上コースに出て応援できる体制をとる
・関係機関との連携及び校内体制の整備をし、安全に関して細心の注意を払う

道徳性の高まり

道徳の時間
10月20日
本時の指導の方向性：物事に粘り強く取り組み努力し続けたり、向上心をもって活動したりしようとする態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方（例）
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、マラソンカード、作文等への児童の記述内容の紹介 ・個人めあての達成状況
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、粘り強く努力することの大切さについて、体力づくりと関連付けてとらえさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、マラソンカード、作文等への記述内容の紹介 ・ひたむきに体力づくりに励んでいる友達映像

事後指導

2学期のめあてに向かって取り組むことに関する指導・支援、スポ少活動や課外活動における指導・支援、総合的な学習の時間における自己の生き方について考える際の指導・支援

主な指導と留意点	
活動シート 12 の作成	
前年度の校内マラソン大会に関する反省事項を確認し、本年度の計画に生かす	
勤勉・努力、忍耐、勇気、希望、不撓不屈に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動 12 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
予想される児童のめあてを考える	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
校内マラソン大会に係る職員の間での共通理解と第三段階道徳の時間の指導略案作成	
校内マラソン大会の概要についての提示方法の検討	
各自のめあては適切か（低学年は教師からの提示）	
中学年以上はめあて設定の理由まで考えられているか	
各自のめあてを把握と校内マラソン大会における個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
活動シート 12 への振り返りの時間の確保（低学年は学校、中学年以上は家庭で）	
児童の活動の様子から教師の指導の反省をする	
児童の振り返りの内容を読み、第三段階での指導に生かす	
活動シート 12 の記録内容を基に児童の実態を把握する	
資料分析を行う（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握を基に本時の指導を構想する	
特に配慮を要する児童への指導について計画する	
板書計画と資料の提示の仕方を工夫する	
児童が意欲を持てるような導入における資料提示等の工夫をする	
登場人物の行動や思い・願いに對して共感させるための工夫をする	
児童にとって考える価値のある発問構成を立てる	
価値の一般化を図る手立てを組む	
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備する	
指導の手立てについて振り返る	
教師自身が進んで心を開いていたか	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動シート 12 における評価の視点

校内マラソン大会に向けて、自分の目標をもって体力づくりに取り組み、粘り強く努力することの大切さに気付いている

道徳的実践活動 13 の実施計画

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 友情・信頼、助け合い【2-(3)】
- 道徳的実践活動 13 のねらい
5月の班編成を受けて、楽しい縦割遊びにするために、どのように行動することが大切かを考え、行動する過程をとおして相互理解を深めさせる。
- 実施期間 平成 18年 5月 29日～6月 22日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備

5月中旬において縦割班を編成する（配慮事項：兄弟関係、リーダー性、男女割、特別な配慮を要する児童、昨年度の班編成等）
班編成の手順（班編成に係る方針の決定 班員数・男女割の決定 6年生～1年生へ 方針に基づいた編成になっているか確認）
高学年が中心となって、班長及び副班長を決定しておく
約束事の内容とその根拠を高学年が中心となって事前に検討し、低学年にもわかりやすい説明ができるようにしておく

道徳的価値への気付き

5月29日（顔合わせ会 20分）
活動のねらい：縦割班の班員を覚え、楽しい縦割遊びにするための班の約束と一人一人のめあてを決定させる
活動内容： 班員・活動内容・時間帯・活動場所の確認
約束と一人一人のめあての決定
約束と一人一人のめあての確認
留意事項： 班員・並び方を事前に提示する
短時間で実施可能なゲームなどを準備し、緊張感を解くような配慮をする

活動・体験

縦割遊び（30分）
6月1日～6月21日（昼休み）
活動のねらい：リーダーの指示に従って班毎に遊ぶ体験をするなかで、班の約束や一人一人のめあてを意識したり、活動後に振り返ったりすることにより、班員みんなが楽しく遊ぶために、一人一人がどのように活動すべきかという意識をもたせる
進め方： あいさつ リーダーからの活動内容説明 活動 活動反省（日記等における振り返り）
活動の重点：低学年 リーダーの話をよく聞き、約束やめあてを意識しながら活動する
中学年 リーダーの指示に従って、低学年のお手本となって活動する
高学年 班員の健康・安全面にも留意しながら、全体を掌握するといった意識をもって活動する
振り返りの記録：低学年 『心のノート』P42、43
中・高学年 活動シート 13
【参考 『心のノート』（中学年 P38～45、高学年 P46～53）】

道徳性の高まり

道徳の時間
（6月22日 道徳的実践活動 14の第一段階も兼ねる）
本時の指導の方向性：縦割遊びを振り返り、友情と信頼を深め、進んで助けて活動していこうとする意欲を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方（例）
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、日記、作文等への児童の記述内容の紹介 ・縦割遊びの思い出を交流する
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・選択した資料によっては、友達と楽しく活動するために、大切にしたい信頼や助け合いについて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、日記、作文等への記述内容の紹介 ・楽しい縦割遊びの映像 ・個々の児童が次の活動へのめあてを考える時間の確保

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シートの教室掲示、七夕集会の諸準備における活動の際の指導、児童間のトラブル（けんか、仲間はずれ）が発生した際の指導、学級として取り組む活動における指導

主な指導と留意点	
活動シート 13、14の準備	
前年度の縦割活動に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
友情・信頼、助け合いに関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動 13のねらいと三つの段階のねらいの把握	
顔合わせ会の実施計画の作成と担当委員会への指導	
縦割遊び実施計画の作成（静止画・動画による記録担当決定も含む）	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
高学年リーダーの打ち合わせ（組織と原案）	
予想される班の約束と一人一人のめあてを考える	
各学年における顔合わせ会の概要説明（ねらい・内容・留意事項等）	
各自のめあては適切か（関連する価値にかかわるものになっているか）	
中学年以上はめあて設定の理由まで考えられているか	
各班の縦割遊び計画に対するリーダー指導（内容・進め方、安全対策等）	
縦割遊びの概要説明（時間、場所、進め方等）	
縦割遊びにおける教師の観察と一人一人の振り返りを見取る計画	
活動シート 13への振り返りの時間の確保	
各自のめあての把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
児童の活動の様子を見取り、時中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 13の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
めあてへの振り返らせ方（価値の内面化）を図る手立て	
終末において道徳的実践活動 14におけるめあてをもたせるための指導の工夫	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と課題）	

活動シート 13 における評価の視点

楽しく縦割遊びをすることによって、お互いのよさに気付いている

道徳的実践活動 14 の実施計画

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 友情・信頼、助け合い【2-(3)】
- 道徳的実践活動 14 のねらい
縦割遊びで深めた自己理解と相互理解を基に、七夕飾り作りに取り組みさせることによって、お互いの信頼と友情を深めさせる。
- 実施期間 平成 18 年 6 月 22 日～7 月 14 日

事前準備

七夕集会実施計画の立案と担当委員会への指導
七夕集会の諸準備に係る必要な物品等の発注・準備
必要な道具等についての児童及び保護者への連絡（通信等）

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気づき

道徳の時間
(6月22日 道徳的実践活動 13 の第三段階も兼ねる)
本時の指導の方向性：縦割遊びを振り返り、友情と信頼を深め、進んで助け合
って活動していこうとする意欲をもたせる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、日記、作文等への児童の記述内容の紹介 ・縦割遊びの思い出を交流する
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであらうことに気付かせる	・選択した資料によっては、友達と楽しく活動するために、大切にしたい信頼や助け合いについて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、日記、作文等への記述内容の紹介 ・楽しい縦割遊びの映像 ・個々の児童が次の活動へのめあてを考える時間の確保

主な指導と留意点	
活動シート 14 の改善	
前年度の七夕集会に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
友情・信頼、助け合いに関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動 14 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
七夕集会の実施計画（教職員の分担についても含む）の作成と担当委員会への指導	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
（「道徳的実践活動 13 の実施計画書」参照のこと）	
各自のめあては適切か（関連する価値にかかわるものになっているか）	
中学年以上はめあて設定の理由まで考えられているか	
各班の七夕集会計画に関するリーダー指導（内容、進め方、安全対策等）	
各学級における七夕集会の概要説明（時間、場所、進め方等）	
七夕集会における教師の観察と一人一人の振り返りを見取る計画	
活動シート 14 への振り返りの時間の確保	
各自のめあての把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 14 の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方を工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
めあてへの振り返らせ方（価値の内面化）を図る手立て	
終末において道徳的実践活動 14 におけるめあてをもたせるための指導の工夫	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動・体験

七夕集会

7月5日（3・4校時）
活動のねらい：縦割遊びで深めた相互理解を基にし、七夕集会とそれに向けての活動をとおして、自分自身や友達の良さに気付く
進め方：七夕飾り作り（月日～月日）
活動前に本集会に向けての班のめあてを設定させる
当日 あいさつ リーダーからの活動内容説明 活動 活動反省（日記等における振り返り）
活動の重点：低学年 リーダーの話をよく聞き、約束やめあてを意識しながら活動する
中学年 リーダーの指示に従って、低学年のお手本となって活動する
高学年 班員の一人一人の思いや願いを受け止め、みんなが満足できる活動のあり方を考えながら活動する
振り返りの記録：低学年 『心のノート』P42、43
中・高学年 活動シート 14
【参考 『心のノート』（中学年 P38～45、高学年 P46～53）】

道徳性の高まり

道徳の時間
(7月14日)
本時の指導の方向性：七夕集会とそれに向けての活動を振り返り、友情と信頼を深め、進んで助け合って活動していこうとする態度を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方(例)
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・活動シート、日記、作文等への児童の記述内容の紹介 ・七夕飾り作りでの思い出を交流する
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであらうことに気付かせる	・選択した資料によっては、友達と楽しく活動するために、大切にしたい信頼や助け合いについて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・活動シート、日記、作文等への記述内容の紹介 ・楽しい七夕の映像 ・個々の児童が次の活動へのめあてを考える時間の確保

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シートの教室掲示、縦割給食・縦割清掃における指導、児童間のトラブル（けんか、仲間はずれ）が発生した際の指導、学級として取り組む活動における指導

活動シート 14 における評価の視点

共同作業をとおして相互を理解し、信頼を深めている

道徳的実践活動15の実施計画

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 友情・信頼、助け合い【2-(3)】
- 3 道徳的実践活動15のねらい
それまでの相互理解と信頼関係を基にして清掃活動に取り組み、お互いのよさを再発見することとおして、信頼と友情を深め、協力して活動しようとする態度を育てる。
- 4 実施期間 平成18年8月23日～12月4日

事前準備

縦割班における人間関係、活動状況の把握（特に留意すべき班はないか）
8月～3月までの清掃分担（複数の種別の場所を分担しているか）
各清掃区域の清掃の仕方をわかりやすく提示する
リーダー指導の機会の確保、及び教員の指導体制の整備
縦割清掃実施のねらいや進め方に関する保護者への連絡（通信等）

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

8月23日（全体打ち合わせ会 20分）
活動のねらい：清掃の仕方などについて理解させ、高学年リーダーを中心として、力を合わせて清掃に取り組もうとする意欲をもたせる
活動内容：清掃時間・清掃場所・清掃の仕方と分担を理解する
班の約束と一人一人のめあての決定
班の約束と一人一人のめあての確認
留意事項：縦割班ごとの整列の仕方を事前に提示する
各班の教職員は、話合いの進め方や低学年児童及び特に配慮を要する児童に対する指導を行う

活動・体験

縦割清掃
8月23日～3月（13：35～13：55）
活動のねらい：縦割清掃活動とおして、自分自身や友達の様々な面に気付くと共に、各清掃区域をきれいにするために、助け合って活動することの大切さに気付かせる
進め方：あいさつ リーダーからの清掃分担説明 清掃活動 活動反省
（日記や『心のノート』等における振り返り）
指導の重点：低学年 リーダーの話をよく聞き、約束やめあてを意識しながら自分の分担に責任をもとうとする態度を育てる
中学年 リーダーの指示をよく聞き、約束やめあてを意識しながら自分の分担に責任をもとうとする態度を育てる
高学年 班員の一人一人の個性や思い・願いを受け止め、充実した清掃活動にするために、協力して活動していこうとする態度を育てる
振り返りの記録：活動シート15
【参考 『心のノート』（低学年P42～43、中学年P38～45、高学年P46～53）】

道徳性の高まり

学級活動
12月4日
本時のねらい：縦割清掃活動とおして得た正しい清掃の仕方や自己理解、相互理解を基にして、協力して清掃活動に取り組もうとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 自分の班員のいいところを「いいとこさがしカード」に記入し、学級みんなに紹介することによって、縦割清掃活動に関する学習であることをとらえる 2 本時の学習課題を設定する 縦割清掃をパワーアップさせよう
課題追究	3 課題解決の見通しをもつ（人・物・事とのかかわりを中心として） ・ 縦割清掃を行ってきて、うまくいかない点、いやだったこと、困っていることなどについて交流する（『心のノート』や活動シート15の記述内容を参考にして） 4 課題を解決する 清掃活動本来の目的を達成させるために、友達と助け合う・協力するということがどういふことか考える（自己決定） お互いの考えを交流することによって、具体的な場面を想定しながら課題を解決する（集団解決） 5 本時話合ったことを基に、3月までの縦割清掃における自分のめあてと具体策について検討し、記録する（1～2つ程度）
まとめ	6 本時の学習について感想を交流することにより、めあてを達成させようとする意欲をもち、チャレンジランキング大会に向けてのめあてをもつ（他学年からの「いいとこさがしカード」の活用も考えられる）

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シートの教室掲示、縦割活動における指導、児童間のトラブル（けんか、仲間はずれ）が発生した際の指導、学級として取り組む活動における指導

主な指導と留意点	
活動シート15、「いいとこさがしカード」の作成	
前年度の縦割清掃に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
友情・信頼、助け合いに関する児童の実態把握（13、14の様子）	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動15のねらいと三つの段階のねらいの把握	
縦割清掃の実施計画（教職員の分担についても含む）の作成と担当委員会への指導	
第三段階学級活動の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
高学年リーダーの打ち合わせ（価値に結びつく約束事が考えられているか）	
予想される一人一人のめあてを考える	
各自のめあては適切か（関連する価値にかかわるものになっているか）	
中学年以上はめあて設定の理由まで考えられているか	
清掃の仕方や留意点に関するリーダー指導（内容、進め方、安全対策等）	
各学級における縦割清掃の概要説明（時間、場所、進め方等）	
縦割清掃における教師の観察（清掃担当との連携や動画・静止画による記録体制）	
『心のノート』や活動シート15への振り返りの時間の確保とその生かし方の計画	
各自のめあての把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う（活動シートへのコメント・励まし等）	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
児童の興味を引き出す話題提示の方法（記述内容、事例、映像など）	
縦割清掃を進める上での基本的な信頼感を支える班員のよさを認め合わせる	
児童の実態に応じた課題設定と課題を把握させるための手立て	
縦割清掃を進める上でその学年の児童が抱えている悩みなどに応える課題を設定する	
課題に対する見通しをもたせるための手立て	
班員、掃除用具・掃除場所、掃除の仕方などに関して問題点をとらえさせる	
課題を追究させるための資料提示、話合いの組織化のための手立て	
本時の指導と児童の学習についての評価	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動シート15における評価の視点

共同作業とおしてお互いのよさを再発見し、協力して活動しようとしている

道徳的実践活動16の実施計画

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 友情・信頼、助け合い【2-(3)】
- 道徳的実践活動16のねらい
それまでの相互理解と信頼関係を基にして班の勝利に向かって活動させることによって、友情や信頼感を深めさせる。
- 実施期間 平成18年12月4日～12月15日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前指導

縦割班における人間関係、活動状況の把握（特に留意すべき班はないか）
チャレンジランキング大会（児童会行事）に関する指導計画の立案
主催委員会への指導
チャレンジランキング大会のねらいや進め方に関する保護者への連絡（通信等）

主な指導と留意点	
活動シート16の作成	
前年度のチャレンジランキング大会に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
友情・信頼、助け合いに関する児童の実態把握（18-15の様子）	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案（本道徳的実践活動の全体構想）	
道徳的実践活動16のねらいと三つの段階のねらいの把握	
チャレンジランキング大会の実施計画（教職員の分担についても含む）の作成と担当委員会への指導	
第三段階学級活動の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	

道徳的価値への気付き

学級活動（道徳的実践活動15と同じ）

12月4日
本時のねらい：縦割清掃活動をととして得た正しい清掃の仕方や自己理解、相互理解を基にして、協力して清掃活動に取り組もうとする態度を育てる

主な学習活動	
課題把握	1 自分の班員のいいところを「いいとこさがしカード」に記入し、学級のみんなに紹介することによって、縦割清掃活動に関する学習であることをとらえる 2 本時の学習課題を設定する <u>縦割清掃をパワーアップさせよう</u>
課題追究	3 課題解決の見通しをもつ（人・物・事とのかかわりを中心として） ・ 縦割清掃を行ってきて、うまくいかない点、いやだったこと、困っていることなどについて交流する（『心のノート』や活動シート16の記述内容を参考にして） 4 課題を解決する 清掃活動本来の目的を達成させるために、友達と助け合う・協力するということはどういうことか考える（自己決定） お互いの考えを交流することによって、具体的な場面を想定しながら課題を解決する（集団解決） 5 本時話合ったことを基に、3月までの縦割清掃における自分のめあてと具体策について検討し、記録する（1～2つ程度）
まとめ	6 本時の学習について感想を交流することにより、めあてを達成させようとする意欲をもち、チャレンジランキング大会に向けてのめあてをもつ（他学年からの「いいとこさがしカード」の活用も考えられる）

（学級活動については、15-参照）

チャレンジランキング大会における教師の観察（清掃担当との連携や動画・静止画による記録体制）	
『心のノート』や活動シート16への振り返りの時間の確保とその生かし方の計画	
各自のめあての把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う（活動シートへのコメント・励まし等）	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	

活動・体験

チャレンジランキング大会（児童会行事）

12月14日（3・4校時）

活動のねらい：班の勝利に向けて設定した助け合いに関するめあてに向かって、事前練習や大会当日の競技に臨み、協力することの大切さを体験をととしてとらえさせる

活動の進め方：児童会の実施計画による

指導の重点：これまでの縦割遊び、七夕集会、縦割清掃などをととして得た班員に対する理解や信頼感を基にして、助け合うことができる

振り返りの記録：活動シート16
【参考 『心のノート』（低学年P42～43、中学年P38～45、高学年P46～53）】

活動シート16の記録内容を基に児童の実態を把握する	
資料分析を行う（場面分け、意識の焦点化、発問等）	
資料分析と実態把握を基に本時の指導を構想する	
特に配慮を要する児童への指導について計画する	
板書計画と資料の提示の仕方を工夫する	
児童が意欲をもてるような導入における資料提示等の工夫をする	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための工夫をする	
児童にとって考える価値のある発問構成を立てる	
価値の一般化を図る手立てを組む	
本時の価値について効果的な終末とするための体験談や事例紹介を準備する	
指導の手立てについて振り返る	
教師自身が進んで心を開いていたか	

道徳性の高まり

道徳の時間

12月15日
本時の指導の方向性：これまでの活動や生活を基にして、友達の気持ちや立場を理解し、助け合っていくとする心情を育てる

	主な学習活動	活動・体験の生かし方（例）
導入	1 価値あるいは資料への方向付けをする	・ 活動シート、日記、作文等への児童の記述内容の紹介 ・ 練習、本番での思い出を交流する
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、登場人物の心情を考える	
展開後段	4 資料で学んだ価値が自分の生活の現在及び将来にわたって、様々な場面や状況下に内在していること、あるいは、あるであろうことに気付かせる	・ 選択した資料によっては、友達と楽しく活動するために、大切にしたい信頼、助け合い、磨き合いについて考えさせる
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、あたたためたりして、今後の発展につなげる	・ 活動シート、日記、作文等への記述内容の紹介 ・ 練習及び本番での映像

事後指導

児童の学習成果を通信で家庭に紹介、活動シートの教室掲示、縦割清掃における指導、児童間のトラブル（けんか、仲間はずれ）が発生した際の指導、学級として取り組む活動における指導

道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握（反省用紙に記入）	
道徳的実践活動全体での指導反省（成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入）	

活動シート16における評価の視点

相互理解と信頼関係を基にして、協力して活動しようとしている

道徳的実践活動17の実施計画 (3年生)

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 思いやり・親切【2-(2)】
- 道徳的実践活動17のねらい
福祉に関する課題を追究することによって、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心をもって、親切にしようとする心情を育てる。
- 実施期間 平成18年6月5日～6月27日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備

単元指導計画、評価計画の作成
児童の情報活用に係るリテラシーの把握と情報活用方法 関係機関との連絡調整
アイマスク・白杖体験のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

道徳的価値への気付き

総合的な学習の時間

6月5日(3・4校時)
単元名：福祉の町石鳥谷 ～目の不自由な人について～
指導計画：1 課題に出会う段階
(1)目の不自由な人のことについて、知っていることを話そう
2 課題をいただく段階
(2)目の不自由な人の様子や思い・願いを調べる計画を立てる
(3)第一次調査を行い、課題を設定する(本時)
活動のねらい：目の不自由な人の生活について第一次調査をすることにより、単元をとあしめての課題を設定させる
指導上の留意点：
・目の不自由な人とかかわりについて考えることが本単元のポイントであることをとらえさせ、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験

アイマスク・白杖体験(総合)

6月13日(3・4校時)
指導計画：3 活動・体験する段階
(4)アイマスク・白杖体験の準備をする
(5)アイマスク・白杖体験をする(本時)
活動のねらい：アイマスクや白杖、特殊めがねなどを使って、目の不自由な人の立場を体験することにより、課題を追究させる
指導上の留意点：
・ご指導して下さる方へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点を理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート17に記録を取らせる
・体験を通じて感じたことや思ったことは、感想文として活動後に記録をさせる

道徳性の高まり

道徳の時間

6月27日
主題名：わたしたちができることは 資料名：「耳をおいてでかけられますか？」
本時のねらい：思いやることの意味を理解し、相手のことを考えて、温かい心で接する態度を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート17の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、思いやり・親切に関する価値について学習することをとらえる
展開段階	2 資料を読み、あらすじをとらえる
	3 場面展開に沿って、「えり」さんの心情を考える (空欄になっている母の会話文を考えさせることで、想像させる) (1)「・・・耳をおいてでかけられますか」と聞いた場面 (2)レストランでいやな顔をされた場面 (3)聴導犬について宣伝してほしいと言った場面
	4 聴導犬のことをみんなに知ってもらうためにどうしたらいいか考える 5 思いやりをもって親切にすることとはどういうことか考える
終末	6 教師の説話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら思いやり・親切について具体例からとらえる(参考「心のノート」P38～41)

事後指導

まとめる段階における発表内容の整理、お年よりとの交流活動(宝寿荘訪問) 児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導、縦割清掃における低学年のお世話

主な指導と留意点	
活動シート17の作成	
前年度の福祉体験活動に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
思いやり・親切に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動17のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員との協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導路案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート17への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、時中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート17の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導路案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方を工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート17における評価の視点

視覚障害者が日常生活を送る上で、どのような思いや願いをもっているか感じ、自分なりにできることを考えている

道徳的実践活動18の実施計画 (5年生)

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 思いやり・親切【2 - (2)】
- 3 道徳的実践活動18のねらい
福祉施設における共通の作業体験をとおして、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心情を育てる。
- 4 実施期間 平成18年7月10日～7月19日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備

単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態把握 ルンビニー苑担当者との連絡調整
ルンビニー苑作業体験のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

道徳的価値への気づき

総合的な学習の時間
7月10日(3・4校時)
単元名：ルンビニー交流をしよう(30)
指導計画：1 問題に出会う段階(2)
(1)ルンビニー学園、ルンビニー苑について知っていることを発表し合う(1,2/30)
2 課題をいだく(4)
(1)ルンビニー交流全体の課題を立てる(3,4/30)
(2)ルンビニー交流(奉仕作業)の課題を立てる(5,6/30 本時)
活動のねらい：障害のある方々との接し方について理解を深めるために、具体的な課題とそれに向けためあてを設定させる
指導上の留意点：
・障害のある方々のかかわりについて考えることが本単元のポイントであることをとらえさせ、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験

ルンビニー苑作業体験(総合)
7月11日(3・4校時)
指導計画：3 活動・体験する(4)
(1)ルンビニー交流(奉仕作業)の計画、準備をする(7,8/30)
(2)ルンビニー交流をする(9,10/30 本時)
活動のねらい：ルンビニー苑の様子を観察したり、作業体験を行ったりすることをおして、障害をもった方々との接し方に関するめあてをもって、課題を追究させる
指導上の留意点：
・入所されている方と職員の方々へのあいさつやマナーについて理解させる
・安全上の留意点を理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート18に記録を取らせる

道徳性の高まり

道徳の時間
7月19日
主題名：温かな心 資料名：「人の心にふれて」
本時のねらい：だれに対しても温かな心もち、相手の立場にたって親切に接していこうとする心情を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート18の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、思いやり・親切に関する価値について学習することをとらえる
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、「ばく」の心情を考える (1)おばあさんのまき運びを手伝おうとしたときの思い (2)おばあさんから感謝されたときの思い (3)おばあさんの家族の行動に対する思い (4)心とはざやくの態度をとってしまう自分に対する思い
展開後段	4 これまでの総合的な学習の時間等での活動・体験を基に振り返る 思いやりの心を迷うことなく行えるようになるには、どうすることが大切なのか考える
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら尊敬・感謝について具体例からとらえる(参考「心のノート」P54～57)

事後指導

総合の「学習のまとめ」(11,12/30)段階における文章への記述及びルンビニー交流における課題設定への指導・支援(自己のあり方・生き方に関して)
児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導
行事における支え合いや助け合いの活動における指導

主な指導と留意点	
活動シート18の作成	
前年度のルンビニー訪問に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
思いやり・親切に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動18のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート18への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート18の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート18における評価の視点

協同作業により、障害をもった方々の思いや願いに気づき、思いやりをもって接しようとしている

道徳的実践活動 19 の実施計画 (5年生)

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 思いやり・親切【2 - (2)】
- 3 道徳的実践活動 19 のねらい
福祉施設の方々との共通体験をととして、様々な方々の思いや願いを感じ取り、思いやりの心情を育てる。
- 4 実施期間 平成 18 年 9 月 5 日 ~ 9 月 15 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備
単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態とルンビニー交流 における児童の振り返り内容の把握
ルンビニー交流担当者との連絡調整
ルンビニー交流 のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

道徳的価値への気付き
総合的な学習の時間
9月5日(3・4校時)
単元名：ルンビニー交流をしよう(30)
指導計画：1 課題をいなく段階(1)
(1)ルンビニー交流 (ウォークラリー)の課題を立てる(13/30 本時)
活動のねらい：ルンビニー交流 の反省を基にして、障害のある方々とウォークラリーをする際にどのように接したらいいか考え課題を設定させる
指導上の留意点：
・ルンビニー交流 における体験とその反省を基にして、新たな課題設定をさせる
・今回の交流はウォークラリーであることをとらえ、その際に障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかを考えることにより、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験
(総合)
9月11日(3・4校時)
指導計画：3 活動・体験する(4)
(1)ルンビニー交流 (ウォークラリー)の計画、準備をする(14,15/30)
(2)ルンビニー交流 をする(16,17/30 本時)
活動のねらい：障害をもった方々と共にウォークラリーを行い、障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかということに関するめあてをもって、課題を追究させる
指導上の留意点：
・入所されている方と職員の方々へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点と有事の際の対処方法について理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート 19 に記録を取らせる

道徳性の高まり
道徳の時間
9月15日
主題名：心の温かさにふれて 資料名：「思いもよらぬできごと」
本時のねらい：だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート 19 の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、思いやり・親切に関する価値について学習することをとらえる
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、「わたし」の心情を考える (1)もたついているおばあさんを見たときの思い (2)おばあさんからもらった袋を開けたときの思い (3)おばあさんを「すばらしい方」だと感じたときの思い
展開後段	4 これまでの総合的な学習の時間等での活動・体験を基に振り返る 思いやりの心をもって、人に親切にすることはどういうことなのか考える
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら尊敬・感謝について具体例からとらえる(参考「心のノート」P54-57)

事後指導
総合の「学習のまとめ」段階における文章への記述及びルンビニー交流 における課題設定への指導・支援(自己のあり方・生き方に関して)
児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導
行事における支え合いや助け合いの活動における指導

主な指導と留意点	
活動シート 19 の作成	
前年度のウォークラリーに関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
思いやり・親切に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動 19 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究のための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート 19 への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 19 の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方を工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート 19 における評価の視点

共通の体験活動をととして、障害をもった方々の思いや願いを感じ取り、思いやりをもって接しようとしている

道徳的実践活動20の実施計画 (5年生)

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 思いやり・親切【2 - (2)】
- 道徳的実践活動20のねらい
これまで、共に活動してきたことを振り返らせ、相手に感謝し、思いやりの心をもって親切にしようとする態度を育てる。
- 実施期間 平成18年10月4日～10月16日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備

単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態とルンビニー交流における児童の振り返り内容の把握
ルンビニー交流担当者との連絡調整
ルンビニー交流のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

道徳的価値への気付き

総合的な学習の時間

10月4日(3校時)
単元名：ルンビニー交流をしよう(30)
指導計画：1 課題をいたく段階(1)
(1)ルンビニー交流(旗作り)の課題を立てる(20/30 本時)
活動のねらい：ルンビニー交流の反省を基にして、障害をもった方々を学校に招待して共同作業をする際にどのように接したらいいか考え課題を設定させる
指導上の留意点：
・ルンビニー交流における体験とその反省を基にして、新たな課題設定をさせる
・学校に招待し協同して旗作りに取り組む際に、障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかを考えることにより、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験

(総合)

10月11日(3・4校時)
指導計画：3 活動・体験する(4)
(1)ルンビニー交流(旗作り)の計画、準備をする(21,22/30)
(2)ルンビニー交流をする(23,24/30 本時)
活動のねらい：障害をもった方々と共に旗作りを行い、障害をもった方々の思いを感じ取り、どのように接したらいいかということに関するめあてをもって、課題を追究させる
指導上の留意点：
・入所されている方と職員の方々へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点と有事の際の対処方法について理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート20に記録を取らせる

道徳性の高まり

道徳の時間

10月16日
主題名：困った人の身になって 資料名：「くずれ落ちたダンボール箱」
本時のねらい：困っている人を見たときは、その人の身になって考え、親切にしようとする態度を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート20の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、思いやり・親切に関する価値について学習することをとらえる
展開 前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、「わたし」の心情を考える (1)だんボール箱が崩れ落ちたのを見たときの思い (2)だんボール箱を整理すると言ったときの思い (3)校長先生の話を聞いたときの思い
展開 後段	4 これまでの総合的な学習の時間等での活動・体験を基に振り返る 思いやりの心をもって、人に親切にすることとはどういうことなのか考える
終末	5 教師の講話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら思いやり・親切について具体例からとらえる(参考「心のノート」P54～57)

事後指導

総合の「学習のまとめ」段階における文章への記述及びルンビニー交流における課題設定への指導・支援(自己のあり方・生き方に関して)
児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導
行事における支え合いや助け合いの活動における指導

主な指導と留意点

活動シート20の作成	
前年度のウォークラリーに関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
思いやり・親切に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動20のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート20への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート20の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方を工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート20における評価の視点

共通の体験活動をとおり、障害をもった方々の思いや願いを感じ取り、思いやりをもって接しようとしている

道徳的実践活動 21 の実施計画 (3年生)

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 尊敬・感謝【2-(4)】
- 道徳的実践活動 21 のねらい
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などに触れさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる。
- 実施期間 平成 18 年 7 月 3 日～7 月 12 日

事前準備

単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態把握 宝寿荘担当者との連絡調整
宝寿荘訪問のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

: 指導の計画及び準備に関すること
: 指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

総合的な学習の時間

7月3日(3・4校時)
単元名:福祉の町石鳥谷 ~お年よりの交流~
指導計画: 1 問題に出会う段階(1)
(1)お年よりについて、知っていることを話合う(1/1)
2 課題をいただく段階(3)
(2)お年よりの様子や思い・願いを調べる計画を立てる(1/3)
(3)聞き取り調査を基に課題を設定し、交流会の計画を立てる(2,3/3 本時)
活動のねらい: 各自の聞き取り調査を基にして、お年よりのとの交流に関する課題を設定させると共に、交流会の計画を立てさせる
指導上の留意点:
・お年よりののかかわりについて考えることが本単元のポイントであることをとらえさせ、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験

宝寿荘訪問(総合)

7月6日(3・4校時)
指導計画: 3 活動・体験する段階(5)
(4)交流会の準備をする(1,2,3/5)
(5)交流会をする(4,5/5 本時)
活動のねらい: お年よりのとの交流会において、気持ちのいい接し方を考えながらインタビュー活動を行うことにより、課題を追究させる
指導上の留意点:
・お年よりへのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点を理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート 21 に記録を取らせる

道徳性の高まり

道徳の時間

7月12日
主題名: この一日をだれかのために 資料名: 「お父さんのように」
本時のねらい: 日々の生活を支えている身近な人々に感謝し、自分もそうありたいと思う気持ちを育む

主な学習活動	
導入	1 活動シート 21 の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、尊敬・感謝に関する価値について学習することをとらえる
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、「ぼく」の心情を考える (1)お父さんを「ミスター大工」ととらえている思い (2)仕事ばかりしているお父さんについての思い (3)お父さんの生き方に対する思い
展開後段	4 宝寿荘訪問を振り返って、お年よりの生き方について考える 視点 尊敬: 卓越した技能、創造力など 感謝: 地域社会への貢献など
終末	5 教師の話し話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら尊敬・感謝について具体例からとらえる(参考「心のノート」P38~41)

事後指導

「まとめる」段階における体験作文に道徳の時間における学習の成果を生かす
「広げる」段階における、これからの自分の生き方に関して考える材料とする
児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導
縦割清掃における低学年のお世話

主な指導と留意点	
活動シート 21 の作成	
前年度の宝寿荘訪問に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
尊敬・感謝に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動 21 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導路案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート 21 への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 21 の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導路案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート 21 における評価の視点

これまでの生活を支えてきた高齢者の知恵や苦勞について調べ、尊敬や感謝の念をもっている

道徳的実践活動 22 の実施計画 (6年生)

- 育てる力 人間関係を築く力
- 関連する価値 尊敬・感謝【2 - (5)】
- 道徳的実践活動 22 のねらい
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などに触れさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる。
- 実施期間 平成 18 年 7 月 7 日 ~ 7 月 19 日

：指導の計画及び準備に関すること
：指導の評価とその後の指導に関すること

事前準備

単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態把握 いしどりや荘担当者との連絡調整
いしどりや荘訪問のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

道徳的価値への気付き

総合的な学習の時間
7月7日(3・4校時)
単元名：ふれ合い・学び合い・人間愛 ~いしどりや荘の人達と交流しよう~
指導計画：1 問題に出会う段階(7)
(1)キャップハンディ体験をするために事前に簡単なきまりごとを学ぶ(1/7)
(2)バリアフリーについて知る(2/7)
(3)キャップハンディ体験をする(3,4,5/7 本時)
活動のねらい：車いす体験をとおして、高齢者や障害のある方の気持ちを考えて、いしどりや荘を訪問する際の個人のめあてを設定させる
指導上の留意点：
・高齢者や障害のある方とのかかわりについて考えることが本単元のポイントであることをとらえさせ、思いやり・親切の価値に気付かせる

活動・体験

いしどりや荘訪問(総合)
7月11日(3・4校時)
指導計画：
(4)いしどりや荘を訪問し、簡単な奉仕作業を行う(6,7/7)
活動のねらい：いしどりや荘の様子を観察したり、職員の方々のお話を聞いたりすることとおして、世の中のバリアについて学び、誰もが住みやすい街づくりについて考えをもつことができる
指導上の留意点：
・入られている方と職員の方々へのあいさつ・マナーについて理解させる
・安全上の留意点を理解させる
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート 22 に記録を取らせる

道徳性の高まり

道徳の時間
7月19日
主題名：支え合う心 資料名：「ボランティアしあう関係」
本時のねらい：日々の生活が、人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえようとする心情を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート 22 の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、尊敬・感謝に関する価値について学習することをとらえる
展開 中段	2 資料を読み、あらすじをとらえる 3 場面展開に沿って、「わたし」の心情を考える (1)O君から電話をもらったときの思い (2)O君が「ボランティアされているんですよ」と話したときの思い (3)「ちゃんと帰っておいで」と話したときの思い
	4 これまでの総合的な学習の時間を振り返って、支え合いや助け合いについて考える ・障害者と社会福祉協議会 ・障害者と街の人々 ・入所者と職員 ・入所者、職員と奉仕活動をする自分達
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら尊敬・感謝について具体例からとらえる(参考「心のノート」P54~57)

事後指導

総合の「課題をいまだく」段階以降における自分が何をなすべきか考え追及する活動における指導・支援
「広げる」段階における、これからの自分の生き方に関して考える材料とする(障害をもった方々との共生社会の実現に向けて)
児童間のトラブル(けんか、仲間はずれ)が発生した際の指導
行事における支え合いや助け合いの活動における指導

主な指導と留意点	
活動シート 22 の作成	
前年度のいしどりや荘訪問に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
尊敬・感謝に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動 22 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導路案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場面をどのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見直し	
『心のノート』や活動シート 22 への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 22 の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導路案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート 22 における評価の視点

日々の生活や自分が生きていけることへの感謝の念をもち、自分にできることを考えている

道徳的実践活動 23 の実施計画 (4年生)

- 1 育てる力 人間関係を築く力
- 2 関連する価値 尊敬・感謝【2 - (4)】
- 3 道徳的実践活動 23 のねらい
高齢者との共通体験や会話をとおして、高齢者の知恵やそれまでの苦勞などに触れさせ、高齢者に対する尊敬と感謝の心情を育てる。
- 4 実施期間 平成 18 年 10 月 4 日～10 月 16 日

事前準備

単元指導計画、評価計画の確認
4つの能力に係る児童の実態把握 いしどりや荘担当者との連絡調整
一人暮らしのお年よりとの交流のねらいや進め方に関する保護者への連絡(通信等)

: 指導の計画及び準備に関すること
: 指導の評価とその後の指導に関すること

道徳的価値への気付き

総合的な学習の時間

10月4日(3・4校時)
単元名: お年よりとなかよしになるう(30)
指導計画: 1 課題をいまく段階(7)
(1)時代の移り変わりで、より詳しく調べてみたいことを考える(16/30)
(2)調べ方を考える(17,18/30 本時)
活動のねらい: 時代の移り変わりと共にかわってきた生活について高齢者から情報を集める計画を立てることによって、地域の高齢者に対する尊敬と感謝の価値に気付かせる
指導上の留意点:
・一人暮らしのお年よりとの交流会における学習を生かして、それぞれのグループの高齢者を対象とさせる
・地域社会に果たした高齢者の役割や生活の様子について課題を設定させる

活動・体験

一人暮らしのお年よりとの交流(総合)

10月11日
指導計画: 2 活動・体験する
(3)町内の施設等で資料を集める(必要に応じて 休日利用)
(4)お年よりへの聞き取り調査の準備をする(19,20/30)
(5)グループで先方への連絡を取る(休み時間)
(6)取材をする(休日利用)
活動のねらい: 各自の課題を追究することをとおして、お年よりにたいする尊敬と感謝の心情をもたせる
指導上の留意点:
・体験を通じてわかったことや気付いたことを活動シート 23 に記録を取らせる

道徳性の高まり

道徳の時間

10月16日
主題名: みんなのためにつくす人々 資料名: 「あと三十分おくれたら」
本時のねらい: 日々の生活が人々の支え合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえようとする心情を育てる

主な学習活動	
導入	1 活動シート 23 の記述内容や活動・体験における行動場面を基にして、尊敬・感謝に関する価値について学習することをとらえる
展開前段	2 資料を読み、あらすじをとらえる
	3 場面展開に沿って、「正夫」の心情を考える (1)救急隊員を案内するときの思い (2)走り去っていく救急隊員を見送るとき思い (3)翌日新聞記事を読んだときの思い
展開後段	4 これまでの総合的な学習の時間を振り返って、支え合いや助け合いについて考える ・交流した一人暮らしのお年寄りや、地域の高齢者が地域のために果たしてきた役割や生活の様子について想起させ、一般化を図る
終末	5 教師の説話や資料の提示によって、自分の生活を振り返りながら尊敬・感謝について具体例からとらえる(参考「心のノート」P54～57)

事後指導

総合の「まとめる」段階における指導・支援
総合の「広げる」段階におけるこれからのお年よりとのかかわり方や、自分の生き方に対して考えを深める際の指導・支援
社会科の地域社会の学習において、生活を支えてくれている人々に関する学習の際の指導・支援
行事における支え合いや助け合いの活動における指導
自分の祖父母について考える家族愛の価値をとりあげた道徳授業

主な指導と留意点	
活動シート 23 の作成	
前年度のいしどりや荘訪問に関する反省事項を確認し本年度の計画に生かす	
尊敬・感謝に関する児童の実態把握	
児童の実態を踏まえた授業構想の立案(本道徳的実践活動の全体構想)	
道徳的実践活動 23 のねらいと三つの段階のねらいの把握	
活動・体験に係る教職員の協力体制の確認(動画・静止画による記録等)	
第三段階道徳の時間の指導略案作成	
特に配慮を要する児童への指導・支援策の立案	
予想される一人一人の課題を考える	
課題把握及び課題追究するための資料収集	
児童と人・物・事象との出会い場면을どのように進めるか(資料提示等)	
児童の課題を分類整理し、必要であればグループ分けを行う	
活動・体験の概要説明(時間、場所、進め方等)と児童と共に計画を作り上げる見通し	
『心のノート』や活動シート 23 への振り返りの時間の確保	
一人一人の課題の把握と個への指導の検討	
児童の活動の様子を見取り、個に応じた指導を行う(活動シートへのコメント・励まし等)	
児童の活動の様子を見取り、事中・事後において記録をとる	
児童の活動の様子を基にした教師の指導の反省	
活動シート 23 の記録内容等を基に児童の実態を把握する	
資料分析(場面分け、意識の焦点化、発問等)	
資料分析と実態把握を基にした本時の指導略案の改善	
児童にとって考える価値のある発問構成の検討	
特に配慮を要する児童への指導について検討	
板書計画と児童の意欲化を図る資料提示の仕方を工夫	
登場人物の行動や思い・願いに対して共感させるための指導の工夫	
価値の一般化を図る手立て	
道徳的実践活動におけるねらいの達成状況の把握(反省用紙に記入)	
道徳的実践活動全体での指導反省(成果と次年度改善のポイントを反省用紙に記入)	

活動シート 23 における評価の視点

これまでの生活を支えてきた高齢者の知恵や苦勞について調べ、尊敬や感謝の念をもっている